

調査データのトレーサビリティの確認結果

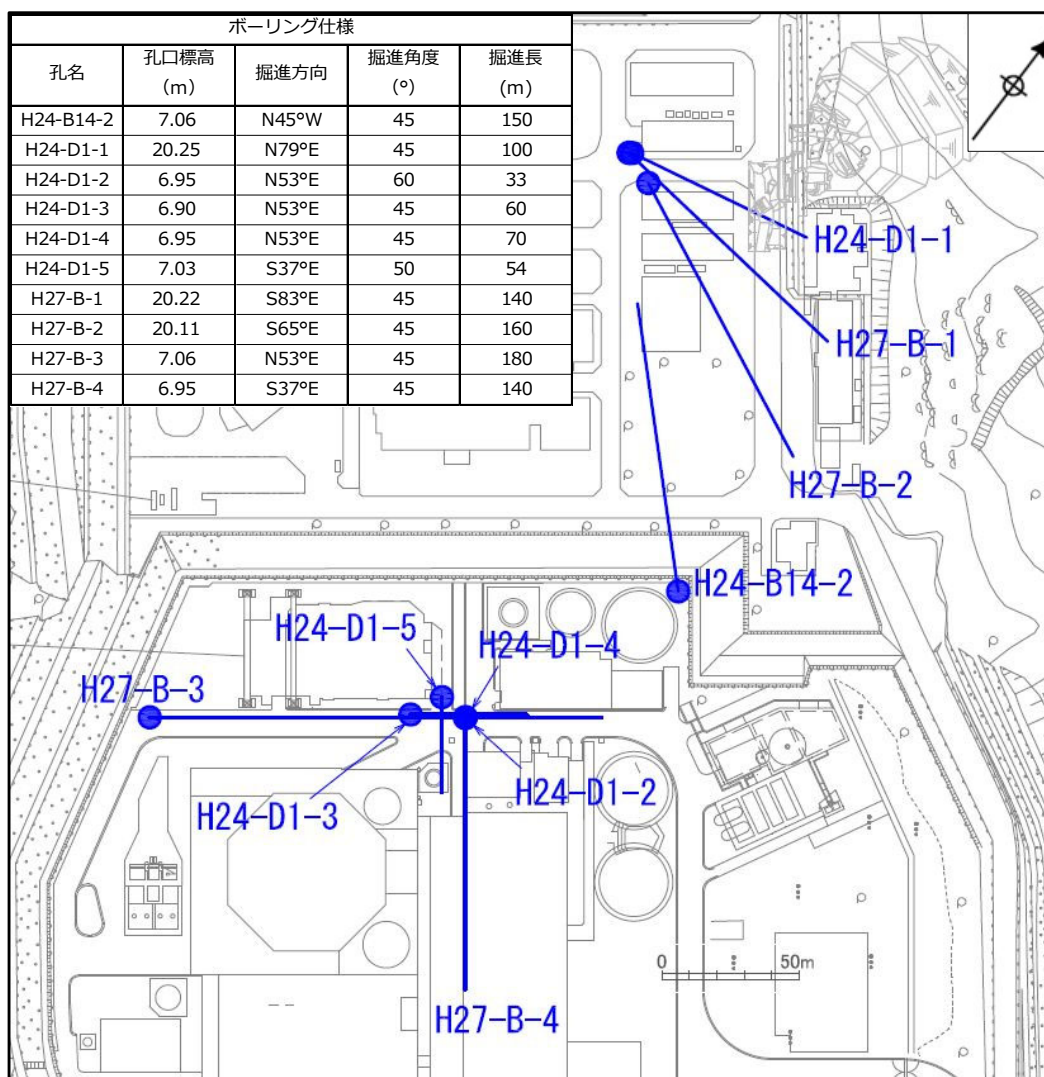
ボーリング柱状図 (技術設計資料柱状図)

令和4年11月25日
日本原子力発電株式会社

余白

目次

ボーリング孔名	頁
H24-D1-1	3-3-5
H27-B-1	3-3-27
H27-B-2	3-3-57
H24-B14-2	3-3-91
H24-D1-3	3-3-123
H24-D1-2	3-3-137
H24-D1-4	3-3-145
H27-B-3	3-3-161
H27-B-4	3-3-199
H24-D1-5	3-3-229



ボーリング調査位置図

余白

H24-D1-1

ボーリング柱状図

ボーリングNo.														
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

ボーリング名	H24-D1-1		調査位置	X:338.353 , Y:1103.283			北緯	35° 45' 19.30"	
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2013年 3月 7日 ~ 2013年 4月 22日		東経	136° 1' 1.43"	
調査業者名	[Redacted]			主任技師	[Redacted]		現代理人	コ定ア者	ボーリング責任者
孔口標高	20.25 m	角			地盤勾配	水平	使用機種		試験機
総掘削長	100.00 m	度			鉛直	0.0°	エンジン		ハンマー落下用具 ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入 (N値~深度) 試験		原位置試験 (孔内空盤等)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
														(N)	値										
1																									
2																									
3																									
4																									
17.19		4.33																							
16.74		4.97																							

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ ノズル	給 回 送 水 量 (L / 分)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)			
														N	値	0	10	20											30	40	50
6	16.40	5.45		コア欠如	にぶい黄橙					4.97~5.45m: スライム 灰黄色粘土からなる泥材と粗粒砂からなる。径10mm以下の黒色砂岩の礫を含む。ルーズである。	0																				
	5.45	6.33								5.45~6.33m: 礫 径30~280mmの硬質な花崗斑岩の亜角礫からなる。半クサリ〜クサリ礫は分布しない。																					50
	6.33	6.59								6.33~6.59m: 砂礫 径2~80mmの花崗斑岩の亜円〜亜角礫の硬質礫と中〜粗粒砂のやや締った基質からなる。礫率は30%前後。所々に未分解で炭化していない草片を含む。																					100
	6.59	6.72								6.59~6.72m: シルト混じり細砂 有機質で径1~2mmの石英、長石、岩片を含む。また、炭化物片や未分解の草片も含む。褐色を呈する。やや締っている。																					
	6.72	6.78								6.72~6.78m: 粘土 傾斜20°、幅40~50mmの灰色粘土で径10mmの硬質な花崗斑岩の岩片を含む。やや締っている。																					
7	15.77	6.33		コア欠如	にぶい黄橙				6.78~7.00m: 粘泥 径5~30mmの花崗斑岩の亜円礫を多く含む。褐色を呈する。ルーズ。	0																					
	6.78	7.00							6.78~7.00m: 粘泥 径5~30mmの花崗斑岩の亜円礫を多く含む。褐色を呈する。ルーズ。																						
	7.00	7.00							7.00~9.48m: スライム 中〜粗粒砂からなる。均質でルーズ。稀に径60mm以下の花崗斑岩の礫を含む。																						
8	15.59	6.59		コア欠如	にぶい黄橙				9.48~10.25m: 砂礫 径2~5mmの石英粒。径5~70mmの花崗斑岩の亜円〜亜角礫とルーズな中〜粗粒砂の基質からなる。礫率は30%前後で大半が硬質礫である。基質は全体にやや赤味を帯びる。	0																					
	6.59	7.00							6.59~6.72m: シルト混じり細砂 有機質で径1~2mmの石英、長石、岩片を含む。また、炭化物片や未分解の草片も含む。褐色を呈する。やや締っている。																						
9	15.50	6.72		コア欠如	にぶい黄橙				9.48~10.25m: 砂礫 径2~5mmの石英粒。径5~70mmの花崗斑岩の亜円〜亜角礫とルーズな中〜粗粒砂の基質からなる。礫率は30%前後で大半が硬質礫である。基質は全体にやや赤味を帯びる。	0																					
	6.72	7.00							6.72~6.78m: 粘土 傾斜20°、幅40~50mmの灰色粘土で径10mmの硬質な花崗斑岩の岩片を含む。やや締っている。																						
13.55	9.48		コア欠如	にぶい黄橙					9.48~10.25m: 砂礫 径2~5mmの石英粒。径5~70mmの花崗斑岩の亜円〜亜角礫とルーズな中〜粗粒砂の基質からなる。礫率は30%前後で大半が硬質礫である。基質は全体にやや赤味を帯びる。	0																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																
														(N 値 ~ 深度) 図																															
		13.00	10.25	砂礫	にぶい橙									0	10	20	30	40	50																										
		12.47	11.00	中砂	にぶい黄橙					10.25~11.00m: 中砂 10.25~10.40mは若干の粘土分を含む。 10.30~10.38mは傾斜45°程度で炭化物片を含み有機質である。暗緑灰色を呈する。 10.38m以深は径2~3mmの石英粒、径1.5~2.0mm以下の花崗斑岩の半クサリ〜クサリ礫を少量含み、よく締っている。10.53~10.55mに炭化物片を含む。																																			
11		12.47	11.00	砂礫	にぶい黄橙					11.00~12.15m: 砂礫 径2~5mmの石英粒、径10~160mmの花崗斑岩の垂目〜亜角礫を多く含み、よく締った中〜粗粒砂の基質からなる。礫率は40~50%。 11.00~11.05mと11.20~11.27mの基質の一部はマンガン鉱染により黒褐色化する。																																			
12		11.66	12.15	砂礫	にぶい黄橙					11.90~12.15mでは径10~20mmの半クサリ礫が主体となる。																																			
13		11.66	12.15	花崗斑岩	にぶい黄橙	Eg	Vg			12.15~100.00m: 花崗斑岩 斑晶は径1~3mmの石英、長石からなる。 12.15~18.10m: 風化によって硬さは「D」または、著しく軟質化した「E」となり、深度18.10m付近まで硬さD (岩盤区分D) と硬さE (同D級) をくり返す。ただし、硬さ「E」が主体である。変質粘土化部や粘土脈の分布は少ない。割れ目沿いは風化で砂状化することが多い。割れ目沿いの一部は、マンガン鉱染により黒褐色化する。 全体に原岩組織と割れ目が残留する。傾斜10~30°の割れ目が主体で、一部でこれらに傾斜60~80°の割れ目が交差する。																																			
14						Bg	IVg			14.78~15.10m: 珪質のため硬質部として残留する。																																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位試験 (孔内水平膨脹)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
															0	10	20	30	40												50		
16			+				Dg	IVg			15.54m: 傾斜85°で幅0.5mmの軟質な白色粘土を挟む。 15.60~15.74m: 傾斜60~90°で湾曲して連続する割れ目に幅0.5mmの軟質な白色粘土を挟む。 15.82m: 径8mmの大型な長石斑晶が1つ分布する。	0	D'																				
																																	50
17			+				Dg	Vg	cg		16.07m: 傾斜50°の割れ目は石英斑晶を横断する。割れ目には細粒部が認められず。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 16.71m: 傾斜24°で幅0.5~1mmの石英脈を挟む。	0	D'																				
																																	50
18			+				Eg		δ	3	17.69~17.90m: 強く風化・変質し軟質で、やや黄色味を帯びる。傾斜40°程度の割れ目沿いにマンガン汚染が見られる。	0	D'																				
																																50	
19			+				Eg				18.10~19.00m: 風化により、大半の割れ目が消滅しかかっている。 18.16m: 傾斜40°の消滅しかかっている割れ目沿いの一部で幅5~10mmが淡緑色化するが、粘土化は伴わない。 18.37m: 傾斜20°で幅2~15mmがマンガン感染を受け黒褐色化する。	0	D'																				
			+				Eg				19.00~19.88m: 傾斜10~25°の割れ目が残留するが、風化により、一部で消えかかっている。 19.60~19.83m: 傾斜10~20°の割れ目が残留する。 19.88~20.25m: 割れ目や原岩組織は大半が消滅する。	0	D'																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値 ~ 深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)														
																N	10	20	30	40												50													
21			花崗斑岩 明褐灰		にふい黄橙	VI _g E _g D _g E _g	dg	VI _g V _g		δ 3	cg	IV _g D _g		D'		0	10	20	30	40	50																								
22																3 (0)	4 (0)	5 (0)	6 (0)	7 (0)	8 (0)	9 (0)	10 (0)	11 (0)	12 (0)																				
23																11 (11)	12 (12)	13 (13)	14 (14)	15 (15)	16 (16)	17 (17)	18 (18)	19 (19)	20 (20)	21 (21)	22 (22)	23 (23)	24 (24)	25 (25)	26 (26)	27 (27)	28 (28)	29 (29)	30 (30)										
24																4 (0)	5 (0)	6 (0)	7 (0)	8 (0)	9 (0)	10 (0)	11 (0)	12 (0)	13 (0)	14 (0)	15 (0)	16 (0)	17 (0)	18 (0)	19 (0)	20 (0)	21 (0)	22 (0)	23 (0)	24 (0)	25 (0)	26 (0)	27 (0)	28 (0)	29 (0)	30 (0)			
<p>20.09m付近、傾斜5°で幅5~20mmが淡緑色化する。</p> <p>20.16~20.19m：上端5°で一部不明瞭、下端15°でほぼ直線的にシャープに連続。幅30~35mmで径5mmの粘土化岩片を多く含む。灰白~にふい黄橙色を呈する。この上位及び下位では、径5~10mmの岩片が主体で粘土化したものが多く、著しく軟質化している。</p> <p>20.19~20.25m：傾斜0~5°の割れ目が幅6cmで密集し、砂状化するほど風化する。灰褐色を呈する。</p> <p>20.25~21.04m：原岩組織や割れ目は消滅せずに残留するものが多いが、20.25~20.54mと20.77~21.04mは著しく軟質化し、20.54~20.77mはやや軟質である。傾斜20°前後の割れ目が主体で、幅1~2mmの軟質な灰白色、褐色の粘土脈を挟むことが多い。</p> <p>20.95~21.94m：傾斜10~30°の風化で消滅しかかった割れ目沿いに幅5~15mmが橙色を呈し、一部で砂状化する。</p> <p>21.04~24.53m：局部的に割れ目沿いに軟質化が著しくなる部分を含む。割れ目と原岩組織は明瞭に残留する。傾斜10~35°の割れ目が主体で、これらに60~80°の割れ目が斜交~直交する。割れ目の一部に幅0.5~1mmの灰白~橙色粘土を挟むが、幅広い粘土化部は分布しない。</p> <p>22.77m：傾斜76°で幅2~3mmの軟質な褐色の粘土脈を挟む。面は凹凸がある。</p> <p>23.13m：傾斜58°の割れ目で、交差する高角度割れ目は止まっている場合と横断する場合がある。また、一部に軟質な幅0.5mmの白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。</p> <p>23.40m：傾斜75~80°で若干湾曲する割れ目と23.41mで交差する傾斜25°割れ目は開口し、開口部の下端側では2mm程度右方向にズレているように見えるが、上端側では横断する。高角度割れ目には幅0~2mmの暗褐色粘土を挟在するが、粘土は不連続で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。</p> <p>23.58m：傾斜50°で幅1mmの石英脈を挟む。密着している。</p> <p>23.91m：傾斜30°の割れ目の下端側幅10mmの一部は淡緑色化する。変質粘土化は伴わないが、径0.5mm以下の微細な鉱物が晶出する。</p> <p>24.53~30.53m：全体にやや軟質で、風化で著しく軟質化する部分も含む。原岩組織や割れ目は残留するものが大半で、傾斜10~50°の割れ目が主体で、一部で傾斜60~70°の割れ目が交差する。多くは割れ目沿いに砂状化するが、粘土化や粘土脈の分布は少ない。一部でマンガン鉱染を伴い黒褐色化する。</p>																																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コア チップ / ビット	給 回 送 水 圧 (kN・ rpm MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)							
													N	0	10	20	30										40	50					
		26	+	花崗斑岩	明褐色	Dg			25.05m：傾斜35°の割れ目沿いに幅10~20mmが砂状化で一部粘土も含む。 25.12m：傾斜40°の割れ目で交差する微細な割れ目は止まっている。周囲幅10mmに径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱が晶出する。また、割れ目に幅0.5mmの軟質な褐色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 25.33m：傾斜36°で幅5~15mmが砂状化する。白色粘土が混じり、一部マンガン鉱染を受け黒色化する。	5 (0)	CL'																						
		27				Eg		26.50m・22°と27.04m・35°の割れ目で囲まれた部分は、全体に軟質化が著しい。一部で幅0.5mmの軟質な白色粘土脈を伴う。原岩組織は残留する。	7 (0)	D'																							
		28			にこい褐色	Dg	Vg	cg	δ 3	27.21m：傾斜34°の割れ目で交差する割れ目は止まっている場合と横断する場合がある。割れ目沿いに幅1~3mmが砂状化する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 27.43m：傾斜20°程度で幅2~5mmの石英脈を挟む。 27.54~27.64m：傾斜40°前後の割れ目沿いに風化が進み、著しく軟質化し、一部砂状を呈する。 27.81m：傾斜32°の割れ目と交差する高角度割れ目が横断する。割れ目は幅1~2mmで砂状化する。割れ目に挟在物は伴わず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 27.81~27.98m：幅0.5~2mmの軟質な白色粘土が長さ5~10cmで分布する。 28.14m・34°と28.23m・20°の割れ目で囲まれた部分は風化で著しく軟質化し砂状化~細片化する。一部でマンガン鉱染を伴う。28.14mに幅1~3mmの赤褐色粘土を挟む。	2 (0)	CL'																					
		29					明褐色	Eg			28.68m：傾斜43°の割れ目で交差する割れ目は止まっている場合と横断する場合がある。下端側に幅1~2mmの石英脈を伴う。割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 28.76m：傾斜44°の割れ目で交差する石英脈や割れ目が止まっている場合がある。割れ目には挟在物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	16 (0)	CL'																				
					にこい褐色	Dg			29.38~29.93m：傾斜10~30°の割れ目沿いに風化で軟質化が著しくなり、割れ目周辺では砂状化する。	4 (0)	D'																						
					明褐色	Dg							CL'																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																			
															0	10	20	30	40												50																																																																		
31			花崗斑岩	明褐灰			Vg	IVg			30.12m: 傾斜35°の割れ目沿いに幅20~30mmが砂状~細片化する。 30.17~30.34m: 傾斜70~80°で湾曲した割れ目が分布し、割れ目を境にコアの上側は硬さ「C」とやや硬質である。 30.53~31.54m: 傾斜30~50°の割れ目と低密着割れ目が主体で、一部は風化で消滅しかかり、不明瞭な部分もある。粘土脈や粘土化部は分布しないが、長石が粘土化し白濁化する。																																																																																						
32																																					花崗斑岩	明褐灰		Vg	IIIg	cg δ 3	31.13m: 傾斜44°の割れ目の上端側は幅10~20mmが径5~10mmの花崗斑岩の岩片と硬質な砂状部からなる角礫状。下端側は硬質岩片からなり、岩片には傾斜44°の割れ目に対してほぼ直交する傾斜60°の割れ目が分布する。角礫状部は不連続で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 31.54~31.94m: 傾斜40~50°の割れ目が主体で、これらは直線的でシャープに連続するものが多い。粘土の挟入はないが、割れ目沿いに薄く砂状化する。																																																						
33																																																																				明褐	Cg	IVg	Dg		32.14m: 傾斜42°で幅0.5~1mmの石英脈が母岩によく密着して連続する。 32.24m: 傾斜65°で幅6~20mmの開口割れ目で、砂と径2~3mmの花崗斑岩の岩片が充填する。 32.38~34.03m: 傾斜10~30°の割れ目が主体で、幅30~100mmで砂状~細片化部を互層状に挟む。																								
34																																																																																																	明黄褐

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
																(N 値 ~ 深度) 図																						
			+													0	10	20	30	40	50																	
			+								35.26~35.96m: 割れ目沿いに薄く砂状化する。	5	100																									
36			+								35.96~38.81m: 傾斜10~40°と、これと斜交~直交する傾斜50~70°の割れ目が主体である。割れ目の一部は砂状を呈する。粘土化や粘土脈の分布はわずかであるが、長石は粘土化し白濁~軟質化する。一部で風化により著しく軟質化する部分も含む。	4	100																									
			+								36.45~36.47m: 上下端35°の割れ目で囲まれ、粘土化が進む。径2~4mmの石英粒や径0.5mm以下の微細な白雲母を含む。淡緑色化し、明オリープ灰色を呈する。	4	100																									
37			+								37.10~37.41m: 変質し、黄色味を帯びる。																											
			+								38.00m + 45° と 38.14m + 60° の割れ目で囲まれ、全体が径10mm前後の岩片状を呈する。コアチューブ引き上げ時に岩片化したものである。	10	100																									
38			+								38.52m: 傾斜42°の割れ目は、交差する割れ目を止めている。幅3~8mmの軟質な明褐色粘土脈を挟み、含まれる粗子に定向配列は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	4	100																									
			+								39.04~39.12m: やや硬質な岩片を含む。 39.14m: 傾斜15°で幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。 39.24~40.17m: 割れ目の一部は風化で砂状化する。傾斜20~40°の割れ目と、これに斜交~直交する60~80°の割れ目が主体である。部分的に幅1~2mmの明褐色の粘土脈を挟む。	5	100																									
39			+								39.67m: 傾斜44°の割れ目は、交差する割れ目を3箇所で止めている。割れ目には挟在物が認められず、止められている各割れ目が傾斜44°の割れ目を挟んで系統的に変位していない。																											

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 月 日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原 位 置 試 験 (孔 内 水 平 變 動)	室 内 試 験	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル / ビ ッ ト	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)				
													0	10	20	30	40											50			
41									40.08m・40°、40.14m・35°の各割れ目沿いに著しく軟質化する。 40.17~40.69m：上下に比べ、割れ目は少なくなる。 40.47m・25°と40.50m・36°に囲まれた部分は著しく軟質化し、砂状~径5mmに細片化する。 40.69~41.18m：傾斜30~40°の割れ目主体で、一部は消滅しかかっている。割れ目沿いに砂状化する。一部の割れ目に幅1~2mmの軟質な白~淡褐色粘土を挟む。																						
42				花崗斑岩				δ 3	41.19~41.45m：ごく一部で割れ目は残留するが、大半は風化で消滅する。原岩組織は明確に残留するが、コア全体が著しく軟化する。 41.45~42.23m：傾斜30~40°の割れ目が主体で、割れ目沿いに砂状化し、一部では砂状部の幅が広がる。 41.86m：傾斜42°の割れ目沿いに幅3cm程度で褐色化が顕著である。幅2mm程度の砂状部を挟む。																						
43									42.23~42.50m：幅1~3mmの軟質な白色粘土脈が網状に分布し、全体に軟質化が著しい。 42.27m：傾斜42°で幅5~8mmの軟質な褐色粘土脈を挟む。粘土の境界は不明瞭で、下端側に注入する。粘土中の粒子の定向配列は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 42.49m：傾斜37°で幅1~2mmの軟質な白~褐色の粘土脈を不連続に挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 42.50~44.56m：傾斜10~40°の割れ目や低密着割れ目が主体で、割れ目沿いに弱く風化し、一部に幅1~2mmの白~褐色の軟質な粘土を挟む。 43.15m：傾斜15°の割れ目で高角度割れ目が止まっている。幅2mmの風化砂状部を挟む。 43.20m：傾斜36°の割れ目は他の割れ目を止めている。幅3mmの軟質な白~褐色粘土を挟むが、高角度割れ目にも流入する。いずれの割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 43.74~44.56m：傾斜10~40°の割れ目と、これに斜交~直交する60~90°の割れ目が分布し、径10~20mmに岩片化する。割れ目沿いに砂状化することが多い。 44.05m・10°と44.08m・10°ないし75°の割れ目で囲まれた部分は、砂状~径5~10mmの細岩片状を呈する。粘土化はない。 44.41~44.43m：珪質部で、硬質岩片として残留する。 44.56~45.91m：傾斜20~40°と60~80°の割れ目が交差し、径5~10mmの岩片状と岩片間の砂状部の基質からなる。基質はやや粘土化が進み、全体は著しく軟質化する。																						
44				にんじい橙																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	排 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)			
													(N値~深度) 図																		
46				にぶい橙		dg			45.10~45.56m: 割れ目が明瞭に残留する。	1			0	10	20	30	40	50													
									45.27m: 傾斜48°の割れ目と交差する割れ目は止まっている。幅3~4mmの不連続で軟質な白色粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																					1	100
									45.60m: 傾斜70°の連続した割れ目に幅2~3mmの軟質な白~明赤灰色粘土脈を挟む。明赤灰色粘土は不連続である。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 ●45.91~48.28m: 破砕部 45.91~45.94m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端52°, 下端35° ともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径5mmで粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅30mm。 45.94~46.41m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端35°, 下端15° ともに直線的でシャープに連続。径10mm前後の岩片間を幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が網目状に分布する。淡黄褐色を呈する。 46.41~46.45m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 上端15° で直線的にシャープに。下端20° でやや波打ちながら連続。径1~3mmと少量の径5mmで粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。やや硬質。淡黄褐色を呈する。幅25~30mm。 46.45~47.64m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端20°, 下端20° ともにやや波打ちながら連続。径5~20mmの岩組織がほぼ消滅した花崗斑岩の岩片と岩片間を縫うように網状に分布する幅1~2mmの白色軟質粘土脈及び46.80mでは幅8mm、57°の灰黄褐色粘土などからなる。明黄褐色を呈する。46.77~46.79mのほぼ水平に分布する暗褐色の細粒部については、コア掘削時のコアの供回りによるものである。 47.64~47.65m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 上端20° でやや波打ちながら。下端10° で直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒と少量の粘土化した径5mmの花崗斑岩の岩片を含む。やや軟質。明赤灰色を呈する。幅10~15mm。 47.65~48.18m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端10°, 下端34° ともに直線的でシャープに連続。一部で岩組織が残留。一部で消滅した径5~20mmの花崗斑岩の岩片と岩片間を網状に分布する幅1~2mmの白色軟質粘土脈からなる。明赤灰~明褐色を呈する。 48.18~48.26m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端34°, 下端68° ともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と下部部に硬質岩片を残すが、これ以外は粘土化した径5mm前後の花崗斑岩の岩片からなる。やや硬質。灰白~明黄褐色を呈する。幅40~70mm。 48.26~48.28m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 上端68°, 下端68° ともに直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。やや硬質。明黄褐色を呈する。幅6~8mm。下端の灰白色の細粒部は不連続である。 48.28~48.67m: 原岩組織が残留した径10~20mmの岩片からなり。一部、岩片間に幅1~2mmの軟質な白色粘土が分布するが、連続性は悪く短い。風化で割れ目は消滅しかかったものが多く。 48.67~49.20m: 原岩組織は残留するが、割れ目は消滅する。 ●49.20~49.91m: 破砕部 49.20~49.82m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端不明瞭。下端44° で直線的でシャープに連続。径10~30mmの岩組織が残留する岩片と。岩片間を幅1~3mmで網状に分布する白色粘土脈からなる。明褐色を呈する。 49.82~49.84m: 粘土状部 (Hc-1) 上端44° で直線的にシャープに。下端43° でやや波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。軟質。明黄褐色を呈する。幅10mm。 49.84~49.91m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端43° でやや波打ちながら連続。下端30° でやや不明瞭である。岩組織が消滅したものが大半の径2~20mmの花崗斑岩の岩片と岩片間の一部が軟質で白色粘土化する。明褐色を呈する。幅10mm。 49.91~50.77m: 一部で径10~50mmの原岩組織と割れ目が残留するやや軟質な岩片を含むが、著しく軟質化したものが主体である。傾斜60~70°とこれに斜交する30~60°の割れ目が主体で、割れ目沿いや岩片間の一部が軟質な白色粘土化する。																						
47				明黄褐		dg		6	46.41~46.45m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 上端15° で直線的にシャープに。下端20° でやや波打ちながら連続。径1~3mmと少量の径5mmで粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。やや硬質。淡黄褐色を呈する。幅25~30mm。 46.45~47.64m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端20°, 下端20° ともにやや波打ちながら連続。径5~20mmの岩組織がほぼ消滅した花崗斑岩の岩片と岩片間を縫うように網状に分布する幅1~2mmの白色軟質粘土脈及び46.80mでは幅8mm、57°の灰黄褐色粘土などからなる。明黄褐色を呈する。46.77~46.79mのほぼ水平に分布する暗褐色の細粒部については、コア掘削時のコアの供回りによるものである。 47.64~47.65m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 上端20° でやや波打ちながら。下端10° で直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒と少量の粘土化した径5mmの花崗斑岩の岩片を含む。やや軟質。明赤灰色を呈する。幅10~15mm。 47.65~48.18m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端10°, 下端34° ともに直線的でシャープに連続。一部で岩組織が残留。一部で消滅した径5~20mmの花崗斑岩の岩片と岩片間を網状に分布する幅1~2mmの白色軟質粘土脈からなる。明赤灰~明褐色を呈する。 48.18~48.26m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端34°, 下端68° ともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と下部部に硬質岩片を残すが、これ以外は粘土化した径5mm前後の花崗斑岩の岩片からなる。やや硬質。灰白~明黄褐色を呈する。幅40~70mm。 48.26~48.28m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 上端68°, 下端68° ともに直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。やや硬質。明黄褐色を呈する。幅6~8mm。下端の灰白色の細粒部は不連続である。 48.28~48.67m: 原岩組織が残留した径10~20mmの岩片からなり。一部、岩片間に幅1~2mmの軟質な白色粘土が分布するが、連続性は悪く短い。風化で割れ目は消滅しかかったものが多く。 48.67~49.20m: 原岩組織は残留するが、割れ目は消滅する。 ●49.20~49.91m: 破砕部 49.20~49.82m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端不明瞭。下端44° で直線的でシャープに連続。径10~30mmの岩組織が残留する岩片と。岩片間を幅1~3mmで網状に分布する白色粘土脈からなる。明褐色を呈する。 49.82~49.84m: 粘土状部 (Hc-1) 上端44° で直線的にシャープに。下端43° でやや波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。軟質。明黄褐色を呈する。幅10mm。 49.84~49.91m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端43° でやや波打ちながら連続。下端30° でやや不明瞭である。岩組織が消滅したものが大半の径2~20mmの花崗斑岩の岩片と岩片間の一部が軟質で白色粘土化する。明褐色を呈する。幅10mm。 49.91~50.77m: 一部で径10~50mmの原岩組織と割れ目が残留するやや軟質な岩片を含むが、著しく軟質化したものが主体である。傾斜60~70°とこれに斜交する30~60°の割れ目が主体で、割れ目沿いや岩片間の一部が軟質な白色粘土化する。																						
48				花崗斑岩		dg		6	48.18~48.26m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端34°, 下端68° ともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と下部部に硬質岩片を残すが、これ以外は粘土化した径5mm前後の花崗斑岩の岩片からなる。やや硬質。灰白~明黄褐色を呈する。幅40~70mm。 48.26~48.28m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 上端68°, 下端68° ともに直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。やや硬質。明黄褐色を呈する。幅6~8mm。下端の灰白色の細粒部は不連続である。 48.28~48.67m: 原岩組織が残留した径10~20mmの岩片からなり。一部、岩片間に幅1~2mmの軟質な白色粘土が分布するが、連続性は悪く短い。風化で割れ目は消滅しかかったものが多く。 48.67~49.20m: 原岩組織は残留するが、割れ目は消滅する。 ●49.20~49.91m: 破砕部 49.20~49.82m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端不明瞭。下端44° で直線的でシャープに連続。径10~30mmの岩組織が残留する岩片と。岩片間を幅1~3mmで網状に分布する白色粘土脈からなる。明褐色を呈する。 49.82~49.84m: 粘土状部 (Hc-1) 上端44° で直線的にシャープに。下端43° でやや波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。軟質。明黄褐色を呈する。幅10mm。 49.84~49.91m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端43° でやや波打ちながら連続。下端30° でやや不明瞭である。岩組織が消滅したものが大半の径2~20mmの花崗斑岩の岩片と岩片間の一部が軟質で白色粘土化する。明褐色を呈する。幅10mm。 49.91~50.77m: 一部で径10~50mmの原岩組織と割れ目が残留するやや軟質な岩片を含むが、著しく軟質化したものが主体である。傾斜60~70°とこれに斜交する30~60°の割れ目が主体で、割れ目沿いや岩片間の一部が軟質な白色粘土化する。																						
49									明褐灰		cg		3	48.67~49.20m: 原岩組織は残留するが、割れ目は消滅する。 ●49.20~49.91m: 破砕部 49.20~49.82m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端不明瞭。下端44° で直線的でシャープに連続。径10~30mmの岩組織が残留する岩片と。岩片間を幅1~3mmで網状に分布する白色粘土脈からなる。明褐色を呈する。 49.82~49.84m: 粘土状部 (Hc-1) 上端44° で直線的にシャープに。下端43° でやや波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。軟質。明黄褐色を呈する。幅10mm。 49.84~49.91m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端43° でやや波打ちながら連続。下端30° でやや不明瞭である。岩組織が消滅したものが大半の径2~20mmの花崗斑岩の岩片と岩片間の一部が軟質で白色粘土化する。明褐色を呈する。幅10mm。 49.91~50.77m: 一部で径10~50mmの原岩組織と割れ目が残留するやや軟質な岩片を含むが、著しく軟質化したものが主体である。傾斜60~70°とこれに斜交する30~60°の割れ目が主体で、割れ目沿いや岩片間の一部が軟質な白色粘土化する。																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																													
												(N 値)	(図)																																																																																						
				花崗斑岩	にぶい 黄緑			3	55.52~55.80m: 傾斜60°と40°の割れ目が交差し、交差部周辺は径3~5mmに細片化する。岩片自身は硬く、粘土化などの劣化はない。	→ (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ [%]	QL'	0 10 20 30 40 50																																																																																							
56																							Cg	Vg	cg	2	56.11~56.49m: 上下に比べ軟質となり、割れ目は消滅しかかっている。一部幅1mmの軟質な白色粘土脈が分布する。	0 50 100																																																																							
																							Dg				56.49~56.90m: 全体に珪質のため硬質で、傾斜50~60°の割れ目や低密着割れ目が10~30mm間隔で平行に分布する。粘土脈などは分布しない。															4 (0)	100																																																								
																							Cg				56.90~57.13m: 割れ目の一部に幅0.5mmの軟質な白色粘土が付着する。割れ目沿いに砂状~細片化する。																													4 (0)	100																																										
57																							Dg			6	57.13~58.96m: 著しく軟質化し、原岩組織は残留するが、割れ目はほぼ消滅している。幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が網状に分布することが多い。																																											2 (0)	100																												
																							明褐色	Vg	dg	3	58.00m: 傾斜70°で幅2~3mmの軟質な淡緑色を帯びる灰白色粘土脈を挟む。																																																									1 (0)	100	D'													
																											Eg																																																																								
58																							明褐色	Vg	dg	3	58.96~59.05m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端50°で不明瞭、下端45°で直線的にシャープに連続。幅1mmの軟質白色粘土脈を伴う全体が粘土化して軟質化している。明褐色を呈する。幅63mm(45°)。 59.05~59.16m: 粘土質礫状部(Hb) 上端45°で直線的にシャープに、下端40°でやや波打って連続。径1~2mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した岩片を多く含む。やや硬質。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染により斑点状に暗褐色化する。淡黄色を呈する。幅80mm。 59.16~59.18m: 粘土状部(Hc-1) 上端40°でやや波打ち、下端35°で一部凸部があるが、直線的にシャープに連続。径1mm程度の石英粒、長石粒を含み、岩片は殆んど含まない。軟質。灰赤~灰白色を呈する。幅5~14mmで下端が凸部をなすため膨縮する。 59.18~59.30m: 粘土質礫状部(Hb) 上端35°で一部凸部があり、下端50°でやや波打ちながら連続。下端には幅5~10mmの軟質な灰白~灰赤色粘土を伴う。全体的には径1~5mmの石英粒、径5~10mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を多量に含む。やや軟質。灰黄~橙色を呈する。幅90~170mm。 59.30~59.62m: 傾斜70~80°とこれに斜交~直交する20~30°の割れ目が主体で、大半が消滅しかかっている。一部の割れ目に幅1mmの軟質な白色粘土脈が分布する。 59.33m: 幅0~3mmの黒褐色のマンガン汚染を挟む割れ目で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 59.62~59.98m: 割れ目沿いに風化が進み、砂状~細片化する。59.95mに傾斜80°で幅0.5mmの軟質な白色粘土脈がほぼ直線でシャープに分布する。 59.98~60.11m: 全体が著しく軟質化する。60.09mに傾斜70°で幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈がほぼ直線でシャープに分布する。																																																									1 (0)	100														
																											Dg																																																																								
59																							明褐色	Vg	cg	3	59.98~60.11m: 全体が著しく軟質化する。60.09mに傾斜70°で幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈がほぼ直線でシャープに分布する。																																																									4 (0)	100														
			Dg					4 (0)	100																																																																																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
														(N値~深度) 図																										
		66	花崗斑岩	灰褐色			Vg	cg δ		65.69~67.43m: 上位に比べ割れ目は少ない。風化は66.49m以浅では割れ目の面がごく薄く風化褐色化する程度で、66.49m以深では割れ目周辺まで風化が進み淡褐色化する。粘土部や粘土脈がわずかに分布する。傾斜20~40°とこれに斜交~直交する50~70°の割れ目が主体で、割れ目の一部はマンガン鉱染を受け、面は黒褐色化するが、軟質化は伴わない。 66.10~66.65m: 傾斜2~5mmの白濁した長石斑晶が多く分布する。	CL'																													
		67		に濃い黄橙				Vg	cg δ		67.08~67.22m: 径5~10mmの大型な石英斑晶が多く分布する。	CM'																												
		68						Dg	Vg cg		67.43~67.70m: 上位よりも割れ目や低密着割れ目が多くなる。 67.55m: 傾斜65°で幅0.5mmの軟質な白色粘土脈を挟む。 67.70~68.32m: 傾斜40~50°の互いに交差する割れ目が主体で、一部に幅0.5~1mmの淡黄色粘土脈を挟む。 67.78~67.95m: 上下傾60°の割れ目に挟まれて、やや軟質化するが、粘土化は伴わない。	CL'																												
		69		灰褐色				Eg	Vg dg δ		68.32~68.52m: 軟質化が著しく、幅1~3mmの軟質な灰白~灰赤色粘土脈が網状に分布する。 68.52m: 傾斜70°で幅2~5mmの軟質な白~明黄褐色粘土を挟む割れ目ややや波打って連続性・直線性に乏しい。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。 68.52~68.84m: 全体に粘土化が進み軟質化が著しい。白色粘土が網目状に分布する。 ●68.84~69.00m: 破砕部 68.84~68.93m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端50°で不明瞭。下端55°でやや波打って連続。径5~10mmの粘土化した岩片主体。明灰褐色~灰白色を呈する。幅32mm。 68.93~68.95m: 粘土質線状部 (Hb) 上端55°。下端50°でともにやや波打って連続。径5~18mmの粘土化した岩片を多く含む。やや硬質。石英は殆んど含まない。上下端は幅1~4mmでマンガン鉱染を受け灰黄褐色化。これ以外は灰白色を呈する。幅20~30mm。 68.95~69.00m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端50°。下端45°でともにやや波打って連続。径5~10mmの粘土化した岩片主体。下端は幅2mmの硬質な淡褐色粘土脈を伴う。灰褐色を呈する。幅32~35mm。 69.00~69.73m: 大半の割れ目は消滅するが、69.42mに傾斜68°、69.67mに傾斜70°で直線的でシャープな割れ目が残留する。 69.06~69.18m: 傾斜60~80°で幅2~8mmの灰赤色粘土脈が湾曲しながら連続する。 69.73~71.21m: 大半の割れ目が残留し、傾斜10~30°と、これに斜交~直交する50~80°の割れ目が主体で、割れ目沿いに薄く砂状化することが多い。 69.89m・50°の割れ目は面の凹凸が著しいが、そのかみ合わせは良い。69.97m・65°の割れ目は交差する割れ目を止めている。両者とも挟み物はなく、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	D' CL'																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平剪断)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
													0	10	20	30	40												50			
71			+			Dg Vg cg			70.10~70.40m: 割れ目はほぼ消滅する。粘土脈の分布は少ない。	0																						
									2																							
72			+			Eg Vg dg			71.21~71.35m: 著しく軟質化し、割れ目はほぼ消滅するが、原岩組織は大半が残存する。幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が傾斜40~60°で平行に分布する。上端側はマンガン鉱染で黒褐色化する。 71.35~74.20m: 傾斜20~40°と、これに斜交~直交する傾斜40~70°の割れ目が主体で、一部は、割れ目沿いに薄く砂状化~径5mmに細片化する。粘土脈の分布は少ないが、73.40m以深では、割れ目の一部に幅1~8mmで軟質な灰白~白色粘土脈を挟む。	0																						
									3																							
73			+	花崗斑岩	灰褐	Dg Vg cg				0																						
									2																							
74			+			Eg Vg dg	に強い黄橙		74.04m以深では傾斜40°の割れ目沿いに幅10~40mmで径5mm前後の細片状を呈する。岩片間の一部に径10mm前後の斑点状に白色粘土化部を伴う。 74.28~75.50m: 著しく軟質化し、幅1~5mmの軟質な白~灰赤色粘土脈が傾斜50~80°で多数分布する。大半の粘土脈は満出したり波打ったりしてシャープな直線性は示さない。74.48mの傾斜55°の割れ目には幅0~4mmの軟質な灰赤色粘土を不連続に挟む。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。 74.70~75.50m: 傾斜80°以上の高角度割れ目が多く、灰白色粘土を伴う。	0																						
									3																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	記	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																		
													(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																													
		76	花崗斑岩	に多い黄褐色	Eg	VIg	dg			75.10~75.50m: 幅1~5mmの軟質な白色粘土脈が網状に分布する。	0	D'	0 10 20 30 40 50																														
		77								Dg			3	75.50~77.75m: やや硬質な岩片も多く含む。傾斜10~30°が主体で、これらと斜交~直交する傾斜50~70°の割れ目と低密度割れ目が分布する。割れ目の一部は砂状化し、一部には幅1mm前後の軟質な白色粘土脈を挟む。粘土化で白濁した径2~5mmの長石斑晶が多い。												0	CL'																
		78								Vg				cg														77.10~77.25m: 全体に軟質化し、一部で軟質な白色粘土が径2~3mmの斑点状~幅1mmの脈状で分布する。77.25~77.75m: 割れ目に幅1mmの軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。	0														D'
		79								Cg			2	77.75~78.77m: 径10mm前後の硬さ「D」ないし「C」の岩片を含むが、全体には著しく軟質化する。原岩組織は一部で残留するが、割れ目はほぼ消滅する。78.20~78.40m、78.70~78.77mに径5~10mmの硬さ「C」ないし「D」の岩片が残留し、傾斜10~30°と60~70°の消滅しかかった割れ目がわずかに残留するが、残留する岩片間には幅1~2mmの軟質な白色粘土が脈状に分布するが、直線的でシャープなもの、78.48mの傾斜63°で幅1mmの粘土脈のみである。												0	CL'																
										Eg				VIg														dg	●78.77~79.19m: 破碎部粘土質凝結部 (Hj) 粘土質凝結部 (Hj) でやや湾曲して、下端63°で直線的にシャープに連続。岩組は明瞭であるが、割れ目は78.97mの54°以外は消滅する。全体に変質しており、著しく軟質化する。79.15mに深に幅1~3mmの約60°で軟質な灰赤色粘土脈を3箇所伴う。灰褐色~明青灰色を呈する。														0
			明青灰	2	79.25~79.85m: 傾斜10~30°と60~70°の割れ目が約10mm間隔で細かく分布し、径10mm程度の岩片に分離し易い。一部で幅0.5mmの白色粘土が付着する。	0	CL'																																				
			灰褐色		Cg			Vg	cg																79.85m: 傾斜50°で幅2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。	0																	
			Eg	VIg	dg	79.85~80.08m: 全体に著しく軟質化し、幅1~3mmの軟質な白色粘土が網状に分布する。	0																																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rPM)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
														(N値~深度) 図																					
81			花崗斑岩	にぶい黄褐色	灰褐色	Eg Vg dg	3			80.08~81.00m: 互いに交差する傾斜40~60°の割れ目が多く、径5~20mmの岩片からなる。割れ目の一部は薄く砂状化したり、径5mmの岩片に細片化する。一部の割れ目には白~にぶい橙色の軟質な粘土脈を挟む。	0				0	10	20	30	40	50															
					Dg				80.80~80.90m: 径3~5mmの粘土化で白濁化した長石斑晶が多い。																										
					Eg Vg dg	δ		81.00~81.20m: 径10~20mmの硬さ「D」の岩片と砂状に軟質化した岩片からなる。基質中に幅1~3mmの軟質な白色粘土脈を挟む。 ●81.20~81.42m: 破砕部 81.20~81.30m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端40°で一部湾曲し、下端35°で直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径3~15mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。やや硬質。 81.20~81.27mににぶい黄褐色、81.27~81.30mは浅黄褐色を呈する。幅50~60mm。																											
					Dg Vg cg			81.30m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜35°で径2~4mmの軟質な灰赤色粘土からなる。 81.30~81.42m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端35°で直線的にシャープに、下端60°でやや湾曲して連続し、灰赤~白色の幅1mmの軟質粘土を伴う。径1~3mmの石英粒と径5~20mmの一部粘土化、一部硬さDの花崗斑岩の岩片を多く含む。81.37m以深では礫量が増加する。上端幅10mmは淡赤褐色で、これ以外はにぶい黄褐色を呈する。 81.42~82.88m: 傾斜50~70°の割れ目や低密着割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する30~70°の割れ目が分布するが、この割れ目は連続性が悪く、途中で消滅するものが多い。割れ目の一部に幅0.5~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。 81.42~81.58m、82.27~82.88m: 割れ目沿いにマンガン鉱染を受け黒褐色化する。 82.45m: 傾斜70°の割れ目で、これにはほぼ直交する割れ目は止まっている。割れ目には幅0~2mmの軟質な白色粘土を不連続に挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 82.88~83.92m: 径5~8mmの大型の粘土化で白濁した長石斑晶が多く分布する。また、石英斑晶も径5~10mmで大型化する。粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。傾斜40~70°の割れ目が主体で、一部の割れ目沿いに径2~10mm程度の岩片に細片化するが、砂や粘土は挟まない。																											
82			花崗斑岩	にぶい黄褐色	灰褐色	IVg	2			83.92~87.14m: 傾斜30~60°の割れ目と、これらに斜交~直交する30~70°の割れ目を主体とする。同傾斜の低密着割れ目も多く分布する。割れ目の一部では薄く砂状化する部分があるが、粘土化部は分布せず、粘土脈を挟む割れ目も少ない。径3~10mmの粘土化で白濁した長石斑晶が目立つ。割れ目の一部はマンガン鉱染でごく薄く黒褐色化し、コア表面の一部もマンガン鉱染により径2~5mmの斑点状に黒褐色化する。																									
83					Cg	bg	γ																												
84			花崗斑岩	にぶい黄褐色	灰褐色	Vg																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験		原位置試験 (孔内水平盤等)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ベット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)													
															(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																								
				花崗斑岩	灰褐	Vg	IVg	bg	γ		85.46m・75°と85.49m・55°の割れ目に幅0.5~1mmの軟質な白~橙色粘土脈を挟む。 85.53m：傾斜65°で幅3~5mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 85.65~85.68m：傾斜20°と50°の割れ目が交差し、径5~15mmの岩片状を呈する。粘土は伴わない。	0	CL'																											
86			Vg									IVg					86.04m・40°, 86.30m・60°, 86.43m・55°の各割れ目沿いに幅2~5mm程度砂状化する。	8																						
			Vg									IVg					87.14~88.28m：径5~40mmの硬さ「C」の岩片と砂状に軟質化した基質からなる角礫状を呈し、基質中には岩片間を縫うように幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が分布するが、長さ50mm未満で連続性は悪い。岩片密集部には傾斜10~30°と60~80°の2系統の割れ目が残留する。	9																						
			花崗斑岩	にぶい黄橙	Eg	VIg	δ		2		87.69~87.84m：硬質部が中石状に残留する。		D'																											
87												cg		IVg			88.00~88.35m：基質部は殆んど分布しないが、径5mm前後の岩片状を呈する。	1																						
												Eg		VIg	dg	δ		88.28~89.91m：傾斜30~40°とこれに斜交~直交する傾斜60°の割れ目が主体で、割れ目の一部に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。特に、89.68m以深で粘土脈を多く含む。	11																					
			花崗斑岩	灰褐	Eg	VIg	cg	bg	γ		89.31m：傾斜40°の割れ目で、直線的にシャープに連続し、交差する割れ目を止めている。割れ目に細粒部の挟在は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 89.38m：傾斜55°で幅0.5~2mmの軟質な明赤灰色粘土を挟み、下端側は89.44mまで実幅40mm程度で粘土化が進み軟質化する。		CL'																											
88												Dg		Vg	cg			●89.91~89.95m：破砕部 89.91~89.93m：硬質粘土状部 (Hb) 上端50°で直線的に、下端45°で波打って連続。径5~10mmの岩片を30%程度含む。やや軟質。明赤灰色を呈する。幅12~15mm。 89.93~89.95m：粘土状部 (Hc-1) 上端45°で波打って、下端45°で直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒をわずかに含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅2~5mm。 89.95~89.98m：硬さ「C」の中石である。 89.98~90.00m：上端23°、下端25°とともに直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径5mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を含む薄混じり粘土状を呈する。粘土は軟質~やや硬質である。灰白色を呈し、幅15~18mmである。	6																					
												Cg		IVg					3																					
89					Eg	VIg	cg		4																															
					Dg	Vg	cg		2																															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
															(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																							
91				花崗斑岩	灰褐	Dg	Vg	cg	2			90.00~90.26m: 傾斜30~50°とこれに斜交~直交する50~60°の割れ目が分布し、径5~50mmの硬さ「C」の岩片を呈することが多い。	0	CL'																									
												●90.26~90.84m: 破砕部																											
						灰白	Eg	VIg	dg	3			90.26~90.31m: 粘土混じり岩片状部 (H)	4	D'		上端50°で波打ち、下端70°で直線的にシャープに連続。径5~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片と岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈が分布する。にぶい黄褐色を呈する。幅15~20mm。	10	D'																				
													90.31~90.37m: 粘土質礫状部 (Hb)																										
						灰褐	Cg	Vg		2			上端70°、下端70°でもとほぼ直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒とほぼ粘土化した径5~10mmの花崗斑岩の岩片を多く含む。やや軟質。上端には幅1~2mmの灰赤色軟質粘土脈を伴う。灰白色主体で連続に灰赤色を呈する。幅20~35mm。	20	CL'		90.37~90.66m: 粘土混じり岩片状部 (H)	30	CL'																				
													上端70°、下端75°でもとほぼ直線的でシャープに連続。ほぼ粘土化した岩組織も消滅した径5~30mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間を幅0.5~1mmの軟質な白~灰赤色粘土脈が分布する。にぶい黄褐色~灰白色を呈する。																										
					92				花崗斑岩	褐灰	Eg	VIg	dg	6			90.66m: 粘土状部 (Hc-1)	40	D'																				
																	傾斜75°で幅2mmの軟質赤灰色粘土で、直線的でシャープに連続する。																						
																	90.66~90.72m: 粘土質礫状部 (Hb)																						
											灰褐	Cg	Vg		3			上端75°で直線的にシャープに、下端60°で波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒、長石粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅6~20mmと縮する。	50	CL'		90.72~90.84m: 粘土混じり岩片状部 (H)	60	D'															
																		上端60°で波打って、下端50°でほぼ直線的にシャープに連続。径5~20mmの一部硬質礫が残留するが、概ね粘土化した花崗斑岩の岩片と径2~3mmの石英粒、長石粒、花崗斑岩の細岩片を含む基質からなる。にぶい黄褐色を呈する。																					
																		90.84~91.26m: 傾斜60~70°の割れ目が20~40mm間隔で平行に分布する。これらの割れ目に斜交~直交する傾斜40~50°の割れ目も多い。91.21m付近では、前者は後者を止めている場合と横断する場合が見られる。割れ目の一部には断片的に幅0.5mmの軟質な白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																					
93				花崗斑岩	灰褐	Eg	VIg	cg				●91.26~91.52m: 破砕部	70	CL'																									
												91.26~91.31m: 粘土混じり礫状部 (H)																											
												上端60°で直線的にシャープに、下端63°で湾曲して連続。径1~3mmの石英、径5~10mmの花崗斑岩の粘土化岩片からなり、幅1mmの白色粘土脈を挟む。やや軟質。にぶい黄褐色を呈する。幅20~40mm。																											
						灰褐	Cg	Vg		3			91.31~91.33m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2)	80	D'		上端63°で湾曲し、下端63°で波打って連続。径1~2mmの石英粒と径5~20mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。赤灰色を呈する。幅0~15mmと縮する。	90	CL'																				
													91.33~91.52m: 粘土混じり (一部粘土質) 岩片状部 (H)																										
													上端63°で波打ち、下端30°で不明瞭に連続。粘土化した、または硬質な径5~10mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間には白~灰赤色軟質粘土が分布する。にぶい黄褐色~明赤灰色を呈する。																										
94				花崗斑岩	灰褐	Eg	VIg	cg				91.52~92.00m: 硬さ「D」ないし「C」の径10~30mmの岩片と岩片間の風化砂の基質からなる。傾斜20~30°の割れ目が主体であるが、殆んどが消滅しかつている。基質の一部に幅1~3mmの軟質な白色粘土が脈状に分布する。91.94~92.00mは掘削時の擾乱により、径5~10mmに砕けている。	100	D'																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
															0	10	20	30	40												50											
91				花崗斑岩	灰褐	Dg	Vg	cg	2			0	CL'																													
					灰白	Eg	VIg	dg	3				4	D'																												
							Cg	Vg	2																																	
					灰褐	Eg	VIg	cg						3	CL'																											
							Cg	Vg	3																																	
92													92.00~92.15m: 上位より岩片は細片化し、径5~10mmの岩片が主体で粘土化することが多い。岩片間を幅1~2mの軟質な白色粘土脈が網状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。 92.15m以深では更に粘土化が進み、傾斜5°で幅40mmで軟質な硬質粘土状を呈する。全体ににぶい黄褐色を呈する。 92.19~92.94m: 92.48~92.66mを除き、原岩組織と割れ目はほぼ消滅し、著しく軟質化する。幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を伴う。 92.31~92.41m: コア掘削時の供回りによる攪乱で粘土化する。 92.48~92.66m: 傾斜30~40°とこれに斜交する60~70°の割れ目の一部が残留し、その一部に軟質な白色粘土を挟む。 92.94~93.12m: 傾斜10~20°とこれに斜交する40~60°の割れ目が分布する。割れ目の一部に幅0.5mmの軟質な白色粘土を挟む。また、一部の割れ目は薄く砂状化する。 ●93.12~93.24m: 破砕部 93.12~93.20m: 粘土質礫状~粘土混じり礫状部 (Hb) 上端65° 下端30° とともに直線的に連続。径1~3mmの石英粒、粘土化した径5~10mmの花崗斑岩の岩片主体で岩片間に幅1mmの白色粘土を挟む。やや軟質~やや硬質。にぶい黄褐色を呈する。幅50~100mmと膨縮する。 93.20m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜30°で幅2mmのやや軟質な灰赤色粘土からなる。ほぼ直線的に連続する。 93.20~93.24m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端30° 下端55° とともに直線的に連続する。径1~2mmの石英粒、粘土化した径5~10mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間に幅1mmの白色粘土を挟む。やや軟質~やや硬質。にぶい黄褐色を呈する。幅30mm。 93.24~93.43m: 硬さ「C」ないし「D」の岩片が残留するが、岩片間の基質は著しく軟質化する。基質中には幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が多く分布する。 93.41~93.43m: 一部は軟質な白色粘土化部となる。 93.43~94.40m: 94.00~94.14mは風化により不規則な形状で著しく軟質化するが、これ以外はやや硬質である。割れ目沿いに幅0.5~5mmの軟質な白色粘土脈を挟む。特に、94.14m以深では、傾斜70~80°の粘土脈が多数分布する。傾斜10~30°と70~80°の割れ目が主体で、上記の粘土脈のほか、割れ目の一部は風化で薄く砂状化する。 94.40~95.23m: 著しく軟質化し、一部で硬さ「C」、「D」の径10~30mmの岩片を含む。94.76m・55°と95.07m・65°の割れ目は直線的でシャープに連続する。前者は幅0~2mmの軟質な白色粘土を不連続に伴い、後者は幅1~2mmの軟質な灰赤色粘土を連続的に伴う。両者とも面を境として変質の程度が異なる。いずれの割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。																													
														1	D'																											
														4	CL'																											
														1	D'																											
														4	CL'																											
														3	D'																											
														3	D'																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
															N	10	20	30	40												50																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
96			+	花崗斑岩	灰褐	Eg	Vg	cg	δ	3		95.07~95.14m: 粘土化が進み、上下位よりも粘土量が多い。 95.23~99.46m: 97.90~98.70m間が変質で軟質化する以外は、やや硬質である。傾斜20~50°の割れ目が主体で、これらに斜交~直交する30~50°の割れ目も分布する。 96.28~96.48m: 各割れ目沿いに砂状化し、割れ目に幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。 97.80~98.70m: 割れ目沿いに砂状化し、幅0.5~1mmの軟質な白~灰赤色粘土脈を挟む。 97.83m: 傾斜60°の割れ目で、同系統の割れ目には横断する割れ目も見られる。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 98.37m: 傾斜45°の割れ目で、これと横断する割れ目と止まっている割れ目が見られる。割れ目を境に上下端の変質の程度が異なる。割れ目に粘土脈は挟まない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 98.44m: 傾斜30°の割れ目を境に変質の程度が異なる。割れ目には幅2~5mmで膨縮する軟質な赤灰色粘土脈を挟む。この割れ目とほぼ直交する割れ目が見られる。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 99.46~99.68m: 傾斜50~60°の割れ目が平行に分布する。割れ目沿いに変質が進み砂状化し、幅0.5~1mmの白~にぶい黄褐色の粘土脈を挟む。 ●99.68~99.71m: 破砕部 99.68~99.69m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端65°、下端63°でともにほぼ直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒、粘土化した径3~5mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間に幅1mm以下の白色粘土を挟む。やや軟質。灰赤~にぶい黄褐色を呈する。上端側の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。幅3mm。 99.69~99.71m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端63°、下端65°でともにほぼ直線状でシャープに連続。径1~2mmの石英粒、粘土化した径5mm前後の花崗斑岩の岩片を15%含む。やや軟質。灰赤~にぶい黄褐色を呈する。幅12mm。 99.71~100.00m: 傾斜50~70°と、これらに斜交~直交する30~40°の割れ目や低密着割れ目が分布する。各割れ目、低密着割れ目とも粘土脈は挟まない。 99.91m: 傾斜52°の割れ目は、直線的にシャープに連続し、交差する割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	0 50 100	D'	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
																																											97			+	灰褐	Eg	Vg	cg	δ	3		0 50 100	D'	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
																																																																											98			+	灰黄褐	Eg	Vg	cg	δ	3		0 50 100	CL'	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																																																																																																																																							
																																																																																																										99			+	灰褐	Eg	Vg	cg	δ	3		0 50 100	CL'	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																																																																																																								
																																																																																																																																										50.46	100.00		+	灰褐	Eg	Vg	cg	δ	3		0 50 100	CL'	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																																																																								
																																																																																																																																																																										50.46	100.00		+	灰褐	Eg	Vg	cg	δ	3		0 50 100	CL'	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																																																								
																																																																																																																																																																																																										50.46	100.00		+	灰褐	Eg	Vg	cg	δ	3		0 50 100	CL'	0	10	20	30	40	50																																																																																																																																								
																																																																																																																																																																																																																																										50.46	100.00		+	灰褐	Eg	Vg	cg	δ	3		0 50 100	CL'	0	10	20	30	40	50																																																																																																								
																																																																																																																																																																																																																																																																										50.46	100.00		+	灰褐	Eg	Vg	cg	δ	3		0 50 100	CL'	0	10	20	30	40	50																																																																								
																																																																																																																																																																																																																																																																																																									50.46	100.00		+	灰褐	Eg	Vg	cg	δ	3		0 50 100	CL'	0	10	20	30	40	50																																									
																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								50.46	100.00		+	灰褐	Eg	Vg	cg	δ	3		0 50 100	CL'	0	10	20	30	40	50										

H27-B-1

ボーリング柱状図

事業・工事名

ボーリングNo.																				1
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

ボーリング名	H27-B-1		調査位置	X:338.353, Y:1103.283		北緯	35° 45' 19.30"										
発注機関	日本原子力発電株式会社					調査期間	2015年5月23日 ~ 2015年8月11日		東経	136° 1' 1.43"							
調査業者名						主任技師			現場代理人			コアア 定者			ボーリ グ責任 者		
孔口標高	20.22 m	角			方			地盤勾配			使用機種	試験機		ハンマー 落下用具			
総掘削長	140.00 m	度			向			給水量	0.0%		エンジン		ポンプ				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状区分	岩種	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入 (N値~深度) 試験		原位置試験 (孔内水深) 試験	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
														N	値											
														0	50	100										
1			盛土																							
2																										
3	18.10	3.00	コア欠如	明褐色																						
4	17.31	4.11	硬質砂	黄褐色																						
	17.18	4.30	硬質砂	黄褐色																						
	17.11	4.40	硬質砂	黄褐色																						
	17.04	4.50	硬質砂	黄褐色																						
	16.93	4.65	硬質砂	黄褐色																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・r MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
													0	10	20	30	40												50						
6		15.55	6.60	砂礫	灰褐				5.40~5.60m付近には一部明赤灰色、明褐灰色、極暗赤褐色の礫が認められる。 5.72~5.74m：暗褐色シルト（スライム） 6.15~6.30m付近は礫が著しく減少する。 6.30~6.60m付近は径1cm以上の半クサリ礫の礫が多く含まれる。 礫種は花崗斑岩。礫径は2~50mmの垂角礫~亜円礫主体、一部最大径200mmの礫あり。 6.60~6.80m：スライムシルト混じり細~中粒砂からなる。 6.90~7.15m：礫混じり砂 礫率5~10%で半クサリ礫を多く含む。砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。礫種は花崗斑岩。礫径は2~30mmの垂角礫主体。 7.15~7.30m：有機質土 有機物を多く含む。 7.30~7.55m：礫混じり砂 礫率5~10%で半クサリ礫を多く含む。砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。礫種は花崗斑岩。礫径は2~30mmの垂角礫主体。 7.55~8.60m：スライムシルト混じり細粒砂からなる。	0	50	100																							
7		15.41	6.80	コア欠如 礫混じり砂	明褐灰																														
		15.16	7.15		黒褐																														
		15.06	7.30	有機質土 礫混じり砂	に ぶい 黄 褐																														
		14.88	7.55																																
8		14.14	8.60	コア欠如	灰黄褐																														
		14.03	8.75	礫混じり砂 コア欠如	明黄褐				8.60~9.50m：礫混じり砂 礫率10~15%でクサリ礫や半クサリ礫を多く含む。砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂。礫種は花崗斑岩。礫径2~30mmの垂角礫~亜円礫。 8.75~8.85m付近はスライムを挟む。																										
		13.96	8.85																																
9		13.50	9.50	礫混じり砂	褐灰				9.25~9.35m付近に黒色土（土壌）に挟まれた砂層が認められる。黒色土層、砂層共に55°傾斜し全体の幅は10cm（真幅は黒色土2cm、砂4cm、下2cm）。黒色土層（上下）中に植物片が認められる。 9.50~10.00m：スライムシルト混じり細~中粒砂からなる。																										
		13.15	10.00	コア欠如	灰黄褐																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)			
														(N 値 ~ 深度) 図																		
11	12.69	10.65		砂礫	黄褐					10.00~10.65m: 砂礫 礫率50%以上で半クサリ礫を一部含む。砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。径0.5~1cmの石英が多く含まれる。礫種は花崗斑岩で一部アブライト含む。礫径2~200mmの歪角礫~歪円礫。				0	10	20	30	40	50													
	12.41	11.05		コア欠如	灰黄褐					10.65~11.05m: スライム シルト混じり細粒砂からなる。																						
	11.84	11.85		砂礫	にぶい褐					11.05~11.85m: 砂礫 礫率50~60%でクサリ礫~半クサリ礫を含む。砂は0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。径0.5~1cmの石英が多く含まれる。礫種は花崗斑岩。礫径2~100mmの歪角礫~歪円礫。																						
12	11.66	12.10		コア欠如	にぶい黄褐					11.85~12.10m: スライム シルト混じり中粒砂からなる。																						
	11.39	12.49		粗砂	明褐					12.10~12.49m: 粗粒砂 礫率5%未満でクサリ礫を含む。砂は0.5~1.0mmの粗粒砂。礫種は花崗斑岩。礫径2~30mmの歪円礫。																						
13				花崗斑岩	にぶい黄橙	Eg	Vg	cg	e	12.49~94.07m: 花崗斑岩 12.49~14.84m: D 強く風化した砂状を呈するが、原岩組織は残留する。割れ目は一部消滅しているが、多くは残留している。所々、幅1mm程度の灰白色の粘土が脈状に分布する。割れ目は10~30°の低角度系が主体。																						
	14			花崗斑岩	にぶい黄橙	Dg			δ	14.84~24.44m: CL 全体に10~30°の低角度割れ目主体で、一部で割れ目沿いに風化で砂状化が進んでいる。18.30m以浅では所々、マンガン鉱染伴う。																						

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 ← (%) 最大コ ア長 → cm R Q D └ [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 日 月	(標準貫入) 試験					原 位 置 置 試 験 (孔内水平距離)	室 内 試 験 日 月	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 徑 (mm) ノ ズ レ 保 護	コ ア チ ュー リ ン グ ノ ズ レ 保 護	給 水 量 (L/分)	回 轉 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)										
														(N 値 ~ 深度) 図																								
		16		花崗斑岩		Dg		δ		15.22~15.44m: 硬さCの硬質岩片が 残留している。	0 50 100			0 10 20 30 40 50																								
		17		花崗斑岩		Vg				16.00~17.62m: 割れ目周辺に硬さ「 E」が部分的に分布する。	0 50 100			0 10 20 30 40 50																								
		18		花崗斑岩		Dg		cg		16.75~16.84m: 径30~40mmの硬さ「 C」の硬質岩片が塊状に分布。	0 50 100			0 10 20 30 40 50																								
		19		花崗斑岩		IVg		cg		17.44m: 傾斜15°の割れ目沿いに幅1 ~4mmが砂状化する。	0 50 100			0 10 20 30 40 50																								
				花崗斑岩				δ		18.10~22.19m: 上下に比べ割れ目少 なくなる(コアの形状IV)。	0 50 100			0 10 20 30 40 50																								
				花崗斑岩						18.31m: 傾斜10°で幅10mmマンガン 鉱染が脈状に分布、黒褐色化する。	0 50 100			0 10 20 30 40 50																								
				花崗斑岩						19.60m: 傾斜12°の割れ目沿いに幅1 0mm砂状化する。	0 50 100			0 10 20 30 40 50																								

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 目 の 状 態	風 化 化 質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル ノ ー ツ	給 圧 (kN · rpm / MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)						
													0	10	20	30	40												50					
21			+	花崗斑岩	に ぶ い 橙	Dg	IVg		20.37~20.42m: 傾斜10°の割れ目沿いに幅2~10mmで暗褐色の岩片混じり粘土を挟む。一部は不規則な割れ目に流入する。	14 (14)																								
22						Cg		cg	δ	21.16~22.01m: 割れ目沿いに幅10~30mmで砂状化する部分がある。	7 (0)																							
23						Dg	Vg			22.01~22.19m: 硬さ「C」の硬質部が残留。 3	14 (14)																							
24						Eg	VIg	dg	ε	23.05~23.80m: 20~30°と70~90°割れ目が交差し一部で交差部周辺で径10mm程度に細片化。岩片も硬さ「E」まで軟化している。割れ目面にマンガン汚染がみられる。 23.16m: 傾斜12°の割れ目沿いに幅15mmで緑色化する。	3 (0)																							
					Dg	IVg	cg	δ	24.16m以深では硬さ「E」も含む。全体に脆い岩片多い。 24.44~24.71m: D風化で土砂状を呈する。岩組織や割れ目はほぼ消滅している。 24.71~26.62m: CL 10~30°割れ目が主体で割れ目沿いの一部は砂状化する。	5 (0)																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
															(N 値 ~ 深度) 図																
26				花崗斑岩	にぶい橙	Dg	IVg	cg	δ	3	25.03m : 傾斜18°の割れ目沿いに幅7mmの石英脈。マンガン脈を伴う。周辺は黄褐色化する。	0	CL'																		
											26.00m以深では割れ目沿いの砂状化が更に進む。																				
27	1.13	27.00		コア欠如	にぶい黄橙	Eg	VIg	dg			26.62~27.60m : D 27.00m以浅では割れ目や原岩組織は残留するが、27.10m以深では両者ともほぼ消滅し砂礫状で採取されている。	0	D'																		
											27.00~27.10m : コア欠如。																				
28	0.42	28.00		花崗斑岩	にぶい橙	Dg	IVg	cg	δ	3	27.60~28.00m : CL 一部で密着度の低い割れ目やゆる割れ目を含み細片化し易いものも含まれている。	0	CL'																		
											28.00~28.19m : コア欠如。																				
29	-0.01	28.61		花崗斑岩	明褐色	Dg	Vg	cg	δ	3	28.19~28.61m : CL 割れ目沿いの一部で砂状化する部分も含む。	0	CL'																		
											-0.06 28.68																				
29	-0.29	29.00		花崗斑岩	明褐色	Eg	Vg	cg	δ	3		0	D'																		
											-0.35 29.09																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コアカ形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D ↳ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	コアカチューブ ノビット	給 回 送 水 量 (L/分)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	排 水 量 (L/分)														
															0	10	20	30	40											50													
66			花崗斑岩 に ふ い 橙	Bg IVg			IVg	δ	2		65.22~65.30m : 40° と 70° 割れ目が交差し、幅10~20mmと風化砂状部が拡大している。また、わずかながら白色粘土や微細な黄鉄鉱、セリサイトも伴っている。	10 (10)	CM'																														
				Cg Vg				Vg	δ			65.90m : 径20mmと大型な石英斑晶が晶出。	9 (9)	CL'																													
				Vg dg				Vg	ε	3		66.62~67.14m : D 径5~20mm硬質岩片と風化による砂状部からなり、砂礫状を呈する。 66.85m以深では原岩組織や割れ目の一部も残留する。また、部分的に灰白~淡黄色粘土も点在する。 66.97m : 傾斜55° で幅1~5mmの黄灰色粘土を挟む。	9 (9)	D'																													
67				Dg				Vg	δ			67.14~67.27m : CL 50° 割れ目沿いに軟化が進む。																															
				Bg IVg				IVg	δ	2		67.27~67.80m : CM 割れ目沿いに砂状化するものが多い。 67.40~67.47m : 径5~10mmに砕け角礫状化する。	9 (9)	CM'																													
				Eg Vg dg				Vg	ε			67.80~67.93m : D 50~60° 割れ目沿いに砂状化し、径10mm硬質岩片を含む砂礫状を呈する。																															
68				Cg Vg				Vg	δ	3		67.93~68.15m : CL 45° 割れ目沿いに薄い砂状部を挟む。																															
				Bg IVg				IVg	γ	2		68.15~68.60m : CM 割れ目に挟在物は分布しない。	12 (12)																														
				Eg Vg dg				Vg	ε			68.43~68.49m : コアチューブ引き上げ部の擾乱で、径5~20mm礫状~片状に砕けているが砂や粘土は挟まない。 68.60~69.05m : D 軟化著しい硬さ「E」であるが、原岩組織や割れ目は明確に残留している。 68.60~68.65m : コアチューブ引き上げ部の擾乱で砂状化している。 68.79~68.96m間は硬さCの硬質部を含む。 68.96~69.06m : 風化が著しく明黄褐色を呈する。																															
69				Cg Vg				Vg	δ	3		69.05~69.56m : CL 30~50° 割れ目主体。密着度の低い潜在割れ目も多く含む。割れ目沿いに厚さ1mm程度と薄く砂状化することが多い。 69.07~69.10m : 幅3cmでマンガンが濃集する。	3 (3)	CL'																													
				Eg Vg dg				Vg	ε			69.56~69.70m : D 少量の白色粘土細脈を伴う。																															
				Dg Vg				Vg	δ	3		●69.70~69.73m : 砕礫部 69.70m : 粘土状部 (Hc-1) 上下端55° で直線的に連続。軟質で、にふい黄褐色を呈する。幅1mm。 69.70~69.73m : 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端55° で、下端57° でいずれも直線的に連続。径3~10mm硬さE (粘土化)。Dの岩片で岩片間の一部は粘土化する。灰黄色を呈する。幅23mm。 69.73~74.10m : CL 硬さ「D」と硬さ「C」の区間が交互に出現する。硬さ「D」では割れ目に砂などの挟在物が分布するが、硬さ「C」区間では挟在物はほとんど分布しない。																															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														0	10	20	30	40												50		
71			+		Dg	Vg	cg	δ		70.06~70.59m: 45° 割れ目沿いに風化で砂状化する。	0																					
										70.43~71.27m: 硬さ「C」のうち、70.49~70.59mでは径5mmの白濁化した長石が多い。70.59m以深では少ない。																					10	(10)
72			+	花崗斑岩	Dg	Vg	cg	δ		71.27~71.60m: 45~60° 幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土が脈状に分布する。その一部は風化で褐色化する。71.37~71.50m: 径10mm前後の大型の石英斑晶が点在。岩片も硬さ「C」と周囲より硬化している。	0																					
										71.88m: 0~10° 幅1mm石英脈が密着して連続。																						
73			+	花崗斑岩	Cg	Vg	cg	γ	3	72.10~72.24m: 硬さ「C」区間では割れ目挟在物はほとんど分布しない。長石の一部は白濁化する。	0																					
										72.74~74.10m: 硬さ「D」主体だが、硬さ「C」の岩片も含んでいる。割れ目沿いに風化、砂状化することがある。																						6
74			+	花崗斑岩	Dg	Vg	cg	δ		73.35~73.38m: 厚さ25~40mmで締った砂状化を呈する。変質している。原岩組織は残留している。	0																					
										73.65~73.76m: 30° と60° の割れ目が交差し、径10~50mmの岩片状コアを呈する。																						
74			+	花崗斑岩	Cg	Vg	cg	δ		74.10~74.36m: CM	0																					
										●74.36~74.50m: 破砕部 74.36~74.40m: 礫質砂状部 (Hb) 上端27° で直線的に、下端30° で不明瞭に湾曲して連続。軟質で、径2~3mm石英粒、粘土化した径5mm岩片を約10%含む。にぶい黄褐色を呈する。幅0~30mm。 74.40~74.41m: 粘土状部 (Hc-1) 上端30°、下端30° でいずれも湾曲して連続。軟質で、径1mm石英粒をわずかに (5%以下) 含む。灰褐色を呈する。幅7mm。 74.41~74.50m: 礫質砂状部 (Hb) 上端30° で湾曲して連続。下端はコアチューブ引き上げによる擾乱部で不明。軟質で、径2~3mm石英粒、粘土化した径5~30mm岩片を10~20%含む。にぶい黄褐色を呈する。幅75mm以上。 74.50~75.57m: D 74.50~75.00m: コアチューブ引き上げ部周辺で礫状コアで採取され、割れ目状況など不明。																						6

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進速度 (cm/時)	掘進 掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) 孔壁保護	コアチューブ ノズレット	給 圧 (kN r pm MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																		
															(N値~深度) 図																																	
76				花崗斑岩							75.00~75.57m: 原岩組織は残置しているが、多くの割れ目は消滅している。		D'																																			
											75.57~76.00m: 破碎部																						75.57~75.71m: 粘土混じり岩片状部 (Hj)	75.71~75.73m: 縦混じり粘土状部 (Hc-2)	75.73~75.93m: 縦質粘土状部 (Hb)	75.93~76.00m: 粘土混じり~粘土質岩片状部 (Hj)	76.00~76.91m: D 硬さ「C」の径5~20mm岩片と綿った砂状からなり、全体的には綿った砂礫状を呈する。	76.91~77.19m: CL 割れ目沿いに砂状化するものもある。	77.19~78.00m: D 著しく軟化するが、原岩組織と割れ目の一部は残置する。	78.00~78.43m: CL 60~80° 割れ目主体。これに斜~直交する30° も混入。割れ目の一部は厚さ2~3mmの砂を挟む。	78.43~78.72m: D 風化・砂状化が拡大し、綿った砂礫状を呈する。	78.72~78.87m: 破碎部	78.87~82.51m: CL 78.87~79.27m: 硬さ「D」主体。長石の白濁化が多い。傾斜85~90° の割れ目が分布する。	79.02m: 55° 厚さ3mm褐色砂~径2mm細片化岩片挟む。	79.27~80.66m: 硬さ「C」主体。上端側の79.27~79.59mは硬さ「B」と堅硬。	79.54m: 傾斜50° で幅0.5~1mmの灰白色粘土を挟む。	79.69~79.95m: 褐色化するが珪化のため硬さ「C」と硬質。	79.96~80.23m: 45° 前後の割れ目が多い。これらの割れ目には褐色粘土やマンガン厚さ0.5~3mmで挟んでいる。

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化質	記	事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験		原位置試験 (孔内水平応力)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コァチューブ/ピット	給転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
															(N 値 ~ 深度) 図	() 値															
			花崗斑岩	灰褐色		IVε	γ			80.30~80.40m: 割れ目沿いに砂状化が進む。 80.30~80.35m: コァチューブ引上げ時に発生した角礫状コァ。	0																				
81					Dg	cg		3		80.66~81.87m: 硬さ「D」中に硬さ「C」の径2~3cm岩片が断片的に分布。 80°前後の高角度割れ目が多い。 81.17m: 55°割れ目に厚さ10~15mmで砂と褐色粘土状。挟持物中と割れ目周辺に径0.5mm以下の微細な白雲母伴う。周辺は幅1cm程度緑色化している。	50																				
					Vg	δ					81.82~81.87m: コァチューブ引上げ部で締った砂礫状とする。 81.87~82.51m: 割れ目沿いに砂状化する部分も含まれる。10~30°と50~70°程度の割れ目がみられる。																				
82					Cg						82.51~82.62m: D風化で砂状化する。径0.5~1cmの花崗斑岩岩片が断片的に分布する。 82.62~82.94m: CL割れ目沿いに砂状化進む。一部で幅1~2mm白色粘土脈状。																				
83			Eg	Vg	dg	ε			82.94~84.09m: CMゆる割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。割れ目の挟持物は少ない。30~50°と70~90°の割れ目が3~10cm間隔で分布する。 83.30~83.47m: 長石の一部が白濁化する。																						
			Vg	cg	δ																										
84			IVε	γ	2				84.07~84.09m: 上傾45°、下傾65°割れ目で囲まれ、砂状化~細片状化する。厚さ1~10mmで厚さ3mmレンズ状の淡黄色軟質粘土とマンガン鉱染伴う。 84.09~84.92m: CH60~80°の高角度の「ゆる割れ目」を伴うが、密着度は高くハンマーの打撃でも分離しない。 84.50m: 36°割れ目の一部に厚さ2~3mmのマンガンを伴う。 84.82~84.92m: コァチューブ引き上げ時の擾乱により、割れ目交差部で一部片状コァ。岩片自身は堅硬で劣化や挟持物は伴わない。 84.92~85.38m: CL下位破砕部の直線的なせん断面と同方向の50~60°割れ目やゆる割れ目が多い。																						
			Bg	bg																											
			IIIε																												
			Cg	Vg																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ベットの	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																
															(N 値 ~ 深度) 図																																															
				花崗斑岩	灰褐	Cg	IVε	cg	δ	3	85.01m: 幅1mm以下、22°石英脈が50°割れ目と斜交して連続。		CL'																																																	
86											Eg																					Vg	cg	δ	3	●85.38~85.41m: 破碎部 85.38~85.41m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端45~50°で1箇所屈曲するが、これ以外は直線的に、下端47°で直線的に連続。軟質で、径2~3mm石英粒と径3~5mm粘土岩片と基質の砂状~粘土状部からなる。にぶい黄褐色を呈する。幅20~25mm。上端の割れ目沿いにマンガン鉱染受け黒褐色化する。 85.41m: 粘土状部 (Hc-1) 上端47°、下端47°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1mm石英粒をごくわずかに(5%以下)含む。灰黄褐色を呈する。幅2mm。 85.41~85.92m: CL 上位の破碎部の直線的なせん断面と同方向の40~60°割れ目主体、砂や粘土を挟む。所々、割れ目沿いに幅1~2cm程度緑色化を呈する。	8	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	
																																				87																										
88											Eg																					VIε	dg	ε	3		87.51~87.93m: CL 割れ目沿いに風化が進んでいる。全体に硬さ「C」の岩片が主体である。割れ目には風化起源の締った砂、粘土脈、マンガンを含むことが多い。 87.81~87.90m: 傾斜60°程度で細片化著しい。マンガンを伴う。 87.90~88.51m: 硬さC主体、傾斜20°と50°の割れ目が交差し細片化している。 88.06m: 傾斜52°で幅2mmの赤褐色粘土を挟む。周辺は幅5mm程度で緑色化している。	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
																																				89																										
											Cg																							δ	3			89.25~89.56m: 上下に比べやや割れ目が少なくなる。	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
																																																														Bg
											Eg																					Vε		δ	3					6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
																																							Bg																							IVε
											Eg																					VIε		ε	3						6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
																																							Bg	IVε																						
											Eg																					VIε		ε	3							6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
																																							Bg	IVε																						γ
											Eg																					VIε		ε	3								6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
						Bg	IVε		γ	2			6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6					6	6	6																								
											Eg	VIε																					ε	3					6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6		
						Bg	IVε		γ	2				6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6				6	6	6	6																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%)	岩級区分	最大コア長 (cm)	R Q D [%]	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)								
																	(N 値 ~ 深度) 図	0	10	20	30												40	50						
91				灰褐		Bg	IV _E	γ	2		90.70~91.00m: 傾斜80° の割れ目が発達する。 91.16~91.25m: 低角度割れ目と高角度割れ目が交差し、径10mm前後の細岩片状に砕けている。下端にマンガン鉱染伴う。	7		100																										
							Cg	V _E	δ	3																														
							Bg	IV _E	γ	2																														
							Cg	V _E	δ	3																														
92				花崗斑岩			Bg	IV _E	γ	2		92.32m: 53° 割れ目沿いに径0.5mm前後の鐵礫(セリサイト?)が晶出している。周辺は幅3mmで緑色化する。	6		100																									
								Cg	V _E	δ	3																													
93				明褐灰			Bg	IV _E	γ	2		92.60~94.07m: 傾斜30~90° の割れ目にマンガンを挟むことが多い。 93.53~93.61m: D 割れ目沿いに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。	4		100	CL																								
								Cg	V _E	δ	3																													
								Eg	VI _E	dg																														
								Dg		δ	3																													
94	46.30	94.07		アプライト			Bg	IV _E	γ	2		94.00~95.85m: CL 94.07~94.88m: 上下端65° で貫入するアプライト。上下端とも割れ目化し、破砕や変質粘土は伴わない。貫入面(65°)に60° 斜交~直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。一部で層状の模様(65~60°)をもつ。直上の花崗斑岩と直下のアプライトに破砕や変質は与えていない。 94.88~97.00m: アプライト 94.88~95.67m: 傾斜30~60° の割れ目の一部に幅1~2mmの灰白色粘土やマンガンを伴う。	6		100																									
								Cg	V _E	cg																														
							明褐灰																																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D ↳ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
															0	10	20	30	40												50					
96				アブライト	明褐灰	Cg	Vg	δ	3		95.22~95.25m: 割れ目沿いに砂状化・マンガン伴う。 95.30~95.45m: 緑色帯びる。 95.85~96.58m: CM 硬さ「B」と硬いが、密着度の低い割れ目が多く、一部で細片化する。傾斜10~20°とそれと直交する50°の割れ目がみられる。 96.00~96.10m: 割れ目沿いに幅1~2mm砂状化し、灰白色粘土脈も挟む。	0	CL'																							
97	48.37	97.00		アブライト	灰褐	Cg	Vg	γ	2		96.58~97.11m: CL 傾斜50°程度の割れ目が多く、一部に幅1mmの灰白色粘土や砂状化した部分を挟む。 96.71~96.76m: 傾斜50°の割れ目が密集し細片化する。コアは軟質である。 97.00~140.00m: 花崗斑岩 全体に珪化し、組織が不明瞭になっている。所々、アブライトを挟む。	0	CL'																							
98	48.77	97.57		アブライト	花崗斑岩	Bg	IVg				97.57~101.85m: アブライトを挟む。花崗斑岩との境界は上端45°の割れ目。下端90°で付着している。 97.57~97.88m: D 硬さ「C」の岩片も残留するが、全体は締った土砂状。下端付近の97.85mに40°幅1~5mm赤褐色鉱物脈が分布。全体にマンガン脈を挟み、97.71~97.85m間は大きくうねった割れ目が密集する。 97.88~100.51m: CM 硬質で風化と変質も弱くなる。密着度が低い割れ目やゆるぎ割れ目が多く10cm以上の柱状コアはごくわずか。割れ目挟在物はほとんど認められない。 97.88~101.00m: 割れ目沿いに酸化・マンガン汚染がみられる。	0	CL'																							
99				アブライト	灰褐	Bg	IVg	bg	γ	2	99.03m: 35°割れ目に微細な黄鉛鉱が晶出している。	0	CM'																							
				アブライト	褐灰																															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
															(N) 値	0	10	20	30												40	50
101	51.34	101.20	[花崗斑岩]	アフライト	褐灰	Bg	IVg	bg	γ		100.00~100.51m: ゆ着割れ目や密着度の低い割れ目が多く細片化し易い。	0	CM'																			
											100.51~100.72m: CL 風化で一部割れ目沿いに砂状化し、幅5~10mmでマンガン鉱染も受ける。																					
											100.72~102.35m: CM 割れ目には挟在物はほとんど認められない。一部でゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。全体に径2~3mmの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。																					
102	51.62	101.60	[花崗斑岩]	アフライト	IVg						101.20~101.60m間は斑晶がやや多く花崗斑岩となる。アフライトとの境界は漸移的である。	0	CM'																			
											101.57~101.58mと102.00~102.05m間は割れ目沿いに片状~線状に砕けているが、粘土や軟化部は分布しない。																					
											101.61~101.72m: 傾斜70~80°の割れ目の一部に白色脈(幅2mm以下)を挟む。																					
103	51.80	101.85	[花崗斑岩]	アフライト	IVg						102.05~102.35m: 高角度で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。	0	CM'																			
											102.35~105.00m: CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。部分的に割れ目沿いに薄く砂状化した粘土脈やマンガンを含み、全体では挟在物はほとんど含まない。径2~5mmの暗緑色鉱物(緑泥石)が点在する。																					
											102.65m: 傾斜50°で幅1mmの石英脈を伴う。 102.75m: 傾斜50°の割れ目に沿って白濁化している。																					
104			[花崗斑岩]	アフライト	Bg						103.30m: 傾斜70~80°で互いに交差する幅1~5mmの石英脈を伴う。	0	CH'																			
											103.52~103.54m: 割れ目沿いに薄く砂状化する。																					
											103.98m: 傾斜50°の割れ目に沿って幅5mm程度緑色化している。																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記	コア採取率 ← (%) 最大コア長 cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
													(N値~深度) 図																										
				花崗斑岩			IV _E cg		105.23~105.25m: 65° 割れ目は幅1~3mmの緑色粘土脈挟む。破碎は伴わない。	0			0	10	20	30	40	50																					
				花崗斑岩			III _E g		105.72m: 傾斜60° で幅1mmの緑灰色粘土を挟む。	23																													
106				花崗斑岩			Bg	γ 2	106.30~108.50m: 所々、長石の緑泥石化が見られる。 106.33m: 60° 割れ目沿い幅5mmが細片化する。粘土は伴わない。	14																													
				花崗斑岩			IV _E bg			26																													
				灰褐			III _E g																																
				灰褐			IV _E g		107.40~107.83m: CM 107.52~107.55m: 各々40°、53° 割れ目に囲まれ細岩片化~砂状化する。粘土は伴わない。	1																													
				灰褐			Cg	V _E cg δ 3	107.83~108.24m: CL 風化で割れ目沿いに軟化が進む。																														
				アブライト					108.20m: 50° 割れ目と周辺の割れ目はマンガン脈を受ける。 108.24~109.99m: CM 硬質であるが、ゆる割れ目や密着度が低い割れ目が多くハンマーの強打で細片化する。割れ目には挟在物はほとんど分布しない。 108.64~108.76m: アブライト脈を挟む。上端・下端とも50° 程度で境界は明確でゆるしている。	9																													
				アブライト						9																													
				花崗斑岩			Bg	IV _E bg γ 2	109.00~109.14mと109.41~109.60m間は割れ目が密集し、長さ10~30mm主体の硬質岩片化している。	9																													
				花崗斑岩					109.99~110.43m: CH ゆる割れ目や密着度の低い割れ目を含まない棒状コアからなる。																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記号	備考	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・r MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														(N)	(m)														
111	58.07	110.72	+	花崗斑岩	褐灰	IIIg				110.43~112.04m: CM 堅硬で割れ目に挟在物はほとんど分布しない。	0 50 100 20 133	CM'																	
				アブライト	暗緑灰	Bg IVg		110.72~111.54m: アブライト脈を挟む。上端15°で機械割れ、下端45°で湾曲し、境界は明瞭で一部ゆ着している。 111.13~111.37mは緑泥石化で暗緑色を呈する。																					
112	58.65	111.54	+	花崗斑岩	灰褐	bg	γ	2		111.37~111.54mは最大径2cmの石英、カリ長石からなるペグマタイト。前者の境界部はよく密着し、破碎や変質は伴わない。	0 50 100 1 120	CL'																	
				にふい橙	灰褐	Cg Vg		112.04~112.83m: CL 30~60°とこれに直交~斜交する50~70°割れ目が主体。割れ目交差部の一部では岩状化する。 112.04m以深は硬さ「C」主体で、一部の割れ目沿いは風化で薄く砂状化する。粘土化や粘土脈は分布しない。全体にマンガン鉱染を軽微に受け、割れ目の面沿いは薄く黒褐色化する。高角度割れ目が発達している。																					
113			+	花崗斑岩	明褐灰	Dg	cg	3		112.83~113.51m: CL 割れ目沿いに砂状化が進むことが多い。 113.03~113.31m: 消滅したり、消滅しかかっている割れ目も分布する。 113.10~113.13m: コアチューブ引上げ時に乱され、硬状コア化している。全体に灰白~灰黄色の粘土脈を伴う。	0 50 100 4 10	D'																	
				灰褐	VIg Vg VIg	dg δ	3	●113.51~113.60m: 硬砂部 113.51~113.56m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端55°で、下端66°でいずれも波打って連続。径5~10mm硬さDの岩片で、岩片間は薄く粘土化~砂状化する。灰褐色を呈する。幅20~35mm。 113.56m: 粘土状部 (Hc-1) 上端66°、下端66°でいずれも小さく波打って連続。途中で幅1mmの粘土に分岐する。軟質で、径1mm石英粒わずかに含む。灰白色を呈する。幅1~2mm。 113.56~113.60m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端66°で小さく波打ち、下端63°、幅1mm以下のにふい橙色の直線的な軟質粘土として連続。径5~10mm岩片と岩片間の粘土~砂状部からなる。このうち、113.58~113.60mは硬質砂状を呈し、灰褐色を呈する。幅15~20mm。 113.60~113.70m: D 径2~20mmの亜角礫を30%程度含む暗褐色砂状部。下層境界は2系統の割れ目に沿っており、一部は割れ目を充填している。やや軟質。																					
114			+	花崗斑岩	明褐灰	Cg	Vg	cg	2		0 50 100 5 10																		
				VIg dg	ε	3	113.70~114.00m: 傾斜45°程度の2系統の割れ目が分布し、一部は砂礫状を呈する。 114.00~114.75m: CL 高角度80°と低角度20°の割れ目が交差し概ね30mm以下に岩片化。割れ目の一部は砂状化~マンガン鉱染を受ける。一部は掘削時に岩片化したものを含む。 114.75~115.52m: D 風化著しく大半が砂状化し、砂礫状を呈する。一部は掘削時に岩片化したものを含む。																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長さ (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
														0	10	20	30	40												50							
116			花崗斑岩	明褐灰	Eg	VIg	dg	ε	3	115.28m以深では割れ目の一部が残留している。 115.52~118.63m: CL 60~70°の高角度割れ目と30°前後の低角度割れ目が交差する。割れ目沿いの多くは砂状化する。一部は掘削時に岩片化したものを含む。	0	D'																									
117				にぶい褐	Cg				2	116.87~117.00m: 径10mm前後の塊状コア。これは掘削時に割れ目沿いの砂状部分が流失したためと推定される。 117.00~118.26m: 割れ目沿いに砂状化が進んでいる。岩片は径10~30mm硬さ「C」主体。割れ目は60~70°とこれにほぼ直交する40°前後が多く、交差部では径5mm前後に細片化するものもある。所々、幅1~3mmの灰白色粘土を挟む。 117.25m, 117.82mなど、60~70°割れ目は40°割れ目を止めている部分がある。止めている割れ目に細粒部は伴わない。もしくは局所的にしか分布せず。割れ目周辺の原岩組織は明瞭に認められる。	3	CL'																									
118				にぶい橙	Dg				δ	3	118.10~118.26m: 割れ目の一部は軽微なマンガン結晶を受ける。 118.26~118.63m: 上位よりも更に割れ目沿いの砂状化が進んでいる。厚さ1~2mmの白色粘土脈を網目状に挟む。	2																									
119				にぶい黄褐	Eg						●118.94~119.12m: 磁砕部 118.94~119.10m: 砂混じり岩片状部 (H) 上端32°, 下端60°でいずれも直線的に連続。直線的なせん断面に平行な割れ目とこれに60°前後で斜交する割れ目が多く、径5~10mmに細片化した岩片と岩片間の一部に砂状化する。にぶい黄褐色を呈する。 119.10~119.12m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端60°で直線的に、下端60°で波打って連続。軟質で、径1~2mm石英粒、径3~10mm粘土化~硬さ「D」岩片を10~20%含む。粘土中には、表面がマンガン化した径1mmの石英粒が多い。浅黄色を呈する。幅13~15mm。また、下端~上端へ斜交する幅2mmの軟質な黒色粘土脈が分布する。	4	D'																								
				灰褐	Bg	IVg			γ	2	119.12~119.30m: CL 60~70°高角度割れ目とこれに斜交する40°割れ目が多く細片化するが、挟在物はほとんど分布しない。一部は掘削時に岩片化したものを含む。 119.30~120.78m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。 119.30~120.00m間は傾斜30~60°程度の割れ目が1~5cm程度の間隔で分布し、120.00~120.78m間は傾斜10~30°程度の割れ目が1~10cm程度の間隔で分布する。	0	CM'																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N 値 ~ 深度) 図				原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)																									
													0	10	20	30																																				
121			+	花崗斑岩	灰褐	Bg	bg	β	2	120.78 ~ 122.00m : CH	CM'																																									
										121.09 ~ 121.16m : アブライト脈を挟む。上端20°、下端15°で屈曲した明瞭な境界をもち、面はゆ着している。																																										
122										122.00 ~ 125.06m : CM 一部で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。すでに開口割れ目化するものも多い。割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。																																										
										122.36m : 傾斜52°、幅5~10mm程度で暗緑色を呈する。																																										
123			+						123.38m : 割れ目交差部で幅2~3mm細片状化するが、風化砂状部や粘土化部は狭まない。	IVg	CM'																																									
									124.54m : 55° 割れ目面に厚さ0.5mm、軟弱灰緑色粘土がフィルム状に付着する。																																											
124					褐灰																																															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値 ~ 深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
																(N)	(N)	(N)	(N)	(N)															
		126	花崗斑岩	褐灰		IV _g		β			125.06~125.28m: CL ゆ着割れ目などから分離・細片化している。砂や粘土は挟まない。	0	50			0	10	20	30	40	50														
		127									B _g																								γ
		128		B _g	γ	127.16~127.25m: 径10mm前後で角礫化している。下端の45°割れ目面には幅10mmが径2~5mmで細礫状化し、風化で淡褐色化する。	9 [9]	100																											
		129				B _g	γ	127.68~128.08m: CL 厚さ5~10mm程度の片状コア主体で、挟在物は下端部の128.05~128.08mが径3~5mm硬質岩片を含む「硬質砂」状を呈する以外、砂、粘土など挟まない。一部は鋭削時に岩片化している。 128.08~128.64m: CM 各割れ目面は薄く淡褐色化し直上よりも風化するが、砂や粘土など挟在物は認められない。			8 [9]																								100
		129	B _g	γ	128.64~128.88m: CL 径10mm前後に細かく砕けた角礫状コアで、各割れ目面には砂が付着することがある。割れ目沿いに風化が進行していると推定される。 128.88~129.91m: CM 60~70°の高角度と30~40°の中角度割れ目の交差部では径10mm前後に片状~角礫状化するが、砂状部や粘土化部は挟まない。			8 [9]	100																										
					B _g	β	129.91~131.93m: CH 一部のコアにはゆ着割れ目や密着割れ目を含むが、ハンマーの強打でも密着し、分離・細片化しないものが多い。	11 [11]	100																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
														(N 値 ~ 深度) 図	(N) 値												
131			花崗斑岩		褐灰	Bg	bg	β	2	130.00~140.00m: 灼着割れ目が約10mm間隔で分布。	CH'																
		131.40~131.59m: 径20~30mmに角礫状化しているが、これはロッド引上時に生じた人為的な現象と推定される。																									
132		131.93~138.07m: CM 灼着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。既に開口化しているものも多い。割れ目の一部は風化で薄く砂状部を挟むことがあるが、挟在物がない(b)割れ目が主体。 132.07~132.24m: 径10~20mm角礫状化する。割れ目面に砂が付着するものが多い。微細な黄鉄鉱も伴う。同区間は珪質である。 132.18~132.33m: アブライト脈を挟む。上端はコアチューブ引き上げ部で不明、下端は0°で明瞭な境界をもち、面は灼着している。																									
133		133.20~133.25m: アブライト脈を挟む。上端、下端とも傾斜5°で明瞭な境界をもち、面は灼着している。 133.40~134.00m: 灼着した密着割れ目沿いに開口化し、径10mm前後に細かく砕けている。																									
134									133.82m: 60°割れ目沿い幅20mmが径3~5mmの細片状化しているが、風化に起因する砂や粘土は挟んでいない。	CM'																	
		134.78m: 傾斜35°で幅2mm以下の石英脈を挟み、一部に白色の細脈を伴う。 134.87~134.91m: 傾斜56°、幅25mmで緑色化している。																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
													0	10	20	30	40												50										
136				花崗斑岩	褐灰				135.41m: 傾斜20°の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。 135.45m付近: 傾斜55°の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。	0	CM'																												
									Bg	β		135.80~136.00m: ゆず割れ目沿いに開口し、長さ10~30mm程度に鱗片化している。	10																										
137									IVg			137.00~138.07m: ゆず割れ目が多いが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。すでに開口割れ目化しているものも多い。径2~3mm暗緑灰色の緑泥石が斑点状に点在する。	20																										
									bg							138.07~138.44m: CM 密着度の低い潜在割れ目を多く含み、全体として硬さ「C」である。長石の白濁化や割れ目挟在物はほとんど認められない。径2~3mm暗緑灰色の緑泥石斑点が多い。	30																						
138									Cg	γ		138.44~138.80m: CH 堅硬、塊状、ゆず割れ目が多いが、密着度高くハンマー強打でも分離しない。	40																										
139									138.80~139.82m: CL 139.18m以浅は硬さ「C」、以深は軟化が進み「D」である。全体に割れ目挟在物はほとんど含まない。 138.93m: 60~70°厚さ5~10mmで湾曲しながら石英脈が密着~一部割れ目化して連続。 138.95~139.08m: 30~40°と70°割れ目が交差し岩片状を呈する。劣化は軽微ない。 139.18m以深は上位より風化と変質が進む。 139.31m: 72°割れ目沿い厚さ2~3mmマンガン鉱染発ける。	50																													
	78.77	140.00							●139.82~139.88m: 破砕部 139.82m: 粘土状部 (Hc-1) 52°で直線的に連続。軟質で、石英粒、岩片を含まない。暗緑灰色~灰褐色を呈する。幅0.5~1mm。 139.82~139.88m: 砂混じり岩片状部 (Hj) 上端52°、下端52°でいずれも直線的に連続。径3~5mmに細かく岩片化。岩片間は砂状化(粗粒砂主体)。岩片の多くは直線的なせん断面方向に配列している。マンガン汚染し、暗緑灰色を呈する。幅40mm。 139.88~139.95m: D 直線的なせん断面と平行に近い割れ目が多い。原岩組織は残留する。マンガン汚染著しい。 139.95~140.00m: CL 硬さ「C」岩片主体。																														

余白

H27-B-2

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
														0	10	20	30	40												50				
		21	花崗斑岩 明褐灰							20.25m : 30° の割れ目に幅1~5mmの黄灰色砂状部を挟む。																								
		22								IV _g D _g				δ	20.90m : 5° の割れ目沿いに幅約10mm砂状化を呈する。	21.67m : 0° の割れ目に幅1mmの暗灰色粘土を挟在する。上端側の幅10mmは淡黄褐色を呈する。 21.79~26.82m : 硬さ「C」が主体であるが、硬さ「D」も含み両者が交互に出現する。割れ目沿いに風化で砂状化する部分が多い。 21.90m : 径10mmの石英斑晶が80° の割れ目で横断される。80° の割れ目は1条ではなく、分岐しており、分岐したそれぞれの割れ目は不連続である。高角度割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目も存在しない。 22.10~22.50m : 硬さ「B」で硬質。	18 (18)																	
		23								V _g C _g IV _g B _g II _g C _g V _g D _g					23.22m : 10° の割れ目に幅5mmで黄灰色のやや硬質な砂を挟在する。	23.52m・30° と 23.82m・20° の各割れ目に幅1mmのやや硬質な灰褐色粘土脈を挟む。	23 (23)																	
		24								IV _g C _g				γ	23.89m : 25° の割れ目に幅5mmの黒灰色シルト質砂を挟在する。	37 (37)																		
																	37 (37)																	

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 目 の 状 態	風 化 化 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm / 時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル ノ ー ツ	給 圧 (kN · MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)								
													0	10	20	30	40												50							
26			+	花崗斑岩	明褐色	Cg	IVg	γ	25.41m : 20° 割れ目沿いに径0.5~1mmと微細な雲母(セリサイト)が晶出している。	1 (1)	100																									
							Vg		25.84m : 74° の割れ目は交差する5~10° の割れ目を止めている場合と横断する場合がある。割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。高角度割れ目と系統的な割れ目も存在しない。25.80mの高角度割れ目と交差する低角度割れ目には、ずれは認められない。	7 (0)																										
27							IVg		26.82m以深は硬さ「D」が主体となる。	9 (0)																										
							cg		27.04~27.90m : 割れ目面にマンガンが付着する。	3 (0)																										
28			+	花崗斑岩	明褐色	Dg	δ	27.91m : 20° で幅1mmの石英脈が交差する85° の割れ目を横断する。また、27.88mの低角度の潜在割れ目も85° の割れ目を横断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	3 (0)	100																										
								Vg	28.02m以深、10mm間隔の風化した割れ目が発達し、片状~層状化している。割れ目沿いに風化して砂状化することが多い。 28.24~28.94m : 割れ目に沿った風化・変質が見られる。 28.55m : 25° の割れ目に幅10mmの硬質な黄灰色シルト質砂を挟在する。		4 (0)																									
29							3		29.19m : 50° の割れ目に幅3mmの灰白色粘土を挟在する。	4 (0)																										

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟	割 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 日 月	標準貫入 試験 (N 値 ~ 深 度) 図					原 位 置 試 験 (孔 内 水 平 監 視)	室 内 試 験	掘 進 日 月	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル ノ ー ト	給 水 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)											
													0	10	20	30	40												50										
31			+	花崗斑岩	明褐色	Dg				30.10~30.82m : D 概ね径10mm以下に砕けている。風化で割れ目沿いに砂状化が拡大している。径5~30mmの硬さ「D」「C」岩片が多く残留し、硬質な砂礫状を呈する。基質は砂状部が主体であるが、灰白色粘土部も散在している。原岩組織や上部の割れ目は残留している。 30.82~31.15m : CL 割れ目沿いに砂状化することが多い。 ●31.15~31.66m : 破砕部 31.15~31.24m : 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端20°で直線的、下端15~28°で薄曲して連続。一部粘土化した径5~10mmの岩片と岩片間の粘土(幅1~2mm)の粘土細脈からなる。にぶい黄褐色を呈する。幅5~10mm。 31.24~31.28m : 粘土質礫状部 (Hb) 上端15~28°で薄曲して、下端38°で波打って連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの大半が粘土化した岩片を計20~30%含む。やや軟質。明赤灰色を呈する。幅20~30mm。 31.28~31.29m : 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜38°で上端は波打って、下端は直線的に連続。径2~3mmの石英粒を10~20%含む。やや軟質。灰黄褐色を呈する。幅5~10mm。 31.29~31.66m : 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端38°で直線的に、下端43°で波打って連続。径5~20mmの硬さ「C」主体(他に粘土化、硬さ「D」「E」含む)の岩片と岩片間の粘土からなる。にぶい褐色を呈する。 31.78~34.37m : D 風化で割れ目沿いに砂状化が拡大する。原岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。所々に幅1~3mmの白色軟質粘土脈を挟む。 31.91~31.96m : 25~30°の割れ目に軟質な幅1~3mmの褐色粘土を挟む。 32.45~32.59m : 8~48°の割れ目沿いに灰白色粘土を挟む。粘土は一部網目状に分布する。 33.00~33.25m : 粘土化が進み、原岩組織は不明瞭となる。 33.35~33.40m : 硬さ「D」の岩片主体。 33.60m : 5°で幅1mmの軟質な赤灰色粘土脈を挟む。 33.77m : 7°で幅5~8mmのマンガン鉱染部が脈状に分布する。 33.79~33.87m : 硬さ「D」の岩片主体。 33.96m : 深は原岩組織が不明瞭な硬質な砂状部主体。割れ目の一部は残留するが、消滅しているものが多い。 33.97m : 25°の割れ目に幅2~4mmの褐色粘土を挟む。	0	CL'																											
					明褐色	Eg	Vg	cg						1																									
					にぶい黄褐色	Dg									2																								
					にぶい褐色	Eg	VIg	dg							3																								
32			+	花崗斑岩	灰褐色	Dg					D'																												
					明褐色	Eg	Vg	cg					1																										
33			+	花崗斑岩	明褐色	Eg																																	
					明褐色	Eg	Vg	cg					2																										
					明褐色	Eg								3																									
					明褐色	Eg	Vg	cg						4																									
34			+	花崗斑岩	明褐色	Dg					CL'																												
					明褐色	Eg	Vg	cg					3																										
34			+	花崗斑岩	明褐色	Dg																																	
					明褐色	Eg	Vg	cg					3																										
34			+	花崗斑岩	明褐色	Dg																																	
					明褐色	Eg	Vg	cg					3																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)								
														(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																			
		36	花崗斑岩	明褐灰	Cg	Vg	cg	3		●35.36~35.46m: 破砕部 35.36~35.39m: 粘土混じり岩片状~粘土質岩片状部 (Hj) 上端やや不明瞭で47°で波打って、下端47°で1箇所小さく湾曲するが、これ以外は直線的に連続。径2~5mmの石英粒。径3~5mmの粘土化岩片からなるが、岩片の粘土化が進むため構造は不明瞭。灰黄色を呈する。幅2.5mm。 35.39~35.40m: 粘土状部 (Ho-1) 傾斜47°で上下端とも直線的に連続する。上端の一部は不明瞭。径1~3mの石英粒を10%含む。軟質。灰白~灰褐色を呈する。幅12~15mm。 35.40~35.46m: 粘土混じり~粘土質岩片状部 (Hj) 上端47°で直線的に、下端20~35°で湾曲して連続。径2~3mmの石英粒。径5mmの粘土化岩片からなる。上端側の一部は晶洞中に石英が多く晶出し、マンガン鉱染も伴う。灰黄~褐灰色を呈する。幅40~45mm。 35.46~35.69m: D 上下を破砕部に囲まれ粘土化が進んでいる。	CL'																							
		37			にんじいろ	Dg	Vg	cg	3		●35.68~35.73m: 破砕部 35.68~35.72m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端27°の褐色軟質粘土で波打って、下端20°で不明瞭ながら波打って連続。径3~5mmの粘土化岩片主体。明褐色を呈する。幅35~50mm。 35.72~35.73m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端20°で波打って、下端12°で直線的に連続。径1~2mmの石英粒を20%程度含む。やや軟質。淡黄色を呈する。幅10mm。 35.73m: 粘土状部 (Ho-1) 傾斜12°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片を殆んど含まない (5%以下)。軟質。灰黄褐色を呈する。幅1~2mm。 35.68~35.92m: D 上下を破砕部に囲まれ、粘土化が進んでいる。	D'																						
		38				明褐灰	Bg	Vg	cg	2		●35.92~35.95m: 破砕部 35.92m: 粘土状部 (Ho-1) 傾斜45°で上下端とも小さく波打って膨縮しながら連続。石英粒。岩片は殆んど含まない (5%以下)。やや硬質。灰オリーブ色を呈する。幅1~5mm。 35.92~35.95m: 礫質砂状~粘土質礫状部 (Hb) 上端35°。下端45°でいずれも小さく波打って連続。径1~2mmの石英粒。径2~5mmの粘土化岩片を20~30%含む。やや硬質。上位のHo-1の粘土と平行方向に幅1mm以下の灰赤色粘土細脈が数条分布。灰白色を呈する。幅2.0mm。 35.95~36.76m: D 36.05mは浅は粘土化が進み原岩組織は消滅している。 36.05mは深は割れ目。原岩組織ともに残留する。 36.60~36.70m: マンガン鉱染が著しい。 36.76~37.12m: CL 割れ目沿いに砂状化する部分もある。 37.12~37.60m: CL 岩片は硬いが (硬さ「C」)、一部の割れ目は幅1~3mmで薄く砂状化する。 37.60~38.05m: CL 割れ目沿いに幅10mm程度で風化が進行している。 38.05~38.46m: CM 岩片は硬質で割れ目が少ないが、割れ目には粘土や砂を挟む。 38.46~39.78m: CL 39.60~39.69m: 硬さ「D」ないし「E」で、上端側は砂状化している。 39.78~40.23m: D 原岩組織と割れ目は残留。一部の割れ目沿いに幅5~10mmで砂状化。	CL'																					
		39						Cg	Vg	cg	2																							
								Dg	Vg	cg	2																							
						Eg	Vg	cg	2																									

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図 分	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 裂 目 の 状 態	風 化 状 態	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D ↳ [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位試験 (孔内水平距離)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー プ ノ び ャ ッ ト	給 水 回 転 数 (rpm) (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																								
													0	10	20	30	40										50																							
		41	+	花崗斑岩 にぶい橙	Eg	Dg			40.23~41.90m : CL 20~40° 割れ目が主体。一部の割れ目は消滅しかかっているものもある。割れ目には薄く砂、粘土、マンガンを含んでいることが多い。 40.30~40.80m : 高角度割れ目沿いにマンガン濃集が見られる。	0 50 100																																								
		42											41.70~41.81m : コアチューブ引上げ時の擾乱で、径5~10mmに礫状化する。 41.90~43.94m : D 強風化により割れ目沿いの砂状化が拡大。硬質な砂状部と硬さ「D」の径10~20mmの岩片からなる砂礫状を呈する部分が主体。原岩組織や割れ目の一部は残留している。部分的に粘土北部やマンガン鉱染部も伴う。 42.30m : 45° の割れ目に幅10mmの灰黄色粘土を挟在する。																																					
		43	+	花崗斑岩 にぶい黄橙	Eg Vg cg δ 2	Dg			43.09~43.30m及び43.50~43.71m : 硬さ「D」が中石的に残留している。	0 50 100																																								
		44							Eg				43.46~43.55m : 割れ目沿いのマンガン鉱染が著しい。黒褐色化を呈する。																																					
		44							Dg				43.94~45.96m : CL 割れ目沿いに風化で砂状化が進む部分も含む。一部の岩片は硬さ「C」と硬質で残留する。 44.75m : 45° の割れ目沿いに幅20~25mmで緑泥石化変質により淡緑灰色化する。																																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
														N	10	20	30	40												50								
		46	花崗斑岩	明褐灰	Dg				δ	45.10~45.25m: 硬さ「C」の硬質岩片が分布。 45.96~46.31m: 硬さ「C」で硬質。割れ目は幅1~3mm程度で砂状化する。	0 50 100																											
					Cg																																	
					Dg	Vg	cg																															
					Cg																										γ							
					Eg	Vg	dg																															
		47		にふい黄褐	Dg	Vg	cg		δ	46.73~46.85m: D 原岩組織と割れ目は消滅している。硬さ「D」主体の径3~10mmに細岩片化している。 46.73~46.85m: 割れ目沿いに砂状化が進み、硬さ「E」が主体。 46.90~47.06m: 風化による二次石英が径1~2mmの斑点状~幅1~2mmの脈状で露出し、全体が硬さ「C」と硬質。 47.50~48.09m: CL 47.85m以達は硬さ「D」主体、47.85m以達は硬さ「C」主体で、47.85m以達は風化で割れ目沿いの一部は砂状化が進み、岩片自身も軟質化している。	0 50 100																											
					Eg	Vg	dg																															
					Dg	Vg	cg																															
					Eg	Vg	dg																															
					Cg	Vg	cg																															
		48	明褐灰	Eg	Vg	dg		ε	●48.08~48.12m: 破砕部 48.08~48.12m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端53°、下端56°でいずれも直線的に連続。径1~3mmの石英粒、径3~5mmの硬さ「D」岩片を20~30%含む。やや硬質、上端部にマンガン鉱染を伴う。灰黄褐~黒褐色 (上端部のみ) を呈する。幅20mm。 48.12m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜56°で上下端とも直線的に連続。径0.5~1mmの石英粒を20%程度含む。やや硬質。黒褐色を呈する。幅1mm。マンガン鉱染を伴っている。 48.12~52.42m: CL 概ね長さ5cm前後の短柱状コアが主体。 48.12~48.51m: 60~70°の割れ目が主体。割れ目に砂や粘土の挟在物が分布する。これらの割れ目は上位の破砕部と同方向に近い。 48.51~48.60m: 硬質な砂状化を呈する。 48.84~48.89m: 上端20°、下端33°の割れ目に囲まれ硬質な砂状化を呈する。 49.00~49.34m: 割れ目沿いに風化・砂状化が進み、コアチューブ引上げ時に乱され、礫状コアを呈している。密着割れ目も風化してハンマーの打撃で分離し易い。硬さ「C」が主体であるが、風化で軟質化した硬さ「D」や逆に堅硬な硬さ「B」も含む。	0 50 100																												
				Dg	Vg	cg																																
				Cg	IVg	cg																																γ
				Eg	Vg	dg																																δ
				Cg	IVg	cg																																γ
		49	にふい橙	Eg	Vg	dg		δ	2																													
				Dg	Vg	cg																																
				Cg	IVg	cg																									δ							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN / MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)																																																																																																																																										
															0	10	20	30	40												50																																																																																																																																									
51			+	にぶい橙	IVe	Vg	Bg	IVg	δ		50.44~50.67m: 硬さ「B」で堅硬。上下端は砂状化している。	0	CL'																																																																																																																																																											
																																51.15~51.50m: 上下位よりも石英斑晶が径5~15mmと大型化する(上下位側は径5mm前後主体)。	10																																																																																																																																							
																																																														51.51m以深は風化が進み、割れ目沿いの砂状化が広がり、径10~30mmの硬さ「D」岩片を含む「砂礫状」を呈する部分もある。	9																																																																																																									
																																																																																													52.18~52.22m: コアチューブ引き上げ部で、細礫混じり粗粒砂状を呈する。	1																																																																										
																																																																																																																													52.42~52.99m: CM 岩片は硬質であるが、一部に密着度の低い割れ目も含んでいる。割れ目は幅2~3mmで砂状化することが多い。	1																																										
																																																																																																																																																														52.99~53.20m: CL 割れ目沿いに砂状化が進む。消滅しかかっている割れ目が多い。	4									
				53.20~53.55m: D 原岩組織は残留するが、割れ目は消滅するが、しかかっているものが多い。硬さ「D」の径10mm程度の岩片が散在している。	4																																																																																																																																																																			
																																53.55~54.10m: CL 一部で硬さ「C」岩片も含み全体が不均質。長石は大半が白濁化する。	4																																																																																																																																							
																																																														54.10~54.72m: D 風化で砂状化が著しい。	4																																																																																																									
																																																																																													54.37~54.46m: 硬さ「D」の岩片が残留する。	4																																																																										
																																																																																																																													54.60m以深は粘土化が進む。	4																																										
																																																																																																																																																														●54.72~54.77m: 破砕部 54.72~54.77m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端48°で波打ち、下端39°で直線的に連続。径2~4mmの石英粒と粘土化した径5~10mmの岩片を30~50%含む。軟質。マンガン鉱染を一部に伴う。明褐色を呈する。幅40~50mm。 54.77m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜39°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片は殆んど含まない (5%以下)。軟質。灰褐色を呈する。幅3mm。 54.77~55.24m: D 全体に粘土化が進む。	4									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
															0	10	20	30	40												50						
		56	花崗斑岩	明赤灰	Eg	Vlg	dg		4		55.00m以浅は岩片やマンガン鉱染部を脈状に含む。 55.00m以深は白色粘土化部や赤灰色粘土細脈を多く含む。 55.24~57.70m: CL 硬さ「D」。岩片が主体。割れ目沿いに風化が進む部分では硬さ「E」や硬質な砂状部も分布する。割れ目沿いにマンガン鉱染を受け、割れ目面とその周辺は黒褐色化することが多い。	0	D'																								
		57		灰黄褐	Dg	Vg	cg			δ		56.83~57.00m: 割れ目沿いの風化が進み、砂状化する。残留する硬さ「D」の径5~10mmの岩片とともに砂礫状を呈する。 57.00~57.45m: 密着度の低い割れ目が密集し、径10mm程度に細岩片化する。硬さ「C」の岩片も多く含む。	2																								
		58		にぶい黄橙						2		57.45~57.70m: 割れ目沿いに砂状化が進み、全体に上位より軟質化が進む。 57.70~57.99m: CL 原岩組織と割れ目は残留するが、全体に風化による砂状化部が拡大し、一部は硬質な砂状部となる。	3	CL'																							
		59		にぶい褐	Cg							57.99~58.28m: CL 岩片は硬いが、20~30°の割れ目が10~30mm間隔で同方向に発達。マンガン鉱染も伴う。 58.28~58.73m: CM マンガン鉱染で割れ目は黒褐色化するが、砂や粘土などの挟在物は分布しない。	8																								
												58.73~59.71m: CL 割れ目沿いに砂状化し、密着度の低い割れ目も多い。全体として脆い。																									
				灰褐	Dg	Vg	cg					59.35~59.54m: 硬さ「C」主体。	3																								
					Cg	IVg	bg					59.71~60.00m: D 強風化で硬質な砂状部主体。径10mm前後の岩片が残留し、砂礫状を呈する。	3	D'																							
					Dg	Vg	cg																														
					Eg	Vlg	dg			e																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コアカ形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
														N	値	値	値	値																			
66			花崗斑岩	灰褐色	Bg IIIg bg β					65.00~65.17m: 柱状コア (コア長17cm)。		CH																									
					Eg VIg dg e								65.18~65.36m: D 割れ目沿いに砂状化が拡大し、硬質な砂礫状を呈する。 65.36~69.05m: CL 岩片は堅硬であるが、割れ目沿いに砂状化が進むことが多い。粘土化部や粘土層は殆んど含まない。上端側と下端側は短柱状コア主体、中央部は片状コア主体で一部割れ目沿いに砂状化が進む。																								
				にぶい橙	Cg	IVg	cg	γ					65.96~66.01m: 砂状化が進んでいる。																								
													Dg	cg	δ				66.20~68.01m: 上下位に比べ風化がやや進む。 66.39~66.65m: 割れ目沿いに砂状化が進む。 66.39~66.44m: コアチューブ引上げ時に乱され、径10mm前後の岩片状コアを呈する。 66.65~67.00m: 硬さ「B」の堅硬な岩片も多く含む。																		
67				にぶい黄橙	Cg	Vg	cg	γ					67.00~67.46m: 落下コア回収のため岩片状を呈する。																								
													Dg	cg	δ				67.48~67.63m: 柱状コア (コア長15cm)。 67.65~68.05m: 硬さ「D」の岩片主体で一部割れ目沿いに砂状化する。																		
68				灰褐色	VIg	dg	cg	δ					●68.02~68.06m: 破砕部 68.02~68.05m: 砂混じり礫状部 (Hj)																								
													Eg	cg	δ				上端40°で不明瞭に連続。下端41°で直線的に連続。微細な割れ目が発達し、一部の岩片は下位の粘土と同方向に方向性を示す。にぶい橙色を呈する。幅25mm。 68.05~68.06m: 礫混じり粘土状部 (Ho-2) 上端41°で直線的に連続。下端30°で波打って連続。上端には径1mmの石英粒をごく少量 (5%以下) 含む幅1~2mmの淡黄色軟質粘土を伴う。明褐色を呈する。幅10mm。 68.06~68.12m: 粘土混じり礫状を呈するが、硬質で岩片間に分布する粘土脈に系統性がなく、原岩組織が明確に認められる。 68.12~68.39m: 岩片状を呈し、軟質化が著しい。 68.39~69.30m: CM 堅硬であるが、割れ目がやや多い。一部で長石が白濁化するが少ない。挟在物は少ない。 69.30~69.95m: CL																		
					IVg	bg	β												69.81~69.95m: 割れ目沿いに砂状化が進み、径10~20mmの岩片を含む砂礫状を呈する。																		
														Vg	cg	γ					69.95~71.06m: CM 割れ目には殆んど挟在物は分布しないが、70.66m・57°と70.70m・60°の割れ目に囲まれて片状化する。前者の割れ目では面沿いに幅1~2mmで砂状化する。径0.5~1mmの雲母 (セリサイト) が晶出している。																
			Cg		Vg	γ																															
											Bg	IVg	bg	β																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
														0	10	20	30	40												50										
		71	花崗斑岩	灰褐						71.06~71.99m : CL 30° と 60~75° の割れ目が交差し、交差部の一部では幅10~60mmで硬質な砂状~砂礫状を呈する。粘土化部も点在するがわずかである。		CM'																												
		72								Dg Vg cg δ 3			71.88~76.11m : CM 一部で風化による砂状部を幅2~3mmで挟むが、挟む物を伴わない割れ目が多い。																											
		73											72.48~72.57m : 割れ目沿いに褐色化が進むが、硬質で砂状化はない。 72.57~73.16m : 長さ10cm以上の硬質コア主体。																											
		74								Bg Ivg bg β 2			73.20~75.00m : 20~30° と 60~70° の割れ目が交差し、交差部の一部で片状~角礫状化するが、砂状部や粘土化部は伴わない。 74.85~75.00m : 割れ目沿いにマンガン鉱染を受ける。																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)									
													0	10	20	30	40												50								
			花崗斑岩	灰褐					75.65 ~ 75.92m : 内部にゆる割れ目や密着度の低い割れ目を伴わない長さ27cmのコア。	27 27	CM'																										
76														76.11 ~ 77.02m : CL 割れ目が交差し径10~30mmに片状~角礫状化する。岩片自身は硬質で劣化はない。一部の割れ目では径2~5mmの細礫状に幅10mm以下で砕けているが、砂や粘土は伴わない。全体に長石の白濁化が目立つ。	9 9	CL'																					
77														77.02 ~ 79.47m : CM 全区間硬質であるが、77.43~78.00m間では密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの打撃で径30mm前後に分離・細片化し易い。また、同区間では割れ目沿いにマンガン鉱染を受け、割れ目沿いの一部は黒褐色化する。 77.21m : 交差する2本の割れ目の一部は、幅2~3mmで砂状化するが、砂状部は割れ目全体に連続しない。	15 27	CM'																					
78														78.00m以深は長さ10cm前後のコアが主体となるが、一部では密着度の低い割れ目が分布する。 78.40m : 割れ目沿いにマンガン鉱染を受ける。	15 15	CM'																					
79								79.00m以深では長石斑晶の白濁化が多い。 79.13m : 40° の割れ目沿いに幅10~15mmが淡緑色化し、面沿いに径0.5mm以下の微細な蠟母 (セリサイト) が晶出する。 79.47 ~ 80.19m : CL 30~50° と70° の割れ目が交差し、交差部の一部は径10mm程度に細片状化する。70° の割れ目の一部に幅2~3mmの淡黄~褐色粘土脈を挟む。 79.83 ~ 79.90m : 割れ目沿いに砂状~径2~5mmの細片状化が進む。少量の粘土も伴う。	8 8	CL'																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
															(N 値 ~ 深度) 図	() 図																							
86			+	+	+	+	+	+	+	+	85.15m : 50° で幅5mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。85.24~85.35m : 砂状化が進む。40° 前後の割れ目が残留する。	0		0																									
																															Dg	Vg	cg	3					
																															Eg	Vg	cg						
																															Dg	Vg	cg						
																															Dg	Vg	cg						
87			+	+	+	+	+	+	+	85.50~85.58m : D 粘土化が進む。 ●85.58~85.76m : 破砕部 85.58~85.63m : 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上傾40° で直線的に、下端48° で一部不明瞭ながら直線的に連続。径5~10mmの硬さ「D」岩片と岩片間の粘土状部からなる。上端付近に幅5mmの石英脈が下位のHo-2の粘土とほぼ同方向に分布するが途中で消滅する。灰黄色を呈する。幅35mm。 85.63~85.64m : 凝混じり粘土状部 (Ho-2) 傾斜48° で、上端は一部不明瞭ながら直線的に連続。下端は波打って連続。径2~3mmの石英粒。径5mmの硬さ「D」岩片を10%含む。軟質。淡黄色を呈する。幅5mm。 85.64~85.76m : 粘土・砂混じり岩片状部 (Hj) 上端48° で波打って、下端32° で、幅1~2mmの軟質な灰白色粘土脈として直線的に連続。上位のHo-2の粘土と同方向に斜交する割れ目で径5~10mmに岩片化している。岩片間の一部は粘土~砂状化し、幅1mmの灰白色粘土脈が分布。85.68m・53° のシャープなせん断面が分布し、これに深は一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化する。淡黄~にぶい褐色を呈する。幅100~120mm。 85.76~87.47m : CL 86.52m以浅は硬さ「D」、86.52m以深は硬さ「C」の岩片主体で、後者では一部に短柱状コアも含む。前者では一部の割れ目沿いが砂状化する。 85.76~86.00m : 径10mmの斑点状や幅2mm・20° の脈状に石英を含む。 87.47~87.89m : CH 堅硬。長石の一部は白濁化する。一部でゆるぎ割れ目を含むが、密着度が高くハンマーの強打で分離しない。 87.90~88.38m : CL 一部の割れ目沿いは風化で薄く砂状化する。密着度の低い潜在割れ目が多く、ハンマーの打撃で潜在割れ目沿いに分離・細片化し易い。	0		0																										
																																				Eg	Vg	cg	3
																																				Eg	Vg	cg	
																																				Dg	Vg	cg	
																																				Dg	Vg	cg	
																																				Eg	Vg	cg	
																																				Eg	Vg	cg	
88			+	+	+	+	+	+	+	88.38~88.43m : 破砕部 88.38~88.42m : 砂混じり岩片状部 (Hj) 傾斜50° で、上端は直線的な密着割れ目で、下端は直線的に連続。下位のHo-1の粘土と同方向の割れ目が数本と、これらに斜交する割れ目により径5~10mmに岩片化している。粘土は殆んど伴わないが、一部の岩片間では砂状化する。にぶい褐色を呈する。幅35mm。 88.42~88.43m : 粘土状部 (Ho-1) 傾斜50° で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片を殆んど含まない。軟質。明黄褐色を呈する。幅5mm。 88.43~88.88m : CL 20~40° の低角度で直線的な割れ目が多い。一部で砂を挟む。 ●88.88~88.94m : 破砕部 88.88~88.92m : 粘土・砂混じり岩片状部 (Hj) 傾斜30° で、上端は幅0.5mmの軟質な白色粘土脈で直線的に、下端も直線的に連続。下位のHo-2の粘土と同方向に細かい割れ目が発達し、径5mmの岩片に細片化している。岩片間は幅1mm以下でごく薄く粘土~砂状化する。にぶい黄褐色を呈する。幅25~35mm。 88.92~88.94m : 凝混じり粘土状部 (Ho-2) 傾斜30° で、上下端とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒。径5mmの粘土化岩片を計15%含む。軟質。灰白色を呈する。幅15~20mm。 88.94~89.69m : D 割れ目沿いに風化が進み、砂状化部が拡大している。90.81m以浅は径5~20mmの硬さ「C」「D」の岩片が残留し、硬質な砂状部を基質とする砂礫状を呈する。原岩組織はほぼ消滅している。90.81m以深は硬さ「D」の岩片主体で原岩組織と割れ目の大半は残留している。割れ目は40~60° が主体。	0		0																										
																																			Dg	Vg	cg	3	
																																			Eg	Vg	cg		
																																			Dg	Vg	cg		
																																			Dg	Vg	cg		
89			+	+	+	+	+	+	+			0		0																									
																													Eg	Vg	cg	3							
																													Eg	Vg	cg								
																													Dg	Vg	cg								
																													Dg	Vg	cg								

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 化 質	記 事	コア 採 取 率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D ↳ [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 月 日	標準貫入 () 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原 位 置 置 試 験 (孔 内 水 平 藍 磁)	室 内 試 験	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ブ ノ ビ ット	給 転 数 (rpm)	回 転 数 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)														
													0	10	20	30	40										50													
				花崗斑岩	灰褐色	VIε dg ε			90.50m : 60°で幅2~3mmの石英脈が分布。																															
91				にぶい褐色		Eg VIε cg	3		91.04mと91.20m: 割れ目に幅1mmの軟質な灰白色粘土が脈状に分布。前者ではマンガンを含み、後者では砂を伴っている。 91.47m以浅では残留岩片の割れ目や砂状基質の一部がマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。 91.60m以深では径3mmの長石斑晶が多くなる。																															
92						IVε Cg	δ		●91.69~91.76m : 破碎部 91.69~91.70m : 粘土状部 (Hc-1) 傾斜45°で上端は波打って、下端は直線的に連続。径0.5mmの微小な石英粒を約5%含む。軟質。明視灰~灰褐色を呈する。上端側に一部に白色粘土脈とマンガン鉱染を伴う。幅3~8mm。 91.70~91.72m : 緻密粘土状部 (Hb) 上端51°で直線的に、下端53°で波打って連続。径1~3mmの石英粒。径5mm前後の硬さ「D」岩片を約20%含む。軟質。灰白色を呈する。幅7~12mm。 91.72~91.76m : 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端53°で波打って、下端45°で直線的に連続。上位のHc-1の粘土と同方向~20°斜交の細かい割れ目が多く、径5~10mmに岩片化している。岩片間に上位のHc-1の粘土と同方向の幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈が分布する。にぶい褐色を呈する。幅30~40mm。																															
93				にぶい橙		cg	3		91.76~94.80m : CL 密着度が極めて低い割れ目を多く含む。ハンマーの軽打で径10~30mmの小岩片に分離・薄片化する。 92.09m : 径10mmの緑泥石が30°割れ目で横断される。低角度の割れ目は別の中角度の割れ目で止められ、かつ両方の割れ目に細粒部を伴わない。割れ目周辺の岩壁に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。 92.18m・70°~92.24m・44°間は径5~10mmの岩片状に砕け、各割れ目面にマンガンが付着する。 92.65m : 55°の割れ目に幅2mmのマンガン脈を挟む。 93.00m以浅はコア長3~5cm主体の短柱状コア。93.00m以深は均着割れ目も含み、割れ目が密集し、コア長1~2cmの片状コアが主体。また、長石の大半は白濁化し、割れ目沿いに砂状化することがある。マンガンを挟むが、粘土脈は殆んど分布しない。 93.81~94.13m : 硬さ「B」で割れ目に挟入物は分布しない。																															
94				緑灰		Bg IIIε bg β	2		94.26~94.38m : 径5~10mmの大型な石英斑晶が点在する。35~50°の割れ目に細粒部は見られない。割れ目周辺の岩壁に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 94.80~97.96m : CH 全体が緑灰色化する。概ね新鮮であるが、一部の割れ目沿いに風化による褐色化が進む部分もある。挟入物のない割れ目が主体であるが、所々、挟入物が認められる。																															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
													(N 値 ~ 深度) 図																									
			+	花崗斑岩	緑灰				95.46m : 55° の割れ目沿いに幅10~15mmが褐色化し、硬さ「D」に軟質化する。上端側に幅7mmの石英を脈状に伴うが、同脈は途中で尖滅している。	25	CH'																											
96									III _g bg β			95.90~96.00m : 割れ目が10~20mm間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ「D」に軟質化するが、砂状部は分布しない。	37																									
97									Bg	2		96.60~96.63m : 割れ目沿いに幅10mm程度が淡褐色化し、幅1~2mmの砂状部を挟む。	27																									
98									IV _g			97.36m : 35° 割れ目に淡緑色シルト~細砂脈を挟む。その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布する。	10																									
									97.96~98.48m : CM 岩片は硬いが、割れ目沿いの砂状化が認められる。粘土化部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い。	7	CM'																											
99			cg	γ	98.36m : 50° の割れ目に幅2~5mmの灰緑色シルト~粗砂を挟む。 98.48~101.32m : CL 割れ目沿いの砂状化部が多くなる。粘土は殆んど分布しないが、長石は概ね白濁化する。99.44m以浅は岩片は硬質、以深は風化で軟質化している。	9																																
									99.16~99.45m : 長さ10cm前後の柱状コアが中石的に分布する。	11	CL'																											
			Bg	δ 3	99.44~99.90m : 割れ目沿いに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟質化する。特に99.76~99.90mでは40° の割れ目沿いに砂状化が進み、一部の岩片は硬さ「D」となる。	11																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														0	10	20	30	40												50		
101			+	緑灰			Bg	β	2	100.52~101.32m: 割れ目沿いの風化・砂状化が進む。岩片も軟質化し、硬さ「C」主体で部分的に硬さ「B」が残留。長石は白濁化する。 100.84~100.89m, 101.23~101.32m: 割れ目沿いに砂状化が拡大。径5~10mmの岩片と共に砂礫状を呈する。	4 (0)	CL'																				
							Vg	cg	δ		3																					6 (0)
102			+	花崗斑岩			Bg	IVg	bg	β	101.32~102.05m: CM ほぼ未風化で、挟入物は分布しない。一部に密着度の低い割れ目が分布している。 102.05~104.65m: CL 103.70m以浅では硬さ「B」主体で硬さ「C」「D」も分布。103.70m以深では硬さ「D」で軟質化が進んでいる。102.05~102.41m: 約10mm間隔で細かく密着度の低い潜在割れ目が多い。102.41~102.94m: 硬さ「B」の岩片主体。割れ目沿いに幅1~3mm程度で薄く砂状化する。粘土化部は分布しない。	6 (0)	CM'																			
							Cg	cg	γ	2		4 (0)																				
103			+	灰褐			Dg	δ	3	102.94~103.17m: 20~30°の割れ目沿いに風化・砂状化が広がっている。岩片自身も硬さ「D」で軟質化する。 103.17~103.70m: 割れ目沿いの砂状化や挟入物は認められないが、一部で密着度の低い潜在割れ目が多い。	6 (0)	CL'																				
							Bg	Vg	β		2																				4 (0)	
104			+	明褐灰			Dg	γ	3	103.70~104.65m: 風化が進み、岩片も含め、全体が軟質化している。所々に幅1~2mmの軟質な白色粘土を脈状に挟む。 104.65~107.15m: CM 105.14~105.19m間を除き、硬質で挟入物は殆んど分布しない。	5 (0)	CM'																				
							Bg	IVg	bg		β																				2	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)											
													0	10	20	30	40												50										
106			花崗斑岩	Bg	Vg	bg	β	2	105.14~105.19m: 上下端とも40°の割れ目に囲まれて、硬質な砂状~径2~3mmに細片化する。下端面に白色粘土がフィルム状に付着。区間内全体に径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱が点在する。	→	CM'																												
									105.70~105.83m, 106.68~106.73m: 割れ目が交差し、径10~30mmに岩片化する。各割れ目は砂や粘土が付着していないほぼ未風化な面をもつ。	→																													
									106.21~106.81m: ゆ着割れ目が多くハンマーの強打でも分離・細片化しない。密着度の低いものは開口割れ目化している。	→																													
107									107.15~107.62m: CL 割れ目沿いに径3~5mmに細片化する部分があるが、割れ目に砂状~粘土状の挟在物は分布せず。ほぼ未風化な面をもつ。面の一部は緑泥石化変質により淡緑色化するが、粘土は伴わない。	→																													
108									107.62~115.99m: CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。110.10~114.06m間は10~30mm程度の間隔で密着度の低い層に割れ目も含んでいる。ほぼ未風化で、割れ目に挟在物は殆んど分布しない。108.00~110.10m間は、30~50°の割れ目が主体で、一部は交差して岩片状を呈する。	→																													
109									108.57~108.60m: 40°の割れ目沿いに径1mm程度砂状化する。上端面には暗緑色砂がフィルム状に付着。微細な黄鉄鉱を伴っている。	→																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
													(N値~深度) 図																											
									110.40~110.51m: 白色化したゆ着割れ目沿いに分離し、開口割れ目化している。	0			0	10	20	30	40	50																						
111									111.37m: 75~80° の割れ目沿いの一部で幅1~2mm砂状化。これに交差する30° の割れ目は止められている。砂状化部の分布は途切れており、連続性に乏しい。高角度割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られる。	9 (9)																														
112									112.41~112.44m: 5° 前後の割れ目沿いに片状化するが、岩片は軟質化しない。	4 (4)																														
113									113.56~113.60m: 傾斜25°、幅4cmのアフライト脈を挟む。花崗斑岩との境界は明確でゆ着している。 113.63~113.81m: 白色の潜在割れ目が5~10mm間隔で細かく分布。密着度の低いものも含む。	9 (9)																														
114									114.37~115.70m: 緑色化している。 114.65m: 80~85° の割れ目の一部に鏡肌と幅0.5mm以下の暗緑色粘土がフィルム状に付着。割れ目は湾曲して凹凸しているが、割れ目のみ合わせは良い。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。	9 (9)																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
																	(N値~深度) 図																			
																	0	10	20	30	40	50														
116			花崗斑岩	緑灰	Bg	IVg	bg				2						CM'																			
				にぶい橙																																
					Cg	Vg	cg					3						CL'																		
117																																				
118				灰褐	Bg	IVg	bg											CM'																		
119	64.10	119.09									2																									
				アブライト																																
				明褐灰	Cg	Vg	cg											CL'																		
				灰褐																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)														
126			アフライト	灰褐	Bg	IVg	bg	β	2	125.00~125.38m: 白い筋状のゆる割れ目が多いが、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。	CM'																		
		125.38~125.70m: CL 密着度が極めて低い割れ目やゆる割れ目が10mm程度の間隔で分布。ハンマーの軽打で分離・細片化する。開口化するものも多い。																											
		125.70~126.25m: CM 一部で密着度が低い割れ目やゆる割れ目を含む。割れ目に挟在物は分布しない。																											
127			アフライト	にぶい橙	Cg	Vg	cg	γ	2	126.25~127.41m: CL 一部で50~60°の割れ目沿いに径5mm前後で細片化~砂状化する。また、幅1~2mmの緑灰~灰白色の軟質粘土も挟む。硬さ「C」の岩片主体部は灰褐色で残留し、細片化~砂状化部はにぶい橙色で、全体では後者の色調が主体。127.00m以深は挟在物は分布しない。	CL'																		
		127.41~127.48m: 破砕部 127.41m: 粘土状部 (Ho-1) 傾斜50°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を含まない。軟質。灰白色を呈する。幅0.5~1mm。 127.41~127.48m: 粘土混じり礫状部 (H) 上端50°で直線的、下端50~66°で薄曲して連続。径3~5mmに細片化した岩片からなり、岩片間には幅1~2mmの軟質粘土が脈状に分布。岩片は硬さ「D」主体で硬さ「E」も少量含む。127.47m以上位のHo-1の粘土と同方向のせん断面沿いにマンガン染を伴う。にぶい黄橙色を呈する。幅40~45mm。 127.48~128.82m: CL 40~60°の割れ目が主体で、一部で幅1mm以下の風化砂状部を挟む。粘土は挟まない。																											
128			アフライト	灰褐	Cg	Vg	cg	γ	2	127.82~127.83m: 上端60°、下端61°の割れ目に囲まれ、径2~3mmの細片を含む硬質な中粒~粗粒砂状を呈する。砂状部中の細片に定向配列は見られない。粘土は伴わない。割れ目周囲の岩壁に原岩組織が見られる。下位の別方向の割れ目にもマンガン汚染した面が見られる。	CM																		
		128.82~128.97m: 破砕部 128.82~128.87m: 砂混じり岩片状部 (H) 上端90°で幅1~2mmの軟質な緑灰色粘土脈を伴い、下端63°でいずれも直線的に連続。下位のHo-2の粘土に平行~斜交する割れ目と、これに60~90°で斜~直交する割れ目が多く、径3~10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。灰赤色を呈する。幅50~90mm。 128.87~128.88m: 砂混じり粘土状部 (Ho-2) 傾斜63°で上下端とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒と岩片を20%程度含む。軟質。暗緑灰色を呈する。幅3~5mm。																											
129			アフライト	明褐灰	Cg	Vg	cg	γ	2	128.97~129.95m: CL 129.11~129.26m: 風化が進み、割れ目沿いに砂状~細片状化する。マンガン汚染が見られる。 129.95~130.22m: アフライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。 129.95~130.79m: CM 下端部の一部で割れ目沿いに幅1~3mmの砂を挟むが、これ以外に挟在物は分布しない。	CM																		
		129.95~130.79m: CM 下端部の一部で割れ目沿いに幅1~3mmの砂を挟むが、これ以外に挟在物は分布しない。																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記	事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
															(N値~深度) 図																						
				明褐灰						155.00~160.00m: CL 割れ目沿いは暗緑灰色の緑泥石化が進む。特に、157.89~160.00mでは緑泥石化が著しく緑灰色を呈し、幅2~20mmで砂~シルト状化する部分も認められる。						0	10	20	30	40	50																
156				Cg							155.89m: 88° の割れ目に幅2~8mmの緑泥石脈を挟在する。																										
				灰褐							156.25m: 75~80° で幅7~8mmが径2~3mmに細片化し、岩片間に緑泥石化~シルト状部を伴う。																										
157				花崗斑岩							156.72m: 75~80° で幅1~10mmの硬質な砂状部が径1~2mmの花崗斑岩の扁平礫状部を挟んで上下位方向に連続する。下端は158.24mで、下端面には鉄肌と緑泥石粘土フィルムが付着する。156.67mには高角度割れ目とほぼ直交する割れ目が見られる。同様な暗灰色の細粒部は様々な方向の割れ目を充填している。																										
158				Dg							158.00~158.20m: 径5~10mmの礫状部と硬質な砂状部からなり、砂礫状を呈する。																										
159			緑灰							159.06~159.33m: 割れ目沿いに暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石が幅2~20mmで分布する。160.00mにかけて岩芯まで暗緑灰色化する。																											
	93.03	160.00								159.78m: 70~80° で幅1~10mmの方解石脈が膨縮しながら連続する。																											

余白

H24-B14-2

ボーリング柱状図

ボーリングNo.																					1
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

事業・工事名

ボーリング名	H24-B14-2		調査位置	X:355.111, Y:943.360		北緯	35° 45' 15.46"			
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2012年 7月28日 ~ 2012年 9月17日		東経	136° 1' 5.76"		
調査業者名	[Redacted]			主任技師		現代理人				
コ 定 者				ハンマー			ポンプ			
孔口標高	7.06 m	角 度			地盤勾配			使用機種	エンジン	
総掘削長	150.00 m	度			鉛直					

標尺 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D ↳ (%)	岩 級 区 分	孔内水位(m) / 測定月日	(標準貫入) 試験												
														(N 値 ~ 深度) 図	原位置試験 (孔内企業標準)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビレット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)		
										0.00~6.66m: 盛土 0.00~3.47m: 礫・シルト混じり粒径5~30mmの角~亜角礫を5~10%程度含む。砂は粗~細粒砂で少量のシルトを含む平均質である。礫層は定数顕著。安山岩 (玄武岩)、石英で硬質。礫に風化礫を含む。礫の分布は不均質で、少ない部分と多い部分が認められる。 (100) (100)																
			明礫							3.47~3.93m: コンクリート 柱状コアで硬質である。 (100)																
			盛土							3.93~4.28m: グリス 径20~40mmの粘板岩の角礫からなる。 (100)																
			灰							4.28~6.66m: シルト混じり膠質砂礫~粗粒砂からなる不均質な砂にシルトと礫が混じる。礫は径2~30mmの亜角礫を主とし、礫率は10~20%程度。風化礫やクサリ礫を含む。礫層は花崗岩が主で、礫に安山岩礫を含む。 (100)																
			明礫																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)				
													0	10	20	30	40												50			
				盛土	明褐				5.23~5.29m: 有機物混じり砂を挟む。砂は中~粗粒砂でシルトや炭化物を含む。全体に若干有機質である。																							
		2.35	6.66		明褐				6.66~8.39m: 礫質砂 6.66~6.82m: 少量の粗粒砂を含む細粒砂。少量の未分解木片を含む。 6.82~8.08m: 細~粗粒砂からなり、7.43m以深ではシルトが混じる。全体に径2~5mmの細礫が混じる。細礫は角~亜角礫を主とする。礫種は花崗斑岩、アブライト、石英からなる。 6.82~7.65m: 上部はシルト質、下部は礫質となる。 7.10m付近まで径5~10mm程度の石英の細礫を多く含む。炭化物も礫状に含む。 7.10~8.08m: 径5~30mmの風化礫及び半風化礫を含む。 7.30m付近、未分解の植物片を含む。 7.70m付近、炭化物を含む。																							
		1.13	8.39		灰				8.08~8.39m: 砂は石英、長石主体で細~中粒砂。均質であるが、8.30m以深は若干の有機物を含む。																							
		0.82	8.83		黒褐				8.39~8.83m: 砂混じり有機質シルト 8.39~8.53m: 径1.5cmの花崗岩頭の角礫を含む粗粒砂。8.40~8.45mにかけて縦方向に炭化木片を含む。 8.53~8.83m: 傾斜45~50°で有機物及び炭化木片を含む。所々、粗粒砂をブロック状に含む。																							
		0.31	9.54		黄				8.83m付近に粗粒砂の薄層を挟む。 8.83~9.54m: 有機物混じり砂 8.83~9.10m: 有機物混じり砂粗粒砂を主とし、石英細礫を5%未満含む。少量の炭化物を含む。 8.90~8.97m: 生木を含む。 9.10~9.26m: 有機物に富み、一部未分解の繊維が分布する。 9.13~9.15m間は極細粒砂を薄層状に挟む。下部は粒径がやや粗く、砂質シルト~シルト質砂状を呈する。 9.26~9.54m: 細粒砂を主とするが不均質で、径0.5~1cmの石英角礫を含み、粘土分を少量~中位で含む。また、炭化物片、未分解繊維も少量含む。 9.54~11.12m: 砂礫 径2~50mmの花崗斑岩礫が主体。基質は少量の粘土分を含む粗~中粒砂。 9.54~9.71mに径17cmの玉石を含む。																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)													
														(N 値 ~ 深度) 図																												
					黄 赤褐 黄					10.70~10.72m: 細粒砂を薄層状に挟む。傾斜45°程度。																																
11	-0.80	11.12		砂礫						11.12~12.04m: 礫混じり砂 (径2~5mmの石英の角礫を5~10%程度含む。砂は細~粗粒砂が主で、少量のシルト分を含む。 11.40~11.42m: 幅10mmの灰白色シルトを挟む。 11.53~11.55m: 幅15mmの灰白色シルトを挟む。 11.66~11.79m: スライム黄褐色のシルト混じり粗粒砂からなる。																																
				礫混じり砂	灰白																																					
				コア欠知																																						
12	-1.45	12.04		礫混じり砂	灰					12.04~12.69m: 有機物混じり砂 (細~中砂を主とし、部分的に有機物混じりシルト質となる。有機物は傾斜20~30°を呈する。 12.13m付近、有機質シルトの薄層を挟む。 12.37~12.41m: 厚さ4cmの有機質シルトを挟む。																																
				有機物混じり砂																																						
				有機質シルト	オリーフ黒					12.65~12.67m: 有機質シルトを薄層状に挟む。 12.69~13.09m: 有機物混じり砂質シルト (細~中粒砂からなり、全体に有機物が混じる。 12.70~12.73m: 有機質シルトを薄層状に挟む。 12.76~12.85m: 径2~4cmの花崗斑岩の垂角礫を含む。 12.85~13.09m: 砂混じり粘土で、下部は砂質粘土状である。 13.00m付近まで有機物を多く含むが、下部は少なくなる。 13.09~13.80m: シルト混じり砂 (細砂を主とする砂に全体にシルトが混じる。 13.17~13.60mはシルト~粘土分を含む。13.60~13.80mは均質な細~極細粒砂からなる。 13.40m付近、径5~7mmの石英礫を約5%含む。 13.80~16.24m: 砂礫 (径2~40mm (最大径330mm) の垂角~垂円礫を主とし、所々、径40~70mmの円~垂円礫を含む。礫は花崗斑岩が主体で、礫率50~70%程度。基質はシルト混じりの不均質な砂からなる。半クサリ礫と硬質礫の割合は同程度である。																																
				有機質シルト	灰																																					
				シルト混じり砂	褐																																					
				シルト混じり砂	浅黄																																					
14	-2.70	13.80		砂礫	暗褐																																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
														(N値~深度) 図																						
				砂礫	暗褐					15.08~15.17m: 花崗斑岩の玉石を含む。 15.42~15.50m: 風化花崗斑岩の玉石を含む。 15.70~16.00m: 花崗斑岩の岩塊を含む。 16.24m: 砂礫と花崗斑岩の境界は密着しており、傾斜45°程度を示す。				0 10 20 30 40 50																						
	-4.42	16.24		褐灰						16.24~60.65m: 花崗斑岩斑晶は径3~8mmの石英、長石を主とし、径2~5mmの黒雲母を含む。石基は優白色である。 16.24~18.08m: 強風化・変質部で、全体に変質が認められ、コアは淡く赤色を帯びた灰白色を呈する。局所的にやや硬い所があるが、全体的に針貫入可能である。 16.24~16.94m: 傾斜30~50°の割れ目跡が1~3cm間隔で発達する。白色細粒物をフィルム状~幅1mmで挟む。下位に比べて原岩組織を残す。 16.94~18.04m: 割れ目が不明瞭となる。				0 (0)																						
				灰白	Eg		dg	δ		17.30~17.58m: 原岩組織が不明瞭で、指圧で砂混じりシルト状に崩せる。				0 (0)																						
				花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vig	cg	γ	18.04~18.68m: 割れ目沿いの変質が著しく、硬質部を径5~20mmの礫状に残す。軟質部は針貫入可能である。傾斜50~70°及び90°程度の割れ目跡に白色細粒物をフィルム状~幅1mmで挟む。 18.33~18.37m: 強く変質する。上端40°、下端は不明瞭である。		D		0 (0)																						
				灰白	Eg		dg	δ		18.68~19.89m: 変質が著しく、割れ目と原岩組織が不明瞭である。全体に指圧で変形するほど軟質である。 19.00~19.25m、19.55~19.89m: 網目状の変質粘土は淡黄褐色を呈する。 19.19~19.50m: 傾斜75°で湾曲して幅1~2mmのシルト・砂混じり粘土脈が分布し、粘土脈に沿って幅2cmが灰白~淡黄褐色を呈する。				0 (0)																						
					Dg				3	19.89~20.29m: 2~10mm程度の間隔で網目状に割れ目が発達し、変質粘土をフィルム状~幅1mmで挟む。岩片はやや軟質である。				0 (0)																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状態	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														0	10	20	30	40												50		
21			+	花崗斑岩	灰白	Dg	dg	δ	3	20.05~20.29m: 風化・変質作用により、全体に軟質化する。岩片状にやや硬質な部分を残すが針貫入可能である。20.05~20.09m間及び20.24~20.29m間は変質が著しく、塊状シリシルト状を呈する。下端は傾斜64°で下位と境される。 20.29~20.90m: 風化・変質の影響が弱くなるが、微細な割れ目が全体に発達し脆弱である。 20.48~20.84m: 傾斜24~68°で幅5~15mmの灰白色の砂混じり粘土を3条程度挟む。	0	D'																				
											50																					
											100																					
											150																					
22			+	花崗斑岩	明褐色	Dg	cg	γ	2	21.00~21.20m: 全体に割れ目が発達し、細片状を呈する。21.10~21.15mは短柱状を呈する。	0	D'																				
											50																					
											100																					
23			+	花崗斑岩	明褐色	Dg	cg	γ	2	21.69~21.74m: 傾斜50°で幅3mmの灰白色粘土質砂を挟む。 21.70m~22.00m: 径1~3cm程度の礫状を呈する。	0	D'																				
											50																					
24			+	花崗斑岩	明褐色	Dg	dg	δ	3	22.42~22.63m: 微細な割れ目が発達し、割れ目沿いに劣化する。 22.63~23.71m: 割れ目が多く、径1~3cmの角礫状を呈する。	0	D'																				
											50																					
											100																					
											150																					
24			+	花崗斑岩	明褐色	Dg	cg	γ	2	23.71~23.85m: 長さ3~9cmの短柱状コアからなる。23.71m付近の割れ目の面に黒色粘土を挟む。 23.85~24.48m: 径1~5cmの岩片状を呈する。岩片はやや硬質であるが、割れ目沿いに径0.2~1cm程度の細片化が見られる。	0	D'																				
											50																					
											100																					
24			+	花崗斑岩	明褐色	Dg	dg	δ	3	24.48~25.88m: 径0.5~3cm程度の礫状~細片状を呈し、割れ目として認識できない。コア採取時に細粒分を流失している。特に、25.30~25.77m間は、径5mm以下のものを流失している。岩片はやや硬質で、風化・変質の影響は少ない。	0	D'																				
											50																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
															試験																							
26			花崗斑岩 にぶい黄褐色	褐灰		Dg	vg	dg		2	25.88~26.62m: 土砂~礫状を呈する。岩片は径5~15mm程度のもが多く、25.88~26.12m間は径5~50mmのものを主体とする。基質はシルト混じり中粗砂で、不規則にマンガンに連続されている。指圧で変形するほど軟質である。	0	D'		0	10	20	30	40	50																		
27				Dg							3	26.62~27.62m: 5~15mm間隔で網目状に割れ目が発達し、割れ目沿いは土砂~細片状を呈する。	0																									
28				Cg	vg	cg					2	27.28~27.62m: 上位に比べて割れ目沿いの岩質劣化は弱く、径1~3cmの岩片状を呈する。 27.47~27.62m: 傾斜60~65°の割れ目が1.5~3.5cm間隔で発達する。 27.62m: 傾斜65°で幅1~2mmの黄灰色砂混じりシルトを不連続に挟む。シルトの周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 27.62~27.97m: 網状に割れ目が密集し、コアはやや脆弱となる。 27.92~28.21m: 傾斜60~75°の密着割れ目が2~10cm間隔で発達するほか、傾斜20~25°の割れ目が12cm間隔で発達する。後者の割れ目はマンガン汚染を伴う。 28.21~28.50m: 2~10mm間隔で微細な割れ目が発達し、全体に劣化する。 28.36~28.45m: 傾斜30°程度の微細な割れ目が1~10cm間隔で発達する。 28.45~28.50m: 上端55°、下端50°で原岩組織が不明瞭となる。 ●28.50~28.66m: 破砕部 28.50~28.51m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2)	0																									
	Dg										δ		CL'																									
	Dg																																					
	Eg	vi		dg								4	上端50°、下端50°。径5mm以下の岩片を10%程度含む。黄灰色を呈する。幅1~1.5mm。 28.51~28.53m: 粘土混じり礫状部 (Hj)	0																								
29				Dg	vg	cg					2	上端50°で直線的に、下端40°で波打って連続。径10mm以下の岩片主体で岩片間に幅1~2mmの黄灰色粘土を伴う。にぶい黄褐色を呈する。幅23~30mm。 28.53~28.66m: 粘土混じり角礫状部 (Hj)	0																									
	Dg										3	上端40°で波打って連続。下端は不明瞭。径5~20mmの岩片からなり、細粒部が分布する。にぶい黄褐色を呈する。幅120mm。 28.66~28.71m: 土砂状を呈する。 28.71~29.45m: 傾斜40°及び60°の割れ目が2~6cm間隔で発達。交錯し、岩片状を呈する。割れ目面にはしばしばマンガンを伴う。	0																									
	Eg	vi		dg							4	29.16~29.45m: 風化・変質が進み、脆弱である。 29.45~29.91m: 原岩組織と割れ目は不明瞭となる。針貫入可能で指圧で容易に崩せる。 29.76~29.81m: 硬質部を礫状に含む	0																									
				明褐灰							δ	29.81~29.97m: マンガン汚染が拡がる。 29.91~30.21m: 傾斜40~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で発達し、割れ目沿いに原岩組織が不明瞭になるところもある。コアは全体に褐色を帯びる。	0																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コアダ	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 回 送 送 送 排 水 水 水 水 水 量 量 量 量 量 (L/分)																																																										
															0	10	20	30	40							50																																																									
31			+	花崗斑岩	明燧灰	Cg	Vg	cg	δ	3	<p>30.13m : 傾斜30° で幅1mmの黄灰色砂混じり粘土を挟む。上端側に幅10~15mmの細片状部を伴う。</p> <p>30.21~32.40m : 傾斜40~50° の割れ目が3~15cm間隔で発達し、割れ目沿いに黄褐色化、酸化汚染が認められる。</p> <p>30.28~30.44m : 長さ16cmの柱状コアである。</p> <p>30.62~30.72m : 傾斜40° 程度の割れ目が3~10cm間隔で発達し、上下位と比べてやや岩質劣化する。</p>	CL'																																																																							
																																32			B _g	IV _g	bg	γ	<p>31.55~31.93m : 傾斜40° と65° 以上の密着割れ目が3~5cm間隔で交錯する。</p>	CL'																																											
																																																											33			C _g	V _g	cg	δ	<p>32.40~32.67m : 傾斜50~60° の割れ目が1cm間隔で発達し、割れ目沿いに岩質劣化が進む。一部は原岩組織が不明瞭となる。</p>	CL'																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (試験) (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
															(N)	値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
36			+	花崗斑岩	明褐灰	Bg	IIIg	γ	2		35.14~35.74m: 割れ目が不規則網目状に発達し、風化・変質により岩質が劣化する。全体に黄色味を帯びる。35.20~35.50m: 不規則に劣化部が分布し、コアは砂礫~細片状を呈する。	0	CM'																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
																															37			+	明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	3	35.59m: 傾斜50°で幅1~3mmの黄褐~黄灰色粘土混じり砂を挟む。下端側にマンガン汚染が目立つ。35.64~35.91m: 密着した網状割れ目に沿って酸化汚染が広がる。35.88~36.09m: 密着割れ目沿いの酸化汚染が認められる。	9	CL'																																																																																																																																																																																																																																																																																												
																																																														38			+	明褐灰	IVg				36.09~36.43m: 傾斜40~50°の割れ目が5~10cm間隔で発達する。	9	CL'																																																																																																																																																																																																																																																														
																																																																																											39			+	明褐灰	Cg	Vg	cg	γ	2	36.43~37.52m: 傾斜50°程度の割れ目の他、不規則に割れ目が分布し、礫~細片状を呈する。割れ目面は黄褐色化する。コア採取時に軟質細粒物を流失している。	9	CL'																																																																																																																																																																																																																																
																																																																																																																									39			+	明褐灰	IVg	bg			37.20m: 岩片に灰白色シルトが付着する。	9	CL'																																																																																																																																																																																																			
																																																																																																																																																						39			+	明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	3	37.52~37.89m: 割れ目間の岩質劣化が進行し、コアは礫状~細片状を呈する。マサ状部では割れ目や原岩組織がやや不明瞭となる。	9	CL'																																																																																																																																																																					
																																																																																																																																																																																				39			+	明褐灰	Cg	Vg	cg	2	37.89~38.10m: 割れ目が幅1cm間隔で網状に発達し、割れ目沿いに酸化汚染が広がる。割れ目の多くは密着するが、ハンマーの軽打で分離する。	9	CL'																																																																																																																																								
																																																																																																																																																																																																																	39			+	明褐灰	Eg	VIg	dg	4	●38.10~38.27m: 破碎部 粘土混じり礫状部 (H) 上端40°、下端50°とともに波打って連続。径2~10mmの岩片主体で、下部ほどシルト~粘土分を多く含む。38.10~38.19mは灰白色、38.19~38.27mは淡黄灰色を呈する。幅110mm程度。38.10mにはフィルム状の暗緑灰色の細粒部を伴う。	9	CL'																																																																																																											
																																																																																																																																																																																																																																																39			+	明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	3	38.27~38.67m: 微細に網目状割れ目が発達し、割れ目沿いに酸化・マンガン汚染が広がる。	9	CL'																																																																											
																																																																																																																																																																																																																																																																													39			+	明褐灰	Eg	VIg	dg	4	38.67~39.21m: 全体に割れ目や原岩組織がやや不明瞭であるが、割れ目跡は残る。白~淡赤灰色粘土が不規則に分布する。全体に軟質で針貫入可能であるが、一部に硬質部を残す。	9	CL'																																															
																																																																																																																																																																																																																																																																																																										39			+	明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	3	39.21~41.29m: 傾斜30~50°の割れ目と不規則な割れ目が発達する。割れ目沿いに岩質劣化し、岩片状を呈し、一部にやや硬質部を塊状に残す。割れ目の多くにフィルム状の白~黄褐色シルトを挟む。	9	CL'																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コー形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	試験	標準貫入 (N値~深度) 図	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定日	試験		室	掘進	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																												
																原位置試験 (孔内水平距離)	(N) 値																																																																						
			+ +	花崗斑岩	明褐灰				γ 2		40.25~40.31m: 変質部。上端40°, 下端50°で斜交する。石英粒の粗砂~細砂を含む灰白色粘土質砂状を呈する。上下位のコーは幅10~20mmでオリーフ灰色を呈する。	0 50 100	(N) 値	CL'																																																																									
41																																	Bg IVg	cg	δ 3	41.29~42.13m: 上下位と比べて風化・変質の程度が弱く、コー表面が滑らかである。傾斜30~50°の割れ目が1~10cm間隔で発達し、細片~短柱状を呈する。	0 50 100	(N) 値	CM'																																																
																																																													Bg IVg	cg	γ 2	41.65~41.74m: 割れ目が密集し、コーはやや脆弱となる。	0 50 100	(N) 値	CM'																				
42																																																																																							
																																	Eg VIg	dg	δ 3	43.00~43.51m: 不規則に岩芯まで風化・変質が進行し、コーは褐灰~オリーフ灰色を帯びる。	0 50 100	(N) 値	CL'																																																
43																																																													Eg VIg	dg	δ 3	43.51~43.81m: 強く風化・変質し、一部に硬さ「D」の岩片を残すが、多くは針貫入可能である。上層には傾斜50°で幅8~10mmの明赤灰色の砂混じりシルトが分布する。	0 50 100	(N) 値	CL'																				
																																	Dg Vg	cg	δ 3	43.81~44.08m: 上位と比べて風化・変質の程度は弱い。傾斜80°以上の割れ目に沿って土砂化するほか、網状に割れ目が発達し、コーは脆弱である。	0 50 100	(N) 値	CL'																																																
44																																																													Dg Vg	cg	δ 3	44.08~44.25m: 傾斜15°程度の割れ目が2~3cm間隔で発達するほか、傾斜80°以上の割れ目が分布し、細片状を呈する。割れ目沿いに多少岩質劣化するが、岩片は硬質である。下端の傾斜52°の割れ目には幅4mmで明褐色の砂・細粒混じり粘土を挟み、周囲には白雲母が晶出する。	0 50 100	(N) 値	CL'																				
																																	Dg Vg	cg	δ 3	44.63~45.20m: 割れ目沿いの風化・変質が進行し、硬~細片状を呈する。岩片はやや硬質なものが多いが、一部は指圧で崩せるほど軟質となる。	0 50 100	(N) 値	CL'																																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ペット	給転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)																																																							
															(N 値 ~ 深度) 図																																																																				
46			+								45.00~45.20m: 風化・変質を強く受け、割れ目や原岩組織の一部が不明瞭となる。	0	CL'																																																																						
																																		Eg	VIg	dg	δ	3																																													
																																		Bg	IVg			γ	2	45.20~45.90m: 傾斜50~60°の割れ目が2~10cm間隔で発達し、岩片状~柱状を呈する。割れ目には黄褐色土砂状物質を挟むことが多い。																																											
																																									Cg																																										
																																		47			+								45.90~47.37m: 風化・変質をやや強く受け、一部の割れ目や原岩組織はやや不明瞭となる。全体に1~3cm間隔で網状の割れ目が発達する。ほとんどの割れ目に灰白~黄褐色の変質粘土を挟む。 46.07m: 傾斜35°で幅12mmの明黄褐色シルト質砂を挟む。 46.10~46.17m: マンガン汚染し、割れ目や原岩組織は不明瞭である。コアは硬い。 46.20m: 傾斜83°で幅1~6mmの灰白色砂混じりシルトを挟む。 46.74m以深は変質の程度がやや弱く、上位と比べて割れ目間隔が広くなる。	0																																					
																																																																							Dg	cg	δ	3									
																																																																							Cg	IVg			2								
																																																																												Vg							
																																		48			+	花崗斑岩	褐灰						●47.37~47.40m: 破砕部 粘土混じり礫状部 (H) 上端40°、下端45°とともに凹凸して連続。径2~5mm程度の岩片主体である。下端付近に幅1~3mmの暗灰色粘土を挟む。灰白~褐色を呈する。幅20~25mm。 47.40~49.24m: 全体に変質し、シルト混じり砂礫状を呈する。岩片は硬質であるが、網目状に灰白色の粘土~シルトが分布し、全体として脆弱である。 47.50m: 傾斜50°で幅3mmの灰白色変質粘土を挟む。 47.70~48.87m: 傾斜80~90°の割れ目沿いに著しく変質し、粘土~土砂化する。 48.09m: 傾斜72°で幅3~5mmの灰白色のシルト質砂を挟む。 48.09~48.86m: 網状に変質粘土脈が発達し、粘土質砂礫~細片状を呈する。岩片に風化変質は認められない。	0																																					
																																																																									Dg	cg	γ	3							
																																																																									Eg	VIg	dg	δ	3						
																																																																									Dg				2						
Vg																																																																																			
49			+								●49.24~49.55m: 破砕部 49.24~49.26m: 礫混じり粘土状部 (Ho-2) 上端20°で凹凸する。下端35°。上端は灰白色で、下端に向かって灰色に漸移する。幅15~25mm。 49.26~49.42m: 粘土混じり砂礫状部 (H) 上端35°で直線的に連続。下端50°で波打って連続。径2~10mmの岩片主体で、岩片間に粘土細脈が傾斜40~60°で分布する。変質が進み、緑灰色を呈する。 49.42~49.45m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端50°で波打って、下端20°で直線的に連続。上下端に幅0.3~5mmの暗灰色粘土を伴う。径2~10mmの粘土化した岩片主体である。灰白色を呈する。幅10~20mm。 49.45~49.55m: 粘土混じり礫状部 (H) 上端20°、下端35°とともに直線的に連続。径5~10mmの岩片主体で岩片間に灰白色の粘土脈が分布する。淡赤灰色を呈する。 49.50m: 砂混じり粘土状部 (Ho-2) 傾斜45°で、幅5~8mmの白~淡赤灰色砂混じり粘土を挟む。 49.55~49.64m: 風化・変質により、コア表面が粗く、脆弱である。 49.64~50.50m: 傾斜40~50°の割れ目が1~3cm間隔で発達するほか、傾斜75°以上の高角割れ目が分布する。コア採取時に乱し、径1~5cmの細片状を呈する。	0																																																																							
																																																																															Eg	VIg	dg	δ	3
																																																																															Cg	Vg	cg	γ	2
																																		Dg																																																	
																																					+																																														
																																																																			Eg	VIg	dg	δ	3												
																																																																			Cg	Vg	cg	γ	2												
																																																																								Dg											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	岩級区分	標準貫入試験			原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
													コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD [%]															
		28.65	50.50	花崗斑岩	褐灰	Cg	Vg	Cg	γ	2		CL'																		
51		29.31	51.43	コア欠如							50.50~51.43m: コア欠如																			
52				花崗斑岩	褐灰	Dg	Vg	Cg	γ	3	51.43~52.36m: 傾斜55~75°の割れ目が0.3~2cm間隔で発達し、細片~岩片状を呈する。全体にやや変質し、長石類は緑灰色化し、灰色を帯びる。 51.89~51.92m: 傾斜40°で幅17mmの緑灰色シルト・細礫混じり砂を挟む。																			
						Dg	Vg	Cg	γ	2	52.36~52.92m: 傾斜25~50°の割れ目が0.5~5cm間隔で発達する。 52.50~52.52m: 傾斜20°で幅10~20mmの緑灰色の緑泥じり粘土を挟む。スライムの可能性が高い。																			
53				花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	dg	δ	3	52.92~53.33m: 上位と比べて風化・変質が進み、軟質である。特に52.92~53.13m間は割れ目や原岩組織が不明瞭である。 53.33~53.35m: 上下端15°程度で幅20~25mmの変質部。上部は幅5~15mmの粘土質砂礫状。下部は幅5~15mmの砂・細礫混じり粘土を呈する。いずれも灰白色で、粘土状部は網目状に分布し、上端境界・下端境界は不明瞭である。原岩組織が認められ、せん断構造・変形構造は認められない。																			
54					褐灰	Bg	Vg	bg	β	2	53.35~53.82m: 傾斜25°及び45°の割れ目が5~20mm間隔で交錯し、細片状を呈する。全体に変質し、ほぼ全ての割れ目にフィルム状の白色粘土を挟む。 53.82~54.48m: 傾斜30~50°及び80°の密着割れ目が3~5cm間隔で発達する。割れ目沿いの酸化汚染は軽微である。																			
					明赤灰	Cg	Vg	γ	γ	2	54.48~55.40m: 上位に比べて割れ目沿いの褐色化が見られる。微細な割れ目も発達する。特に55.10~55.17mは微細な割れ目が密集し亀甲状を呈する。割れ目沿って風化が進む。																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状態	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (最大コア長 cm) (R, Q, D) [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)														
													0	10	20	30	40											50													
		56	花崗斑岩	明赤灰	Cg	Vg	cg	γ	2		CL'		0																												
													Dg	IVg	bg	δ	3	55.40~55.84m : 上下位に比べて風化・変質により、やや軟質となる。一部やや硬質の岩片が残留する。長石類は変質し、全体として赤色を帯びる。割れ目も上下位に比べて多くなり、亀甲状を呈する。全体にマンガン汚染が見られる。																							
				Cg	IIIg	Bg	2	55.84~56.62m : 上位に比べて風化による劣化は軽微となる。傾斜45°及び縦方向の割れ目が見られる。岩芯は新鮮部がみられるが、割れ目沿いは褐色化する。																																	
				Dg				IVg	Bg				2	56.38~56.62m : 割れ目沿いの細片化が見られる。																											
				Cg	IVg	Bg	2							56.62~57.42m : 上位と比べてやや変質を受け、割れ目及び割れ目周辺に暗緑色鉱物が見られる。																											
				Dg				Vg	cg				3	57.42~57.68m : 変質が進み、やや軟質となる。長石類の大半は緑泥石化する。																											
				Cg	IVg	Bg	2							57.68m : 割れ目沿いに最大幅2mmでマンガンが濃集し、周辺の微細な割れ目もマンガンに汚染される。																											
				Dg				Vg	cg				3	57.68~58.00m : 上位に比べて変質は軽微となる。																											
				Cg	IVg	Bg	2							58.00~58.50m : 上下位に比べて岩質は良好である。割れ目沿い及び岩芯の酸化汚染はほとんど見られない。																											
				Dg				Vg	cg				3	58.50~58.78m : 長石類は緑色鉱物に変質し、やや軟質である。傾斜30°程度の割れ目が主体である。																											
				Cg	IVg	Bg	2							58.78~59.05m : 上位と比べて変質は軽微であり、やや硬質である。																											
				Dg				Vg	cg				3	59.05~59.25m : 上下位に比べて変質し、やや軟質である。長石類は緑泥石化する。																											
				Cg	IVg	Bg	2							59.25~59.55m : 割れ目間隔は3cm以下で、微細な割れ目を伴い、亀甲状を呈する。59.90m付近までは、マンガン及び暗緑色鉱物を伴い、酸化汚染は軽微である。60.42~60.62mでは割れ目沿いに褐色化し、緑色鉱物脈が付着、または挟在する。全体に割れ目沿いの細片化が見られる。																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平露露)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ベット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
													N	値	0	10	20												30	40	50			
		35.83		花崗斑岩	赤灰	Cg	γ	2																										
61		60.65		明黄褐	Eg	δ	4		60.65~150.00m: アブライト																									
62				アブライト	褐灰	Dg	δ		●60.85~61.12m: 破砕部 粘土混じり角礫状部 (Hj) 上端40°、下端50°でともに直線的に連続。径5~30mmの硬さ「C」の角礫からなる。明黄褐~緑灰色を呈する。 61.12~63.47m: 傾斜30~40°及び70°の割れ目と、これらに斜交する微細な割れ目が見られ、一部亀甲状を呈する。連続する割れ目は全て酸化汚染を受け、褐色化する。岩芯には新鮮部が見られる。割れ目沿いに細片化、一部で細粒化する。																									
63				アブライト	褐灰	Cg	γ	2	62.97~63.09m: 割れ目が密集し脆弱である。下端には傾斜45°で幅1~2mの緑灰色粘土を挟む。																									
64				アブライト	褐灰	Bg	β		63.47~64.15m: 幅5~10cmの割れ目間隔で上位と比べて広い。割れ目沿いに細片化が認められる。																									
				アブライト	褐灰	Wg	bg		64.15~64.82m: 傾斜40~50°の割れ目が3~10cm間隔で分布し、これらと平行もしくは斜交する潜在割れ目が発達する。潜在割れ目は容易には分離しないが、ハンマーの打診でやや鈍い音を発する。																									
				アブライト	褐灰	Cg	γ	2	64.26~64.51m: 上端45°、下端60°程度で境されて変質が進む。																									
				アブライト	褐灰	Vg	γ	2	64.82~65.32m: 傾斜30~45°と70°の割れ目が1~3cm間隔で発達する。低角度割れ目沿いに変質し、白雲母を伴う。																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																		
															(N 値 ~ 深度) 図																																																																																																																	
66			* * * * *	アプライト							65.32m: 傾斜45° でフィルム状~幅5mmの灰白色砂混じり粘土を挟む。 65.32~65.86m: 風化・変質し、軟質化する。割れ目治いに脱色し細粒化する。一部に褐色化も見られる。有色鉱物層縁部も褐色化する。 65.67~65.86m: コア全体が脱色し、灰白~浅黄色を呈する。 65.85m: 傾斜34° で幅1mmの灰白色粘土を挟み、マンガン濃集を伴う。 65.86~66.06m: 不規則に潜在割れ目が発達し、ハンマーの打撃で分離しやすい。 66.06~67.38m: 傾斜30~50° の割れ目が2~15cm間隔で分布し、それと斜交する傾斜65° 以上の高角度割れ目が発達する。 66.06~66.61m: 高角度割れ目の多くは密着する。割れ目、密着割れ目のほとんどで褐色化が認められる。	0 50 100 5 (4) 10 (10) 10 (10) 9 (9) 10 (10) 17 (17)	CL'																																																																																																																			
67														褐灰	Cg	Vg	bg	γ																						2			66.86m: 傾斜45° で幅15mmが脱色し、軟質化する。 66.90m: 傾斜45° で幅1mmの淡黄褐色砂混じりシルトを挟む。	10 (10)	CM'																																																																																			
68																																														褐灰	Cg	IVg	cg	δ																			3			67.38~67.51m: 上端35°、下端20°で囲まれ、風化・変質を強く受け、指圧でほぐせるほど軟質である。 67.51~68.23m: 傾斜50~70° の割れ目が2~5cm間隔で交錯し、細片状を呈する。また、高角度の潜在割れ目も全体に発達する。割れ目治いに細片化する。	10 (10)	CL'																																																						
																																																																											69			黄灰	Dg																				VIg	cg	δ	3		68.23~68.33m: 網目状に変質粘土脈が分布する。下端境界は不明瞭である。割れ目跡は残る。	9 (9)	CL'																						
																																																																																																											69			黄灰	Eg																	
																																																																											69			褐灰	Dg																				Vg	cg	δ	3		69.96~70.00m: 傾斜75° 以上の高角度変質部で指圧で容易に崩せる。全体にマンガンを伴う。																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) /孔壁保護	コアチップ /ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																			
															(N値~深度) 図																																																																																																																																		
71	アプライト	褐灰	Vg	Dg	VIg	δ	3	γ	3	2	70.03~70.33m: 割れ目が多く、それに沿って割れるため原岩組織は不明瞭となる。全体に灰白色粘土細脈が分布し、やや軟質となる。一部は指圧で崩せる。 70.03~70.14m: マンガンが濃集する。 70.16m: 傾斜70°の割れ目を確が横断する。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 70.33~70.88m: 傾斜40°程度の割れ目が卓越し、0.5~4cm間隔で発達する。割れ目が密集するところでは変質がやや進む。 70.88~71.05m: 上位と比べて風化・変質し、軟質化する。 70.88~70.93m: 上位はコア昇降により不明、下端は傾斜45°で変質で指圧で変形するほど軟質化し、網目状粘土が発達するが、原岩組織は認められる。 71.32~71.79m: 上下位に比べて変質が進み、コアの表面は粗い。	CL'	0	10	20	30	40	50																																																																																																																															
																																						72	アプライト	褐灰	Vg	Dg	VIg	δ	3	γ	3	2	71.79~72.14m: 傾斜40~60°の割れ目が交錯し、一部細片状となる。割れ目沿いに細粒化し、酸化・マンガン汚染も認められる。 72.14m: 傾斜40°で幅1~2mmの灰~緑灰色砂泥じりシルトを挟み、白雲母を伴う。 72.14~72.90m: 傾斜20~30°の割れ目が1~10cm間隔で発達する。割れ目沿いに岩質劣化する。 72.70~73.00m: 傾斜80~90°で幅1~2mmの石英脈を挟む。 72.90~73.53m: 傾斜50°及び70°以上の高角度割れ目が5~10cm間隔で発達する。 73.00~73.13m: やや変質し、脱色する。 73.13m: 傾斜40°の割れ目は褐色化し、周囲も斑状に褐色化する。	CM'	0	10	20	30	40	50																																																																																									
																																																																												73	アプライト	褐灰	Vg	Dg	VIg	δ	3	γ	3	2	73.53~73.74m: 傾斜40°の割れ目が1~5cm間隔で発達し、割れ目沿いに変質する。割れ目面はオリブ灰色を呈し、白雲母を伴う。 73.62~73.63m: 傾斜40°で幅10mm程度が変質により緑灰色を帯びる。有色鉱物は褐色化し、全体に軟質化する。 73.74~74.95m: 傾斜40~50°の割れ目が2~15cm程度の間隔で発達する。割れ目面はわずかに緑灰色化するが、岩芯は新鮮である。	CM'	0	10	20	30	40	50																																																			
																																																																																																																	74	アプライト	褐灰	Vg	Dg	VIg	δ	3	γ	3	2		CL'	0	10	20	30	40	50														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
															(N 値 ~ 深度) 図																										
															0 10 20 30 40 50																										
											75.24~75.91m: 傾斜40°及び75°程度の割れ目が発達し、それらと斜交する潜在割れ目が分布する。割れ目及び潜在割れ目沿いに岩質劣化し、上下位と比べてやや脆弱である。 75.35m: 傾斜35°の割れ目沿いに幅8~20mmが土砂状を呈する。コア採取時に細粒分を一部流失する。																														
76											75.91~77.91m: 傾斜40~60°の割れ目が5~20cm間隔で分布し、割れ目沿いに脱色する。割れ目面はオリブ灰色を呈し、白雲母を伴う。わずかに黄鉄鉱も付着する。 76.27m以深は、潜在割れ目が少なくなる。 76.65m: 傾斜50°で幅3~5mmの石英脈を挟む。																														
											77.38m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が濃集して晶出する。																														
77											77.91~78.25m: 傾斜40~60°の他、不規則な高角度割れ目が発達し、細片状を呈する。割れ目沿いに細片化や脱色が認められる。																														
											78.25~79.14m: 傾斜20~40°の割れ目が2~10cm間隔で発達する。割れ目面は褐色化もしくは緑灰色化し、多くの割れ目に白雲母を伴う。割れ目沿いに細粒化し、一部流失しているため割れ目のかみ合せが悪い。																														
78											79.14~79.79m: 傾斜40~50°の割れ目が1~3cm間隔で発達する。割れ目沿いに脱色・細粒化が進む。コア採取時に細粒物を流失する。 79.42m: 傾斜20°で幅5~10mmの灰色の石英脈を挟む。																														
											79.64~79.79m: 割れ目沿いの褐色化が目立つ。 79.77m: 傾斜40°、幅6mmで灰白~暗褐色のシルト質砂状に変質するが、硬質である。 79.79~82.13m: 傾斜40~50°の割れ目が3~8cm間隔で分布する。割れ目面の一部はオリブ灰色を呈し、白雲母を伴う。割れ目沿いに脱色する。																														
79																																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																												
														0	10	20	30	40												50																											
81			* * * * *	褐灰						80.63~81.47m: 傾斜70°以上の高角割れ目が発達する。割れ目は凹凸し、風化・変質、挟持物は認められない。	CM'																																														
82										81.25m: 傾斜40°の割れ目に幅1~2mで黄鉄鉱が付着する。																					81.40~81.76m: 傾斜30~50°の割れ目が交錯し、コアは一部薄片状を呈する。割れ目沿いに細片化し、コアのかみ合せが悪い。	81.60m: 傾斜50°で幅2~5mmの石英脈を挟む。	81.99m: 傾斜45°で幅1mmの石英脈を挟む。	82.13~83.59m: 上位と比べて割れ目が少ない。傾斜40~50°の割れ目が分布する。割れ目は鉄灰~オリーブ灰色を呈し、白雲母、黄鉄鉱の付着が認められる。割れ目及び潜在割れ目沿いに脱色する。	82.33m, 82.36m: 傾斜40°で幅1~2mの石英脈を挟む。	CH'																					
83										82.88~83.03m: 傾斜30~40°の割れ目が密集し、割れ目沿いの一部で細片化する。白雲母、黄鉄鉱の付着が目立つ。																					83.59~83.88m: 傾斜30~50°の割れ目が4~10cm間隔で発達し、不規則な高角度の潜在割れ目が分布する。上位と同様に割れ目沿いの脱色が認められるが、より明確に認識できる。	83.88~84.54m: 上位より割れ目が少なく、傾斜45°の割れ目を主とする。	84.16~84.45m: 傾斜70°以上の高角度割れ目が認められるが、連続性が悪い。	84.54m: 傾斜45°の割れ目面に柱状の石英の微晶が晶出する。	84.54~85.14m: 割れ目が多くなり、割れ目沿いに細片~細粒化する。																						CL'
84										84.83m: 傾斜40°の割れ目にフィルム~幅1mmの方解石脈を伴う。																										84.83~85.06m: 割れ目間隔1~2cm程度と密になり、上下位と比べて変質が進み、やや軟質となる。	84.91~84.94m: 傾斜45°で幅25mm程度の変質し、灰白色粘土が網目状に分布する。																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
															0	10	20	30	40												50									
91			アブライト					IV _g	β	2	90.08~90.56m: 傾斜45° 程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。	1	CM'																											
								V _g			90.44m: 傾斜45° で幅3~8mmの石英脈を挟む。	(1)																												
								IV _g			91.08~91.13m: 細かい割れ目が発達し、変質も認められ、細礫状を呈する。 91.13m: 傾斜40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	9																												
92								B _g			B _g	91.48~91.63m: 傾斜10~50° の割れ目が多く、主に岩片状~礫状を呈する。 91.53~93.00m: 傾斜85~90° で幅5~10mmの石英脈が連続して分布する。		(6)																										
								III _g			92.13m: 傾斜40° の割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出する。	(4)																												
93							IV _g				93.64m: 傾斜40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	(6)																												
94							C _g V _g c _g				94.10~94.63m: 傾斜10~45° 程度の割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。 94.24m: 傾斜45° で幅1~2mmの灰白色砂質粘土を挟む。 94.34m、94.37m: 傾斜40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	(7)	CL'																											
							B _g IV _g b _g																																	

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級	区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コア チップ ノズル	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
																(N	値)	図																		
96			✱								95.07~96.03m: 傾斜10~50° の割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。	0																										
																																	IVg	bg	2			
																																	VG					
																																	Bg	cg				
IVg																																						
97			✱								96.38~96.54m: 傾斜45° 程度の割れ目が発達し、主に礫状を呈する。 96.44~96.64m, 96.80~96.97m: 変質が認められ、やや軟質である。 96.54~96.64m: 細かい割れ目が発達し、細礫状を呈する。	5																										
																																				VG		3
																																				Dg	dg	
																																				Bg	cg	
Dg																																						
98			✱								97.50~98.09m: 傾斜45~70° の割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。	10																										
																																			Bg	IIIg	β	
																																			Cg			
																																			Bg	IIIg		
VG																																						
99			✱								98.28~100.40m: 不規則な割れ目が多く、岩片~礫状を呈する。	8																										
																																		Bg	IVg	2		
																																		VG	bg			
																																		Bg	IVg			
IVg																																						
			✱								99.61~99.66m: 細かい割れ目が多く、変質が認められ、やや軟質である。	9																										
																																			Bg	IVg		
											99.94m: 傾斜25° で幅5mmの橙色のかり長石が脈状に分布する。	9																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																			
															0	10	20	30	40												50																		
101				明褐灰				Bg Vg bg			2	0																																					
								Dg Vg dg			3																								100.40~100.52m: 細かい割れ目が発達し、変質を受け、やや軟質で、礫状~土砂状を呈する。														
								Bg Iv bg			2																																						
								Dg Vg cg Vg dg			3																								100.75~101.03m: 変質が明瞭で、やや軟質である。 100.90~101.03m: 細かい割れ目が発達し、ほぼ土砂状を呈する。														
102				アブライト							β	0																									CL'												
																																						Cg Vg bg	2	●101.47~101.52m: 破碎部 101.47~101.50m: 粘土質砂状部 (Hb) 傾斜25°で直線的に連続。下端に灰白色のフィルム状粘土を伴う。径2~5mmの岩片を含む。変質が進み、灰白色を呈する。幅30mm。 101.50~101.52m: 粘土混じり砂礫状部 (H1) 上端25°、下端20°で直線的に連続。径20mm以下の岩片主体。灰白~明褐色を呈する。幅20mm。 102.11~103.92m: 径1~3cm程度のかり長石の大型斑晶が目立つ。									
																																						Bg Iv bg	2										
103				明褐灰								0																																					
																																								Dg Vg dg	3	102.55~102.94m: 傾斜10~50°の割れ目が多く、岩片~細礫状を呈する。 102.94~103.11m: 細かい割れ目が発達し、緑色に変質し、礫状~土砂状を呈する。一部灰白色粘土を脈状に伴う。 103.11~103.53m: 径0.5~10mm程度の灰色の長石の斑晶が目立つ。 103.11~103.93m: 傾斜20~60°の割れ目が多く、傾斜5~10°の潜在割れ目が発達する。全体に弱く変質する。							
104				褐灰								0																																					
																																										Cg cg							
104				褐灰								0																																					
																																													Dg Vg dg				
																																													Cg cg				
104				褐灰								0																																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	(標準貫入) 試験				原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	給転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)	排水量 (L/分)															
														(N値~深度) 図	(N)	(Q)	(D)																									
106				褐灰	Bg	Vg	bg	2																																		
					Eg	Vg	dg	4		●105.54~105.61m: 破砕部シルト混じり砂礫状部 (Hj) 上端45°, 下端45° ともに直線的に連続。径30mm以下の岩片主体で灰白色粘土が脈状に分布する。変質が著しく、オリブ灰色を呈する。																																
					Bg	Vg	bg	2		105.61~107.12m: 傾斜30~50°の割れ目が多く、主に岩片状~礫状を呈する。																																
					Bg	Vg	cg	3		106.22~106.34m: 傾斜55°の割れ目が卓越し、割れ目には白色鉱物が晶出し、割れ目周辺に変質が見られる。																																
						Bg	Vg	cg	2		106.48~106.49m: 傾斜15°, 傾斜50°の割れ目に幅3~6mmの暗緑灰色の粘土質砂を挟み、白色鉱物を伴う。																															
107				アブライト	明褐灰	Dg	Vg	dg	3		106.69~106.69m: 傾斜55°の割れ目に灰白色砂・細礫混じり粘土を挟む。																															
						Dg	Vg	cg	2		106.78~106.83m: 傾斜15°のドレイト脈を挟む。やや基質が粗粒で方解石の細脈が見られる。アブライトとの境界は明瞭である。アブライトよりは軟質である。高角度の割れ目にも貫入している。																															
						Dg	Vg	cg	3		106.78~106.80m: 傾斜50°のドレイトの変質部で、暗緑灰色の粘土質砂・細礫状を呈する。																															
						Bg	Vg	cg	2		106.91~106.92m: 不規則な形状のドレイト脈で、106.83mのドレイト脈と高角度割れ目の細脈で連続する。																															
						Dg	Vg	cg	3		107.12~107.29m: 傾斜45~90°の湾曲した割れ目が多く、角礫状を呈する。高角度の割れ目沿いに変質が進み、シルト質砂礫状を呈する。																															
108			アブライト	明褐灰	Dg	Vg	cg	2		107.29~107.45m: 砂・細礫状を呈し、灰白色粘土脈が網目状に分布する。																																
					Dg	Vg	cg	3		107.30~107.31m: 傾斜55°で幅3~9mmの暗灰色変質部で砂状を呈する。幅1mm以下の暗灰色粘土を不連続に挟む。変質部に含まれる岩片に定向配列は見られない。暗灰色粘土は分散し、黄鉄鉱を伴う。																																
						Bg	Vg	cg	2		107.45~108.11m: 多方向の割れ目が多く、角礫状を呈する。割れ目沿いに緑色変質する。																															
						Dg	Vg	cg	3		107.81~108.11m: 高角度の割れ目沿いに変質が進み、シルト質砂礫状を呈する。																															
						Cg	Vg	cg	3		108.29m: 傾斜57°で幅1~2mmの灰白色の方解石脈を挟む。																															
109			アブライト	明緑灰	Ig	Vg	cg	4		108.33~109.16m: 全体に変質を受け、緑灰~明緑灰色を呈する。原岩組織はやや不明瞭である。																																
						Eg	Vg	dg	4		●109.16~109.46m: 破砕部																															
						Dg	Vg	cg	3		109.16~109.18m: 細礫混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜75°。明緑灰色を呈する。幅2~10mm。																															
						Dg	Vg	cg	3		109.18~109.30m: 粘土質礫状部 (Hb) 傾斜75°で直線的に連続。径2~30mmの礫主体で細粒部が分布する。変質が著しく、明緑灰色を呈する。幅60mm。																															
			アブライト	明緑灰	Cg	Vg	cg	2		109.30~109.32m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端75°, 下端80°。明緑灰色を呈する。幅10~20mm。																																
						Eg	Vg	dg	4		109.32~109.46m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端90°でやや波打って、下端80°で湾曲して連続。下端には幅1mmの白色粘土を伴う。径2~30mmの礫主体で細粒部が分布する。明緑灰色を呈する。幅60mm程度。																															
						Dg	Vg	cg	3		109.46~109.70m: 破砕部の下端側は変質を受け、にぶい橙色を呈する。109.46~112.49m: 傾斜30~50°の割れ目が多く、岩片状~細礫状を呈する。109.84m: 傾斜70°で幅1mmの白色粘土を挟む。																															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ ノベット	給 回 送 水 量 (kN・rpm) (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)	
															0	10	20	30	40										50
111			[Pattern]	明褐灰		Cg	cg	2			110.12~110.78m: 傾斜30~50°の割れ目が密集し、細礫状を呈する。	[Diagram]	CL'																
											110.80m, 110.85m: 傾斜50°で幅0~1mmの方解石脈を挟む。																		
											110.95~111.16m: 変質が著しく、暗緑灰色を呈する。礫状~細礫状コアからなり、フィルム状の白色粘土が網目状に分布する。																		
112			[Pattern]	アブライト		Dg	Vg	4			111.78~111.86m: 傾斜45°程度の割れ目が密集し、細礫状を呈する。一部白色粘土が網目状に分布する。	[Diagram]	CL'																
											111.80m: 傾斜45°で幅4~6mmの暗灰色砂混じり粘土を挟む。																		
											112.28~112.46m: 傾斜40~50°の割れ目が数mm~2cm間隔で密集し、変質する。																		
113			[Pattern]	褐灰		Bg	IVg	bg		β	111.78~111.86m: 傾斜45°程度の割れ目が密集し、細礫状を呈する。一部白色粘土が網目状に分布する。	[Diagram]	CM'																
											113.44~113.90m: 傾斜20~50°の割れ目が多く、岩片状~細礫状を呈する。																		
114			[Pattern]	アブライト		Cg	Vg	cg	3		113.52~113.82m: 全体に弱く変質する。	[Diagram]	CL'																
											113.58m, 113.64m: 傾斜46°, 48°の割れ目に幅1mmで黄鉄鉱が晶出する。																		
											114.42~114.65m: 傾斜75°で幅10~13mmの石英脈を挟む。																		
114			[Pattern]	アブライト		Bg	IVg	bg			114.66~116.33m: 割れ目が多く、岩片~礫状を呈する。	[Diagram]	CL'																
											114.66~116.33m: 割れ目が多く、岩片~礫状を呈する。																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コアラ形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
															(N値~深度) 図																							
							Bg				115.24~115.52m: 割れ目が密集し、主に礫状を呈する。	0			0	10	20	30	40	50																		
							Cg					7 (0)																										
							Vg																															
116											116.04m: 傾斜45°で幅1~2mmの灰色粘土を挟む。																											
							IVg					9 (0)																										
117											117.00~117.30m: 径5~10mmの橙色のかり長石、淡緑灰色の長石の斑晶が目立つ。																											
							Vg	Bg	β	2	117.37~117.58m: 割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。 117.48m: 傾斜45°、幅2~4mmで黄鉄鉱が晶出する。緑泥石、方解石を伴う。																											
							Bg	IVg				10 (10)																										
118											117.95~125.10m: 割れ目が多く、岩片状~細礫状を呈する。																											
												7 (0)																										
							Vg				118.83~118.92m: 主に細礫状を呈する。																											
119												7 (0)																										
											119.32m: 傾斜20°で幅1mmの灰白色粘土を挟む。																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)																																															
															(N 値 ~ 深度) 図																																																														
121			* * * * *																																																																										
122			* * * * *			Bg																																																																							
123			* * * * *			Bg	Vg	bg	β	2																																																																			
124			* * * * *			Bg																																																																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
														0	10	20	30	40												50			
126			アブライト	褐灰	Vg					125.30m~35° と 125.65m~30° の各割れ目面と割れ目周縁幅2~3cmが変質により暗緑色化する。後者の割れ目面には幅0.5mm以下の暗緑色粘土を挟み、若干の黄鉄鉱が晶出する。	CL'																						
				灰赤	Bg	cg					126.00~126.65m: コアは赤味を帯びる。特に、126.00~126.63m間では赤味が強い。 126.25~126.67m: 傾斜45° 前後の割れ目や低密着割れ目沿いに暗緑色化と赤褐色化部が互層状に分布する。粘土付着や粘土脈は分布しない。	CL'																					
127			灰褐	Vg				β 2		126.62m: 傾斜35° の割れ目に緑色粘土が付着し、微細な黄鉄鉱が晶出する。 126.80~127.04m: 傾斜35° と 60~70° の割れ目のいずれもが約1cm間隔で分布し交差する。径1cm前後の岩片状を呈する。割れ目の面はほぼ未風化で、粘土の付着もない。	CL'																						
128			褐灰	Bg	cg					127.63m: 傾斜45° で幅0.5mmの暗緑色粘土を挟む。径0.1~0.2mmの微細な黄鉄鉱が晶出する。 127.73~127.90m: 径1~3cm程度の石英、長石、カリ長石の斑晶が濃集する。 127.80~128.15m: 傾斜30~40° と 60~80° の割れ目が交差し、径1~3cmの硬質岩片状を呈する。粘土の付着はなく、劣化は認められない。	CL'																						
129			褐灰	Bg						128.58m: 傾斜40° で幅1mmの暗緑色粘土を挟み、幅0.5mmの白色・方解石脈を伴う。 128.60~128.90m: 概ね1~3cm間隔で低密着割れ目が多く分布し、ハンマーの軽打で細岩片化する。 129.00~129.08m: 傾斜60~80° と 20~30° の割れ目が交差し、径1cm程度に細片化する。 129.08~129.40m: 長さ3~6cmの短柱状コア中には低密着割れ目が1~2cm間隔で網状に分布し、ハンマーの打撃で径1~2cmに細片化する。 129.60m: 傾斜70° と 80° の割れ目が近接し、両割れ目で囲まれた範囲では径0.5~1cm程度に細片化する。粘土の付着、粘土脈は分布しない。 129.79~131.00m: 傾斜35~45° と、これと斜交~直交する傾斜10~40° の割れ目が分布し、径1~3cmの岩片状を呈する。粘土付着や粘土脈は分布しない。	CL'																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
														(N 値)	(図)																
131	85.57	131.00	* * * * *	アブライト	褐灰	Bg	Vg	β	2	130.16m: 傾斜35°の割れ目の一部が褐色に風化するが、劣化は伴わない。 130.16m以深では、径2~3mmの長石の一部が白濁化する。 130.50~130.54m: 傾斜45°の割れ目沿いに暗緑色化する。粘土化はないが、幅1~3mmの石英脈を伴う。			0	50																	
				コア欠如						131.00~132.00m: コア欠如																					
132	86.28	132.00	* * * * *	アブライト	灰褐	Bg	Vg	bg	β	2	132.00~133.46m: 割れ目と低密着割れ目が1~3cm程度の間隔で密に分布し、径1~3cm程度に岩片化した部分を多く含む。変質と風化による劣化はないが、133.46mの傾斜10°の割れ目には幅1mm程度の暗緑色粘土を挟む。 132.00~132.65mと133.10~133.30mは、径1~2cmの岩片状を呈する。			0	50																
133				コア欠如						133.57~134.00m: 割れ目沿いに長さ5mm前後の繊維状を呈する部分が多い。礫に粘土は付着しない。																					
134	87.69	134.00		コア欠如						134.00~135.00m: コア欠如																					
	88.40	135.00																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
														0	10	20	30	40												50					
136	88.75	135.50	[Pattern]	アブライト	灰褐	Bg Vg bg	β	2		135.00~135.50m: 傾斜10~30°の割れ目が1~2cm間隔で分布し、岩片状を呈する。割れ目に粘土付着や粘土脈の存在はない。	0 50 100	CL'																							
	89.11	136.00		コア欠如						135.50~136.00m: コア欠如																									
	89.46	136.50	[Pattern]	アブライト	灰褐	Bg Vg bg	β	2		136.00~136.30m: 径1~2cm程度の岩片状を呈する。岩片に粘土は付着しない。																									
	89.64	136.75		コア欠如					136.30~136.50m: スライムを多く含む。																										
137	89.64	136.75	[Pattern]	アブライト	灰褐	Dg Vg dg		3		136.50~136.75m: コア欠如。部分的に粘土状のものを含む。	0 50 100	CL'																							
	89.75	137.00							136.75~137.08m: 径1~2cmの岩片からなる。																										
138			[Pattern]	アブライト	灰褐	Bg Vg bg	β	2		137.08~138.42m: 全体に緑泥石化により緑色を帯びている。概ね1~3cm間隔で傾斜10~30°の割れ目と、これと斜交する傾斜40~50°の割れ目が発達する。微小の葉状脈が露出する。上記の両割れ目系の交差部の一部や、137.67~137.73mの傾斜45~50°の割れ目沿いでは、径1cm前後の礫状を呈し、暗緑色粘土が付着する可能性があるが、礫の回転や移動は見られず、定向配列もしていない。	0 50 100	CL'																							
										138.21~138.42m: 実質した割れ目密集部で原岩組織は認められる。割れ目には暗緑色鉱物が付着し、全体に緑色を帯びる。																									
										138.30~138.42m: 上位に比べて軟質化し硬さ「E」となり、細粒化する。脈状の粘土は伴わない。																									
										138.42~140.04m: 傾斜50~60°と、これと斜交する30°程度の割れ目が発達する。																									
139			[Pattern]	アブライト	灰褐	Bg Vg bg	β	2		138.63~138.66m: 上下位に比べて軟質で硬さ「E」となり、緑色を帯び細粒化する。脈状の粘土は伴わない。	0 50 100	CL'																							
										139.21~139.50m: 弱く変質し、割れ目沿いに緑色を帯びる。																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
													(N 値 ~ 深度) 図																			
141			[Pattern]	灰褐		Bg	Vg	2	140.04~140.33m: 傾斜5~30°の微細な割れ目が発達する。一部硬質部が残存するが、上下位に比べてやや軟質である。	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																			
142									Dg																						3	141.71~142.00m: 傾斜10~30°の割れ目が発達し、細片~細粒化する。岩芯の一部はやや硬質であるが、全体にやや軟質となる。
143									IVg																						β	142.48~143.53m: 割れ目沿いが細片~細粒化し、特に、142.85~143.03m、143.33~143.53mは割れ目が密集する。粘土状部は挟まない。
144									Bg																							
				赤灰	IVg	CM'																										
				灰																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
														0	10	20	30	40												50									
			[Pattern]	アプライト	赤灰	Vg	IVg			145.46~146.17m: 上位に比べて割れ目が多くなり、割れ目沿いの細片化が見られる。145.70~145.90m間には微細な割れ目も見られるが、連続性に乏しい。	CM'																												
146										Vg		146.17~146.71m: 上位に比べて割れ目が少なくなり、割れ目沿いの劣化は軽微で、一部の割れ目沿いに細片化が見られる。	CL'																										
										IVg		146.71~147.13m: 上位に比べて割れ目が多く、微細な割れ目が亀甲状を呈する。	CM'																										
147										Bg		147.13m: 割れ目に暗緑色の熱水変質脈を伴い、割れ目周縁は暗緑色を呈する。下層割147.20m付近までが脱色し、硬さ「D」に軟質化する。この間、微細な割れ目が発達する。																											
										bg		β 2					147.13~149.30m: 赤色を帯びる。傾斜50~70°の割れ目が卓越し、微細な割れ目が発達し、亀甲状を呈する。割れ目沿いの細片化、細粒化が見られる。																						
148										Vg			CL'																										
149										149.30~149.63m: 割れ目沿いの細片化、細粒化が見られ、一部やや硬質部が残存するが、上下位に比べて軟質である。																													
										149.63~150.00m: 軽微な変質を受け、緑色を帯びる。上位に比べて硬質である。微細な割れ目が見られる。149.80~149.85m: 傾斜40°、幅40mmで変質し、暗緑色の熱水変質脈を不規則に伴い、暗緑色を帯びる。上下位に比べて軟質で硬さ「D」となる。周囲の硬岩部との境界は明瞭である。																													
	99.01	150.00																																					

余白

H24-D1-3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
														0	10	20	30	40												50	
6	2.66	6.00	盛土	盛土	にぶい黄褐色					5.00~5.10m: 礫は孔壁から落下したコアである。 5.12m: 木片を含む。 5.25m付近に黒色の砂岩を含む。																					
	2.38	6.39								コア欠如																					
7	1.67	7.40	盛土	盛土	にぶい黄褐色					7.00m: 径30mmの黒雲母花崗岩の半クサリ礫を含む。 7.20~7.25m: 礫は孔壁から落下したコアである。																					
	1.42	7.75								コア欠如																					
8	0.97	8.38	盛土	盛土	にぶい黄褐色					8.38~8.73m: スライム 8.38~9.60m間は径10~30mmの花崗斑岩の硬質な亜角礫主体で、8.50mに径20mmの黒色砂岩礫も含む。8.60~8.73m間は中砂からなる。																					
	0.73	8.73								コア欠如																					
9	0.54	9.00	盛土	盛土	にぶい黄褐色					9.00~9.75m: スライム中砂からなる。9.66~9.75mには花崗斑岩の礫を含む。 9.35m付近に径5~10mmのモルタル片を多く含む。																					
	0.01	9.75								コア欠如																					
	-0.06	9.84	盛土	花崗斑岩	明褐色							D'																			

標尺	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)								
													(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																			
				花崗斑岩								D'																					
		-0.50	10.47									D'																					
		-0.52	10.50									D'																					
11				明褐色 花崗斑岩						10.47~10.50m: スライム 礫混じり砂質シルトからなる。 10.77~12.00m: 著しく軟質化するが、割れ目の大半は残留する。また、原岩組織も明瞭である。割れ目は傾斜40~60°と、これと斜交し直交する50~70°の2系統が見られ、割れ目とその周辺が風化で砂状化する部分もある。割れ目の一部はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。粘土脈は殆んど挟まない。		D'																					
		-1.59	12.00									D'																					
		-1.68	12.13									D'																					
12				花崗斑岩						11.90m: 傾斜45°の消滅しかかった割れ目沿いに断片的に緑泥石化により緑灰色化する。 12.00~12.13m: スライム シルト質砂からなる。 12.13~13.03m: 原岩組織や割れ目の大半は残留するが、コア全体が著しく軟質化する。傾斜30~40°の割れ目と低密着割れ目主体で、一部で60~70°の割れ目と斜交する。各割れ目沿いは砂状化する。一部はマンガン鉱染を受け黒褐色化が著しい。粘土化部はないが、12.13~12.17mは幅1~3mmの緑灰色粘土が網状に分布し、12.17m以深は割れ目の一部に幅1mm前後の粘土脈を挟む。いずれも軟質な粘土である。 12.57~12.61m: 上端45°、下端35°で緑泥石化により緑灰色を呈する。中央部に幅2mmの軟質な淡緑灰色粘土を伴う。 13.03~13.32m: やや硬質で割れ目はマンガン鉱染を受ける。 13.32~13.47m: 風化で砂状化している。 13.47~13.94m: 傾斜50°の割れ目が平行に複数分布する。岩片はやや軟質化するが、砂状化や粘土の挟入はない。一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化する。 ●13.94~14.06m: 破砕部 ●13.94~13.98m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端60°、下端55°とともに直線的でシャープに連続。径5~10mmの粘土化した岩片主体で、岩片間の基質 (砂主体) はマンガン鉱染で黒色化する。浅黄色を呈する。幅20~30mm。 13.98~14.00m: 粘土状部 (Ho-1) 上端55°、下端60°とともに直線的でシャープに連続。径1mm前後の石英粒を含む。軟質。浅黄色を呈する。幅10mm。 14.00~14.03m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端60°で直線的にシャープに連続。下端55°で凹凸している。径1mmの石英粒と径5mm前後の花崗斑岩の岩片を多く含む。硬質。浅黄色を呈する。幅20mm。 14.03~14.06m: 粘土状部 (Ho-1) 上端55°、下端60°で直線的に連続。軟質。浅黄色を呈する。幅10~15mm。 14.06~14.41m: 原岩組織は残留するが、割れ目は大半が消滅する。残存する14.30mの傾斜60°の割れ目のほか、岩片間を縦うように幅1~2mmの軟質な白~明黄褐色粘土が分布する。 ●14.41~14.52m: 破砕部 14.41~14.47m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端60°、下端60°とともに直線的でシャープに連続。大半が粘土化する。灰白~にぶい橙色を呈する。幅20~30mm。 14.47~14.48m: 礫混じり粘土状部 (Ho-2) 上端60°で直線的にシャープに、下端60°で波打って連続。径1~2mmの石英粒。径2~3mmや長さ5~10mm、幅2~3mmの扁平な花崗斑岩の礫を含む。軟質。灰白色を呈する。幅15~18mm。 14.48~14.52m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端60°、下端60°とともに直線的でシャープに連続。約60°の割れ目沿いに幅1~2mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む風化岩片からなる。明黄褐色を呈する。幅20mm。 14.52~22.47m: 比較的割れ目が少ない。16.48~20.08mと21.75~22.47m間は風化が弱い。これを除く区間はやや風化が進み軟質化する。全区間で粘土化や粘土脈の分布は少なく、変質は弱い。割れ目は傾斜10~40°が主体で、部分的にこれに交差する60~80°の割れ目や低密着割れ目が認められる。																							
13				にぶい黄橙								D'																					
				花崗斑岩								D'																					
14				にぶい橙								D'																					
				花崗斑岩								D'																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
														(N値~深度) 図																				
		16	花崗斑岩	にふい橙	Dg	cg	δ			16.17~16.28m: 割れ目沿いに風化・砂状化が進み、径10~30mmの礫状コアを呈する。	CL'																							
		17																													灰褐	Bg	bg	
		18		明褐灰	IVg	2					18.05~21.00m: 割れ目沿いに薄くマンガン鉱染を受ける。																							
		19			Cg	cg					19.10~19.22m: 割れ目沿いに薄く砂状化する。	CL'																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
															(N値~深度) 図																									
26				明褐灰			Vg Cg Dg Cg				25.29~26.97m: 傾斜50~70°の割れ目主体で、一部でこれと斜交~直交する50~60°の割れ目が見られる。上位に比べ風化は弱くなるが、一部の割れ目では薄く砂状化する。粘土化部はなく、数箇所割れ目に幅1~5mmの軟質粘土脈を挟む。 25.94m: 傾斜20°で幅20mmがマンガニ鉱染で黒褐色化する。 26.14m: 傾斜58°の割れ目の一部に幅1~5mmの軟質灰白色粘土が分布する。割れ目沿いは全体にマンガニ鉱染で黒褐色化する。 26.34m: 傾斜45°で幅0.5mmの軟質な灰白色粘土を挟む。 26.72m以深は上位に比べ、硬くなる(硬さ「C」)。 26.97~27.26m: 上端45°, 下端50°の割れ目間は風化で全体が軟質化する。粘土化や粘土脈は分布しない。 27.26~28.43m: 27.64m以浅はやや硬質であるが、それ以深は軟質化する。割れ目は残留し、傾斜40~60°のものが主体で同角度の低密着割れ目も多い。割れ目や低密着割れ目沿いは薄く砂状化することが多いが、粘土部や粘土脈の分布は少ない。 27.70m: 傾斜60°の割れ目沿いで、幅5mm程度は長石が粘土化する。 28.43m: 傾斜60°で幅1~2mmの軟質粘土脈を挟むが、マンガニ鉱染により褐灰色化し、粘土の色調は不明である。 28.43~29.31m: 風化のため割れ目の一部は消滅しかかっている。割れ目は上位と同様に傾斜40~60°のものが主体であるが、一部でこれらと斜交~直交する40~50°の割れ目も分布する。また、これらの低密着割れ目も多い。割れ目沿いに薄く砂状化するものも多いが、粘土化や粘土脈の分布は少ない。 28.57m・45°, 28.72m・55°の割れ目は幅2~3mmの軟質灰白色粘土脈を挟む。 29.31~29.95m: 上位と硬さはほぼ同程度であるが、割れ目は少なくなる。風化で割れ目が消滅していることが多い。 29.95~33.30m: 全体に風化により軟質化~著しく軟質化する。32.63m以浅では割れ目が残留し、一部の割れ目沿いが薄く砂状化するが、それ以深では割れ目は一部消滅し、割れ目や周辺部まで砂状化が進む。割れ目は傾斜20~40°とこれらに斜交~直交する50~70°の割れ目及び低密着割れ目が主体である。粘土化部や粘土脈の分布はわずかである。また、部分的に割れ目沿いにマンガニ鉱染を受け、黒褐色化する。	0 50 100		0 10 20 30 40 50																										
27				花崗斑岩			Dg Vg Cg				27.26~28.43m: 27.64m以浅はやや硬質であるが、それ以深は軟質化する。割れ目は残留し、傾斜40~60°のものが主体で同角度の低密着割れ目も多い。割れ目や低密着割れ目沿いは薄く砂状化することが多いが、粘土部や粘土脈の分布は少ない。 27.70m: 傾斜60°の割れ目沿いで、幅5mm程度は長石が粘土化する。 28.43m: 傾斜60°で幅1~2mmの軟質粘土脈を挟むが、マンガニ鉱染により褐灰色化し、粘土の色調は不明である。 28.43~29.31m: 風化のため割れ目の一部は消滅しかかっている。割れ目は上位と同様に傾斜40~60°のものが主体であるが、一部でこれらと斜交~直交する40~50°の割れ目も分布する。また、これらの低密着割れ目も多い。割れ目沿いに薄く砂状化するものも多いが、粘土化や粘土脈の分布は少ない。 28.57m・45°, 28.72m・55°の割れ目は幅2~3mmの軟質灰白色粘土脈を挟む。 29.31~29.95m: 上位と硬さはほぼ同程度であるが、割れ目は少なくなる。風化で割れ目が消滅していることが多い。 29.95~33.30m: 全体に風化により軟質化~著しく軟質化する。32.63m以浅では割れ目が残留し、一部の割れ目沿いが薄く砂状化するが、それ以深では割れ目は一部消滅し、割れ目や周辺部まで砂状化が進む。割れ目は傾斜20~40°とこれらに斜交~直交する50~70°の割れ目及び低密着割れ目が主体である。粘土化部や粘土脈の分布はわずかである。また、部分的に割れ目沿いにマンガニ鉱染を受け、黒褐色化する。	0 50 100		0 10 20 30 40 50																										
28				花崗斑岩			Dg Vg Cg				27.26~28.43m: 27.64m以浅はやや硬質であるが、それ以深は軟質化する。割れ目は残留し、傾斜40~60°のものが主体で同角度の低密着割れ目も多い。割れ目や低密着割れ目沿いは薄く砂状化することが多いが、粘土部や粘土脈の分布は少ない。 27.70m: 傾斜60°の割れ目沿いで、幅5mm程度は長石が粘土化する。 28.43m: 傾斜60°で幅1~2mmの軟質粘土脈を挟むが、マンガニ鉱染により褐灰色化し、粘土の色調は不明である。 28.43~29.31m: 風化のため割れ目の一部は消滅しかかっている。割れ目は上位と同様に傾斜40~60°のものが主体であるが、一部でこれらと斜交~直交する40~50°の割れ目も分布する。また、これらの低密着割れ目も多い。割れ目沿いに薄く砂状化するものも多いが、粘土化や粘土脈の分布は少ない。 28.57m・45°, 28.72m・55°の割れ目は幅2~3mmの軟質灰白色粘土脈を挟む。 29.31~29.95m: 上位と硬さはほぼ同程度であるが、割れ目は少なくなる。風化で割れ目が消滅していることが多い。 29.95~33.30m: 全体に風化により軟質化~著しく軟質化する。32.63m以浅では割れ目が残留し、一部の割れ目沿いが薄く砂状化するが、それ以深では割れ目は一部消滅し、割れ目や周辺部まで砂状化が進む。割れ目は傾斜20~40°とこれらに斜交~直交する50~70°の割れ目及び低密着割れ目が主体である。粘土化部や粘土脈の分布はわずかである。また、部分的に割れ目沿いにマンガニ鉱染を受け、黒褐色化する。	0 50 100		0 10 20 30 40 50																										
29				花崗斑岩			Dg Vg Cg				27.26~28.43m: 27.64m以浅はやや硬質であるが、それ以深は軟質化する。割れ目は残留し、傾斜40~60°のものが主体で同角度の低密着割れ目も多い。割れ目や低密着割れ目沿いは薄く砂状化することが多いが、粘土部や粘土脈の分布は少ない。 27.70m: 傾斜60°の割れ目沿いで、幅5mm程度は長石が粘土化する。 28.43m: 傾斜60°で幅1~2mmの軟質粘土脈を挟むが、マンガニ鉱染により褐灰色化し、粘土の色調は不明である。 28.43~29.31m: 風化のため割れ目の一部は消滅しかかっている。割れ目は上位と同様に傾斜40~60°のものが主体であるが、一部でこれらと斜交~直交する40~50°の割れ目も分布する。また、これらの低密着割れ目も多い。割れ目沿いに薄く砂状化するものも多いが、粘土化や粘土脈の分布は少ない。 28.57m・45°, 28.72m・55°の割れ目は幅2~3mmの軟質灰白色粘土脈を挟む。 29.31~29.95m: 上位と硬さはほぼ同程度であるが、割れ目は少なくなる。風化で割れ目が消滅していることが多い。 29.95~33.30m: 全体に風化により軟質化~著しく軟質化する。32.63m以浅では割れ目が残留し、一部の割れ目沿いが薄く砂状化するが、それ以深では割れ目は一部消滅し、割れ目や周辺部まで砂状化が進む。割れ目は傾斜20~40°とこれらに斜交~直交する50~70°の割れ目及び低密着割れ目が主体である。粘土化部や粘土脈の分布はわずかである。また、部分的に割れ目沿いにマンガニ鉱染を受け、黒褐色化する。	0 50 100		0 10 20 30 40 50																										